平成２８年度　自己点検・評価
報告書

平成 29 年 3 月

自己点検・評価委員会

まえがき

この自己点検・評価報告書は，自己点検・評価委員会の業務として，機関別認証評価の基準に基づき本校の自己点検・評価を行った結果を示すもので，今年度は基準 1～3 を対象としている．

なお，平成 29 年 1 月に自己点検・評価の概要と委員会からの提言を「H28 自己点検・評価結果報告書（案）」として岸徳光校長に報告し，企画会議で検討していただいた結果を平成 29 年 2 月に「H28 年度自己点検・評価結果提言に対する回答」として得ているが，本自己点検・評価は平成 29 年 1 月時点に実施したものであり，その後年度内に改善された点等についての加筆・修正は行っていない．

平成 29 年 3 月 17 日
自己点検・評価委員会
委員長　加藤雅也

ー　目次　ー

基準１　…　1
（１）観点ごとの分析　…　1
（２）優れた点及び改善を要する点　…　22
（３）基準１の自己評価の概要　…　22

基準２　…　23
（１）観点ごとの分析　…　23
（２）優れた点及び改善を要する点　…　56
（３）基準２の自己評価の概要　…　57
評価担当注記　…　58

基準３　…　59
（１）観点ごとの分析　…　59
（２）優れた点及び改善を要する点　…　111
（３）基準３の自己評価の概要　…　111

執筆担当者
基準１：沼田敦委員，樋口泉委員
基準２：鈴木俊哉委員，中村隆委員
基準３：柳川和徳委員，佐藤彰治委員

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の目的は，学則第 1 条に定められている（資料１－１－①－１）。また，平成 16 年度に設置された専攻科の目的は学則第 50 条に定められている（資料１－１－①－２）。これらは学校教育法第 115 条に適合している。学科及び専攻ごとの目的は，学則第１条および第 50 条に対応して，学則第７条の２（資料１－１－①－３）及び第 51 条の２（資料１－１－①－４）にそれぞれ定められている。なお，学科の改変に伴い平成 28 年４月より，従来の，機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科および建築学科の５学科編成より創造工学科の１学科となった。

本校が教育研究活動を実施する上での基本的方針を実現するために「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている（資料１－１－①－５）。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程（資料１－１－①－６），専攻科課程（資料１－１－①－７）それぞれに定められている。なお，学習目標は平成17年度の機関別認証評価において「準学士課程・専攻科課程でそれぞれ身に付けるべき能力について定められているが，学習目標・教育目標は準学士課程・専攻科課程で表記上は共通となっており，その具体的な程度の差が分かりやすいとはいえない。」というご指摘を受け，本校のPDCAサイクルに従って改善の議論を重ね，平成22年度に学校として最終決定し現在に至っている。また，本校の学習目標は日本技術者認定機構（以下，JABEE）の基準に対応する形で構成し，複数の目標の存在が学生に混乱を引き起こさないよう配慮している。

資料１－１－①－１

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第１章 本校の目的

第１条 本校は，教育基本法及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. ５）

資料１－１－①－２

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第 11 章 専攻科

第 50 条 専攻科は,高等専門学校における教育の基礎の上に,精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し,その研究を指導し,もって広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典　平成 28 年度学生便覧　P. 11）

資料１－１－①－３

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第３勝　学科、学級数、入学定員

第７条　学科、入学定員は、次のとおりとする。

学科	定員
創造工学科	１６０人

２　前項に規定する学科に、第２学年から次のコースおよび分野を設ける。

コース	分　野
スマートメカトロニクスコース	情報工学分野
	機械工学分野
エレクトロニクスコース	電気工学分野
	電子工学分野
建築デザインコース	建築学分野

３　学級の編成及び学級定員については、別に定める。

第 7 条の 2　創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。

2 各コース及び分野の教育上の目的は、別に定める。

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. ６）

資料１－１－①－４

「釧路工業高等専門学校学則」　（抜粋）

第 51 条の 2　各専攻の教育上の目的は, 次のとおりとする。

(1) 建設・生産システム工学専攻は, 機械工学, 建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し, 社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

(2) 電子情報システム工学専攻は, 電気, 電子, 情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ, これを活用した境界領域に関する知識を持ち, さらに, 応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. 11）

資料１－１－①－５

「釧路工業高等専門学校　教育目標」

(1) 人格をそなえ、自己を律する人物を育てる

(2) 広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる

(3) チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

（出典　平成 28 年度学生便覧　教育目標）

資料１－１－①－６

「釧路工業高等専門学校　学習目標」

学習目標

【準学士課程】(実践的・創造的技術者)

A:(技術者として社会に貢献するために)人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B:(地域・社会に貢献するために)地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C:(技術的課題を解決できるように)工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

E:技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように)継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

(出典　出典　平成 28 年度学生便覧　学習目標)

資料１－１－①－７

「釧路工業高等専門学校　学習目標」　（抜粋）

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）
A:(技術者として社会に貢献するために)人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につける。
B:(地域・社会に貢献するために)地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につける。
C:(多様な技術的課題を解決できるように)工学の幅広い基礎知識(数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学)を修得し、それらを応用する能力を身につける。
D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識(専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系)を修得し、それを応用する能力を身につける。
E:多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につける。
F:文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識(英検準 2 級以上またはそれに相当する能力)を身につける。
G:(技術の進展や社会の変化に対応できるように)日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。
（出典　平成 28 年度学生便覧　学習目標）

（分析結果とその根拠理由）

本校の目的は学校教育法第115条に沿って学則に定められており、「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程，専攻科課程それぞれに定められている。

これらのことから，高等専門学校の目的が，本校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第115条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであり，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

〈学生への周知の状況〉本校の目的，学科及び専攻ごとの目的が定められている学則は，全文が学生便覧に掲載されており，学生は常に読むことができる。また，学生便覧の最初の２ページには，教育目標，準学士課程及び専攻科課程の学習目標が掲載されており（資料１－２－①－１），学生は卒業（または修了）時に身に付けるべき能力について，常に注意することができる。これらの学習目標は学生玄関や各教室に掲示（資料１－２－①－２）しており，さらに入学時の新入生オリエンテーションの際，教務ガイダンスで学生便覧を用いて説明し（資料１－２－①－３），理解を促している。

また，各授業科目のシラバスには，当該科目の内容と学習目標との関連が示され，当該科目の学習で学習目標のどの能力を身につけるために勉強しているかが理解できる仕組みになっている（資料１－２－①－４）。シラバスは１回目の授業で学生に配布し，説明している。

〈教職員への周知の状況〉学生便覧は毎年教職員にも配布され，周知が図られている。中期目標・中期計画および年度計画には教育理念・教育目標・学習目標が掲載され，これらは年度ごとに教職員に周知している。また，学則や年度計画はホームページおよび年度ごとの学生便覧に掲載され，教職員はいつでもこれを見ることができる（資料１－２－①－５）。また，新任教職員研修では教務主事によるガイダンスが行われ，学習目標に関する周知と理解が図られている（資料１－２－①－６）。非常勤教員に対しては，非常勤教員懇談会が年１回開催され，配布資料に学習目標を掲載し，教務主事から説明している。今年度は１月下旬から２月上旬に開催が予定されている（資料１－２－①－７）。

資料１－２－①－１

「教育目標・学習目標（準学士課程）」　（抜粋）

校長　岸　徳光

教育目標

1．人格をそなえ、自己を律する人物を育てる。

2．広い視野を持ち、創造力豊かな技術者を育てる。

3．チャレンジ精神に富んだ人物を育てる。

学習目標

【準学士課程】（実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B：（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C：（技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し、それを応用する能力を身につける。

E：技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに、チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　平成 28 年度学生便覧）

資料１－２－①－１（続き）

「教育目標・学習目標（専攻科課程）」　（抜粋）

【専攻科課程】（高い課題設定・解決能力を備えた実践的・創造的技術者）

A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景、文化や価値観の多様性を理解し、地球的規模で社会問題や環境問題を考える応用能力、および技術が社会や環境に与える影響を認識し、技術者が社会に対して負っている責任を理解する応用能力及び技術者としての倫理観を身につけている。

B：（地域・社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる応用能力を身につけている。

C：（多様な技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学、自然科学、情報技術、設計・システム系、情報・理論系、材料・バイオ系、力学系、社会技術系の基礎工学）を修得し、それらを応用する能力を身につけている。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識（専門応用系、工学実験系、問題解決系、実務対応系）を修得し、それを応用する能力を身につけている。

E：多様な技術的課題を分析・総合し、解決するための計画をたて、その計画を実行して課題を解決するデザイン能力を身につけている。さらに、チームワークで仕事をする能力を身につけている。

F：文章、口頭、図表や視覚的な方法によって、効果的にコミュニケーションができる応用能力を身につけている。すなわち、日本語で論理的に記述し討論する能力、および簡単な論理的文章を英語で記述し、英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につけている。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）日本語だけではなく英語も使用して、継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につけている。

（出典　平成 28 年度学生便覧）

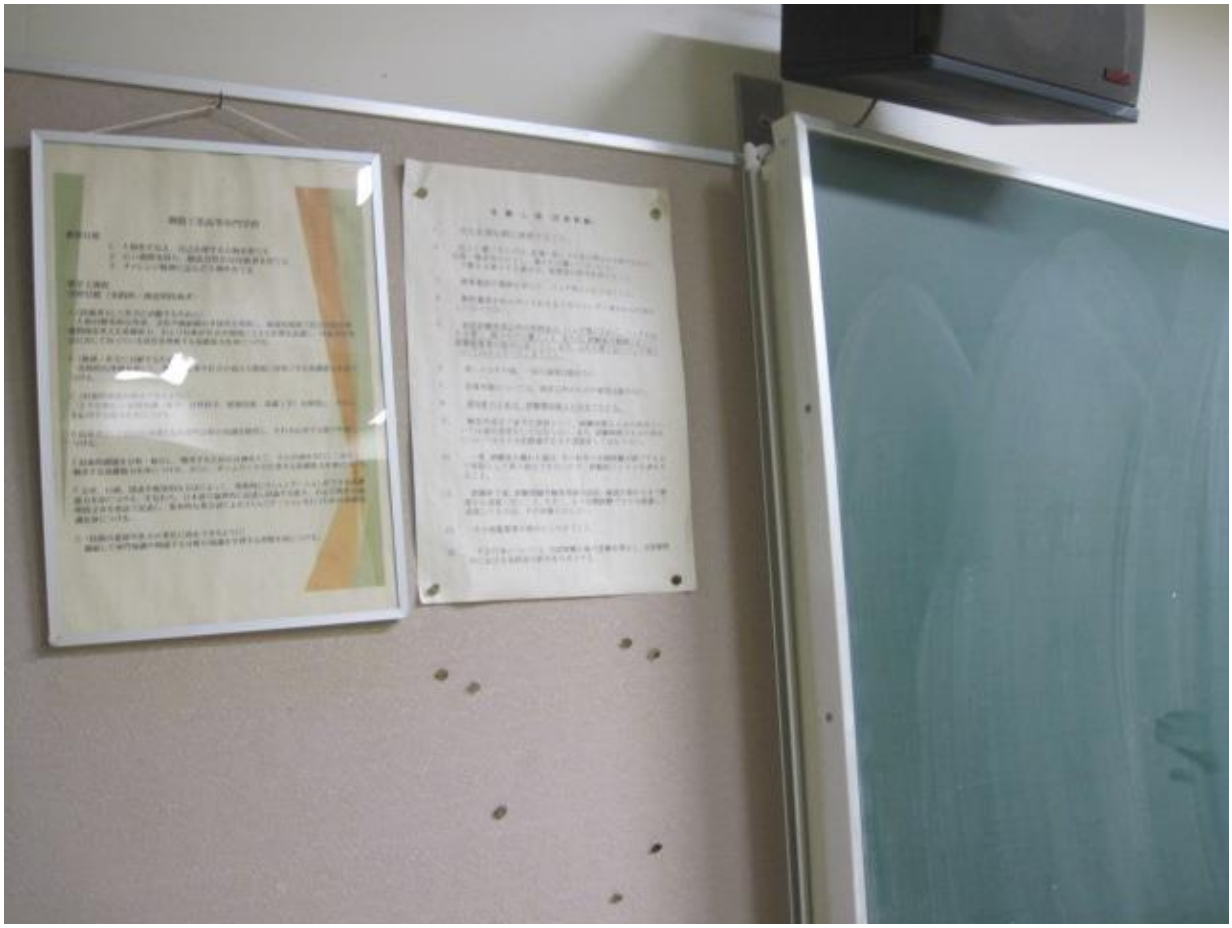
資料１－２－①－２

「釧路工業高等専門学校の学習目標（学生玄関掲示）」

（出典　総務課作成資料）

資料１－２－①－２（続き）

「釧路工業高等専門学校の学習目標（講義室掲示）」



（出典　総務課作成資料）

資料１－２－①－３

「平成 28 年度　新入生オリエンテーション実施要項」　（抜粋）

新入生オリエンテーション

中略

２．実施期日　　平成２８年４月６日（水）～８日（金）

中略

５．携 行 品　　しおり、筆記用具、学生便覧、上靴（７，８日に使用）

中略

・ 教務、学生生活オリエンテーションには学生便覧も持参すること。

中略

７．内　　容

②　教務オリエンテーション　　（６日　　３時限）　　教務主事

（以下省略）

（出典　平成 28 年度４月定例学生委員会　資料 4－1）

資料１－２－①－４

「平成 28 年度　シラバス」　（抜粋）

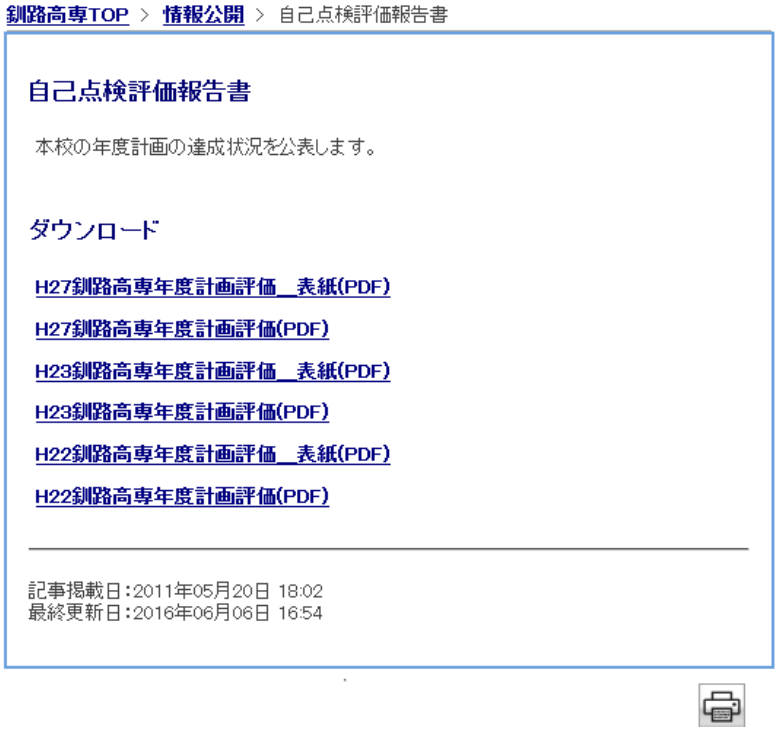
平成28年度

機械工学科			英語				
学年	第2学年	担当教員名	沼田敦				
単位数・期間		3単位	通年	週当りの開講回数	2回	必修	履修単位
授業の目標と概要		教科書とその他の自主教材を用い、標準的な単語・熟語および標準的な文法の知識の習得、標準的な文章の読解力の養成、基礎的な表現力の養成、基礎的なリスニング力の養成を目指す。これらにより、論理的な文章を記述したり、基礎的なコミュニケーションを行えるための標準的な英語力を身につける。 沼田は文法・英検等（週３時間）、吉田は教科書等（週２時間）をそれぞれ担当。 １０月実施の第２回の英語検定で準２級の試験を全員が受験する。				
		釧路高専目標	F:100%	JABEE目標	f		
履修上の注意（準備する用具・前提となる知識等）		教科書、辞書（紙辞書か電子辞書かは不問）、ノートは必携。教科書の内容を学習するとともに適宜補助プリントでの学習や適宜小テストを実施する。					
到達目標		単語・熟語、文法、読解、作文、リスニング、基礎的なコミュニケーションの各分野において、英語検定準２級レベルの英語力を身に着け、その力を随時発揮できる。					
成績評価方法		沼田は定期テスト70%，小テスト30%として成績を算出し、それを沼田60%、吉田40%として合計点を出す。その合計点×0.6、それぞれ100点満点に換算した「単語テスト」の成績×0.2、「英検テスト」の成績×0.2　の合計点に0.8を乗じてそれに「英検点」(英検準２級の２次合格者{２級以上の合格者も含む}に２０点、１次合格者には１７点、A判定には１４点、２５点以上のＢ判定には１０点、２４点以下のＢ判定には０点とする)を加え、さらにｅラーニングの結果による評価を加えたものを英語の合否判定成績とする。				
テキスト・参考書		教科書１：able English Grammar 24 Lessons（第１学習社） 教科書２：出る順パス単英検準２級（旺文社） 教科書３：英検準２級文で覚える単熟語３訂版（旺文社） 教科書４：ｅラーニングで身につける中級英語・前篇（ニュートンプレス） 教科書５：L.A. Hills Intermediate Steps to Understanding (Oxford University Press) 教科書６：L.A. Hills Advanced Steps to Understanding (Oxford University Press)					
メッセージ		語学は毎日の地道な取り組みよってのみ効果が表れます。授業はもちろん、予習・復習にしっかり時間を費やしてください。また、おっくうがらずに辞書を調べること。 英語の力をつけるには音読が重要です。テキストの英文をそらんじれるようになるまで音読を繰り返せば効果的です。					

（出典　平成 28 年度シラバス）

資料１－２－①－５

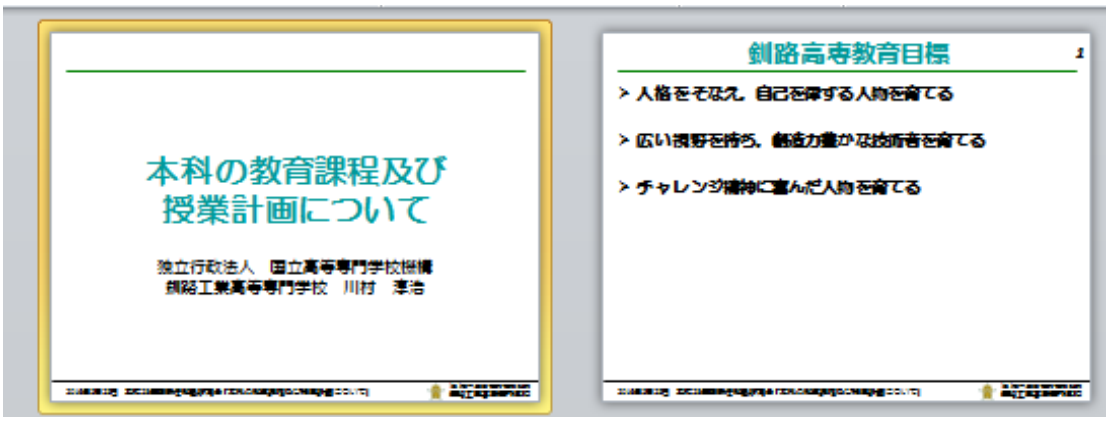
「釧路工業高等専門学校　年度計画」　（抜粋）

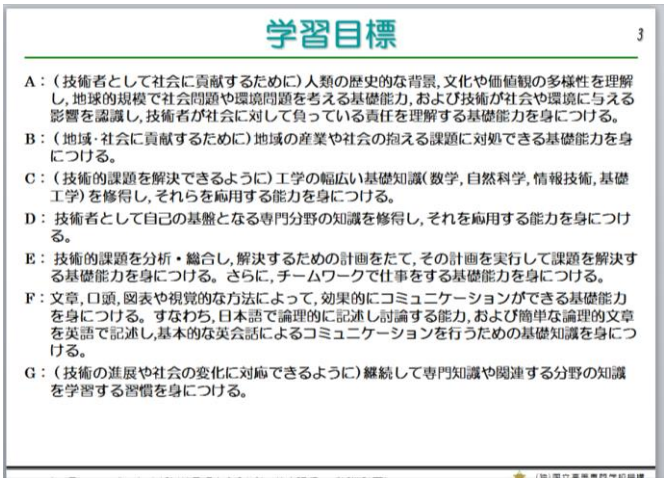


（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=84（釧路高専ホームページ））

資料１－２－①－６

「平成 28 年度　新任教員研修資料（教務主事）」　（抜粋）





学習目標　3

A：（技術者として社会に貢献するために）人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B：（地域･社会に貢献するために）地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C：（技術的課題を解決できるように）工学の幅広い基礎知識（数学，自然科学，情報技術，基礎工学）を修得し，それらを応用する能力を身につける。

D：技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける。

E：技術的課題を分析・総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F：文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G：（技術の進展や社会の変化に対応できるように）継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　平成 28 年度　新任教員研修資料）

資料１－２－①－７

（６）平成２８年度非常勤講師懇談会の実施について

委員長から，１月下旬から２月上旬の昼休みに２日間程度に分けて実施を予定している旨報告があった。なお，前期は特別時間割日に実施を予定していたが，出席予定者が１名のみであったため中止となった経緯の説明があり，そのため後期は過去にも実施した実績のある非常勤講師が多く授業を実施している曜日の昼休みに実施を予定した旨補足があった。

（出典　平成２８年度１２月定例教務委員会議事録）

（分析結果とその根拠理由）

教職員・学生に学生便覧を配布しており，周知している。学生に対しては，玄関・各教室への掲示などにより周知を図っている。また，各授業のシラバスに学習目標と授業内容との関連を示し学生が理解できる仕組みを整えている。新任教員研修においても学習目標を明記した資料を配布し，説明することで周知している。非常勤講師懇談会でも説明されている。

これらのことから，本校の目的は学校の構成員（教職員及び学生）に周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

本校ウェブサイトに教育目標及び学習目標（資料１－２－②－１），学生便覧及び学校要覧（資料１－２－②－２）を掲載し，広く社会に公表している。学校要覧には教育目標，課程ごとの学習目標，学科及び専攻ごとの目的を記載しており，中学校訪問における配布，学外教育研究機関への送付，企業への送付等，冊子として公表している。学校要覧の配布先と配布部数を資料１－２－②－３に示す。本校の学校案内では，教育目標が紹介されているのみで，学習目標の全文は紹介していないが，各学科の目的や概要を中学生にも理解できるような平易な文章で紹介しており，中学校訪問，オープンキャンパス，体験入学などの入試広報活動において配布し，公表している（資料１－２－②－４）。さらに，募集要項には各学科の教育上の目的を中学生にわかりやすい表現で記載しており（資料１－２－②－５），本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等に公表している。

資料１－２－②－１

「本校の教育・学習目標」　（抜粋）

釧路高専TOP > 学校概要 > 教育･学習目標

本校の教育･学習目標

教育目標

1. 人格をそなえ，自己を律する人物を育てる
2. 広い視野を持ち，創造力豊かな技術者を育てる
3. チャレンジ精神に富んだ人物を育てる

学習目標

【準学士課程】(実践的･創造的技術者)

A:（技術者として社会に貢献するために） 人類の歴史的な背景，文化や価値観の多様性を理解し，地球的規模で社会問題や環境問題を考える基礎能力，および技術が社会や環境に与える影響を認識し，技術者が社会に対して負っている責任を理解する基礎能力を身につける。

B:（地域･社会に貢献するために） 地域の産業や社会の抱える課題に対処できる基礎能力を身につける。

C:（技術的課題を解決できるように） 工学の幅広い基礎知識(数学，自然科学，情報技術，基礎工学)を修得し，それらを応用する能力を身につける。

D:技術者として自己の基盤となる専門分野の知識を修得し，それを応用する能力を身につける。

E:技術的課題を分析･総合し，解決するための計画をたて，その計画を実行して課題を解決する基礎能力を身につける。さらに，チームワークで仕事をする基礎能力を身につける。

F:文章，口頭，図表や視覚的な方法によって，効果的にコミュニケーションができる基礎能力を身につける。すなわち，日本語で論理的に記述し討論する能力，および簡単な論理的文章を英語で記述し，基本的な英会話によるコミュニケーションを行うための基礎知識を身につける。

G:（技術の進展や社会の変化に対応できるように） 継続して専門知識や関連する分野の知識を学習する習慣を身につける。

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=54
（釧路高専ホームページ））

資料１－２－②－２

「釧路工業高等専門学校　刊行物」　（抜粋）

釧路高専TOP > 学校概要 > 刊行物

刊行物

釧路高専の各種刊行物(高専だより、学校要覧、学生便覧等)を掲載しています。

高専だより

学校要覧

学生便覧

（出典　web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?cat_id=40（釧路高専ホームページ））

資料１－２－②－３

「学校要覧配布数一覧」　（抜粋）

平成２８年度　学校要覧　仕様

品　　名　　釧路工業高等専門学校要覧（平成２８年度版）
内容現在　　平成２８年５月１日
原　　稿　　平成２７年度版見本，データ，紙による
割　　付　　平成２７年度版見本を基本とする。
規 格 等　　Ａ４版縦　　カラー
　　表紙：つや消コート１３５K，中紙：つや消コート７０Ｋ
　　５２ページ（表紙・裏表紙を除く。）
製本方法　　平成２７年度版見本のとおり
部　　数　　５００部（昨年度から５０部削減）
そ の 他　　冊子の他，PDF データを CD-R 等により納品
　　表紙・裏表紙等のデザイン案をいくつか提示してもらう。
　　裏表紙裏面の位置図を刷新したいため，案を提示してもらう。
※　参考
配布先（予定）

【学内　１０７】（内訳は以下のとおり）
校長１，教員７５，部課長及び技術長４，課長補佐３
各係１０，教育研究支援センター（常勤）１１
保健室１，非常勤講師室１，寮当直室１

【学外　１３０】（内訳は以下のとおり）
文部科学省５（総務課広報室１，専門教育課１，会計課１，学生・留学生課１，
高等教育局専門教育課高等専門学校係長１）
高専機構本部４，高専機構国際交流室５，
道内国立大学等１０（北教大釧路，釧路公立大，はこだて未来大含む），
技術科学大学２，国立大雪青少年交流の家・国立日高青少年自然の家２
国立高専５４（合併高専についてはキャンパス毎），公私立高専６，
名誉教授１２（平成２３年度までの希望者７＋２４年度以降で再雇用除く５），
国会図書館５
※名誉教授（芳村 仁,枝澤 龍夫,笹島 春己,大宮 睦男,横平 昭,小林 一義,依田 有康
岸浪 建史,岩渕 義孝,佐治 裕,神谷 昭基,荒井 誠）
【その他　２６３】（内訳は以下のとおり）
企業請求用（学生課保管）１００，来客・行事配布用１００，
中学校訪問用３０，保存用・検収用２，予備３１

（出典　総務課作成資料）

資料１－２－②－４

「学校案内配布先及び配布部数一覧」

仕　様　書

１．品　名　　釧路工業高等専門学校　学校案内　冊子(平成 28 年度版)

２．目　的　　入学志願者確保方策の一つとして行うものである。中学生をターゲットに広く、釧路高専についてＰＲすることを目的とする。

３．部　数　　３，０００部

(内訳)

道内中学校	６００
オープンキャンパス	７００
体験教室	３００
学校説明会	１００
塾	９０
秋の中学校訪問	９５０
本校教職員	１４０
予備	１２０

４．規格　　A4 カラー　３２頁　マット　コート　紙　四六判　１１０ｋ

５．納　期　　６月下旬

（出典　学生課作成資料）

資料１－２－②－５

「釧路工業高等専門学校学生募集要項」　（抜粋）

スマートメカニクスコース

情報工学分野と機械工学分野を融合し，いろいろな機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術，高度情報化社会を支えるプログラミング技術，人間と機械間の情報をやり取りしたり情報の流れを制御するためのシステム技術，人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術，機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる，高度な技術者を養成します。本コースでは，それぞれ一つの専門分野を体系的に学び，その後もう一方の専門分野の知識を吸収することにより，目標とする技術者を養成します。

○情報工学分野

スマートメカニクスコースの中で，特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術者になるため，ネットワークの仕組み，プログラミング技術，データベース技術，人工知能（AI）技術など，情報工学の基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．コンピュータの動作原理やプログラミングに興味のある人
2．データベースやネットワークなどのIT の応用技術を修得したい人
3．実践的な技術や専門知識を学習し，IT 社会に貢献したい人

○機械工学分野

スマートメカニクスコースの中で，特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術者になるため，力学，設計・製図，材料・加工，メカトロニクス，熱・流体，情報処理技術など，幅広い分野を学びます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．機械が好きで，みずから新しい“ものづくり”に挑戦できる人
2．人のために役に立ち，地球に優しい“ものづくり”に関心のある人
3．グローバルな視点に立ち，安全な“ものづくり”に貢献したい人

エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し，電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス，電子制御と情報通信技術を学び，人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために，社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献出来る高度な技術者を養成します。本コースでは，まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び，その後それぞれの専門分野を体系的に学ぶことにより，目標とする技術者を養成します。

○電気工学分野

エレクトロニクスコースの中で，特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術者になるため，電気の基本から始まり，電気エネルギーの作り方や送り方，電気エネルギーを機械エネルギーに変える方法，機械やロボットの仕組みなど，幅広い分野を学びます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．発電，送電，新エネルギーに興味のある人
2．電波，放送，通信，画像処理に興味のある人
3．コンピュータ，ロボット，モータに興味のある人

○電子工学分野

エレクトロニクスコースの中で，特に「電子デバイス」「情報通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術者になるため，電磁気学，電気・電子回路，論理回路，光・電子デバイス，通信工学，プログラム言語などの電子工学に関する基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．ICT（情報通信技術）に興味があり，新しい情報伝達の仕組み（通信）を築きたい人
2．「もの」の仕組みに興味があり，いままでにない物質（半導体）を創りたい人
3．コンピュータで「もの」を測ったり（計測），自動制御によってロボットを自在に動かしたい人

建築デザインコース

○建築学分野

建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び，「使いやすさ」や「安全性」と共に，「空間の美しさ」を追求出来る高度な技術者を養成します。そのため，私たちは次のような人の入学を期待しています。

1．建物の形やつくり方に興味がある人
2．暮らしやすい環境に興味がある人
3．デザインすることが好きな人

（出典　釧路高専学生募集要項）

（分析結果とその根拠理由）

学生便覧，学校要覧およびウェブサイト掲載により学則上の目的を広く社会に公表している。学校要覧や学校案内は印刷物を企業，中学校，教育研究機関へ送付・配布している。さらに，本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等については，募集要項に学習目標を記載して公表している。

これらのことから，本校の目的は社会に広く公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

特になし。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準１の自己評価の概要

本校では，学校教育法第115条に基づき，学則第1条及び第50条に準学士課程及び専攻科課程の目的がそれぞれ明確に定められている。また，学科及び専攻科ごとの目的が学則第7条の2及び第51条の２に明確に定められている。

本校が教育研究活動を実施する上での基本的方針として，中期計画前文に本校の教育理念を掲げている。さらに，これを実現するために「養成すべき人材像」として３項目の教育目標を掲げている。これらの教育目標の下，学生が卒業または修了時に身に付ける学力や資質・能力を具体的に示すために，学習目標が準学士課程，専攻科課程それぞれに定められている。

本校の目的の周知の取組として，学生に対しては，学生便覧の配付や学習目標の玄関・各教室への掲示などにより周知を図っているほか，新入生オリエンテーションで説明し理解を促している。また，各授業のシラバスに学習目標と授業内容との関連を示し学生が理解できる仕組みを整えている。

学生便覧は教職員にも配布しており，周知している。新任教員研修においても学習目標を明記した資料を配布し，説明することで周知している。非常勤講師には，非常勤講師懇談会で周知している。年度計画を含めて教職員に周知することで教育理念，教育目標，学習目標を周知している。

本校の目的の社会への公表の状況として，本校ウェブサイトでは教育目標，学習目標，学生便覧，学校要覧をウェブサイトに掲載し，学則上の目的等を広く社会に公表している。学校要覧や学校案内は印刷物を企業，中学校，教育研究機関へ送付・配布している。さらに，本校入学を目指す中学生とその保護者，指導される中学校教諭等については，募集要項に学習目標を記載して公表している。

基準２　教育組織（実施体制）

（１）観点ごとの分析

観点２－１－①：　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，創造工学科１学科構成である．（資料２－１－①－１）。学科の構成，学生定員は高等専門学校設置基準に適合しており，同基準にあるように「専攻分野を教育するために組織」されている。

創造工学科の教育上の目的（資料１－１－①－３）として，「情報工学，機械工学，電気工学，電子工学，建築学の各専門分野を融合し，地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成する」ことが定められており，それぞれの専攻分野に関する十分な基礎力とその上にある応用力を身に付けることを掲げ，さらにそれぞれの専攻分野において社会から求められる能力を育成することを謳っている。これらは学則第１条に掲げる本校の目的（深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成する）に適合している。

資料２－１－①－１

「学科・学級・入学定員」　（抜粋）

第３章　学科，学級数，入学定員及び教職員組織

第７条　学科，入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	入学定員
創造工学科	160人

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. 6）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，創造工学科１学科で構成されている。学科の構成，学生定員は高等専門学校設置基準に適合しており，各学科の教育目的は，高等専門学校設置基準にある「専攻分野を教育するために組織」されている。

これらのことから，学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－②：　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科は，改編前の準学士課程の機械工学科・建築学科を基礎とする建設・生産システム工学専攻と，準学士課程の電気工学科・電子工学科・情報工学科を基礎とする電子情報システム工学専攻の２専攻で構成されている（資料２－１－②－１）。本校専攻科の目的（資料１－１－①－２前出）は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成する」ことを掲げている。これは学校教育法の規定に適合している。

建設・生産システム工学専攻の教育上の目的（資料１－１－①－４前出）は，「機械工学，建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し，社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成する」ことである。

電子情報システム工学専攻の教育上の目的（資料１－１－①－４前出）は「電気，電子，情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ，これを活用した境界領域に関する知識を持ち，さらに，応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成する」ことである。

各専攻は，いずれも本校専攻科の目的「高等専門学校における教育を基礎として深く高度な専門知識を教授し，研究を指導し，産業の発展に寄与する人材を育成すること」に適合している。

資料２－１－②－１

「専攻科入学定員学則」　（抜粋）

第５１条　専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入 学 定 員
建設・生産システム工学専攻	８人
電子情報システム工学専攻	12人

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. 11）

（分析結果とその根拠理由）

本校は改編前の準学士課程の機械工学科・建築学科を基礎とする建設・生産システム工学専攻と，準学士課程の電気工学科・電子工学科・情報工学科を基礎とする電子情報システム工学専攻の２専攻で構成されている。本校専攻科の目的は，「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導し，もって広く産業の発展に寄与する人材を育成する」ことを掲げている。これは学校教育法の規定に適合している。

これらのことから，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－③：　全学的なセンター等を設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には(１)情報処理センター，(２)教育研究支援センターがある。

(１)情報処理センターは，本校における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に教育，研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため設置された（資料２－１－③－１）。

情報処理センターは演習室２室および専攻科の計算機演習室を管理している（資料２－１－③－２）。各演習室の授業における利用状況を時間割で示す（資料２－１－③－３）。放課後の自学自習については，管理の面から17:00までを自由利用とし，17:00以降は教員の監督により延長利用としている。なお，専攻科の計算機演習室はカードキーによる入室管理を行っており，専攻科生は自由に利用できる。

（２）教育研究支援センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともにセンターに所属する技術職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施するため設置された（資料２－１－③－４）。

教育研究支援センターは技術職員11名が所属し，それぞれ分野ごとに組織化されている（資料２－１－③－５）。教育研究支援センターの業務内容は規程（資料２－１－③－６）により定められており，各学科の実験実習系科目の支援，卒業研究・特別研究の支援，教材作製等，本校の教育活動への支援が行われている。センターに所属する技術職員の実際の業務状況の例（資料２－１－③－７）を示す。実習工場は機械工学科の実習の他，卒業研究，特別研究や他学科学生による放課後利用も行っている（資料２－１－③－８，９）。

資料２－１－③－１

「情報処理センター規程」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校情報処理センター規程

（平成８年３月21日釧高専達第11号）

改正　平成９．４.21釧高専達第２号　平成19．３．27釧高専達第12号

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報処理教育及び電子計算機システムの利用を円滑にすると共に，教育，研究及び事務等に関する情報処理の高度化を図るため，本校に情報処理センター（以下「センター」という。）を置く。

（業務）

第２条　センターは，次の業務を行う。

一　センターの管理，運営に関すること。

二　電子計算機（以下「電算機」という。）による情報処理教育の実施に関すること。

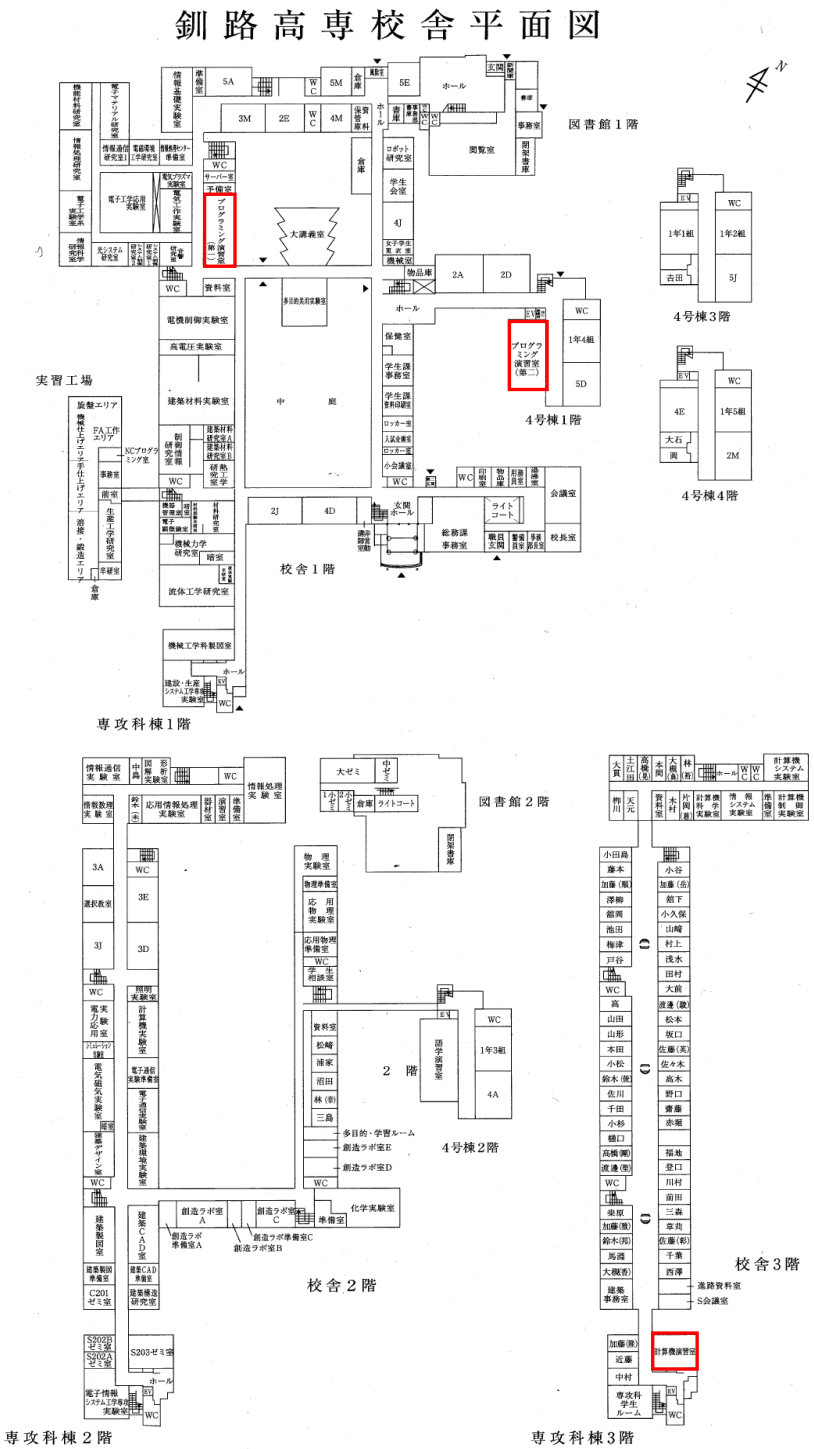
三　電算機による研究に関すること。

四　教育，研究及び事務等の情報処理に関する調査，研究，企画立案及び啓蒙に関すること。

（出典　釧路高専情報処理センター規程）

資料２－１－③－２

「情報処理センター各演習室」



（出典　平成 28 年度学生便覧　p. 105）

資料２－１－③－３

「情報処理センター各演習室別時間割」

第1演習室(情報処理センター内　プログラミング演習室)

	1 9:00 ｜ 9:45	2 9:50 ｜ 10:35	3 10:45 ｜ 11:30	4 11:35 ｜ 12:20	昼	5 13:10 ｜ 13:55	6 14:00 ｜ 14:45	7 14:50 ｜ 15:35	8 15:40 ｜ 16:25	9 16:30 ｜ 17:15
月	5M デジタルデザイン コンペ 高橋		3D プログラム言語I 渡邊(駿)			3M メカトロニクスI 赤堀				
火			2E 電子計算機 野口			5MED 卒業研究				
水								3M CAD 渡邊(聖)		
木						5MED 卒業研究				
金	4E 情報処理 高木		5D シーケンス制御 応用演習 松本			4D 数値解析 中村				

資料２－１－③－３（続き）

第2演習室(校舎4号棟1階　プログラミング演習室)

	1 9:00 ｜ 9:45	2 9:50 ｜ 10:35	3 10:45 ｜ 11:30	4 11:35 ｜ 12:20	昼	5 13:10 ｜ 13:55	6 14:00 ｜ 14:45	7 14:50 ｜ 15:35	8 15:40 ｜ 16:25	9 16:30 ｜ 17:15
月		2E 電気製図 佐々木･佐川						放課後　開放時間 14:45 ～ 17:00		
火	3A 建築CAD 西澤･大槻(香)		5E 電気設計 佐々木					放課後　開放時間 14:45 ～ 17:00		
水						2A 情報処理演習 加藤(雅)･桑原		放課後　開放時間 14:45 ～ 17:00		
木		4M 機械工学実習･実験III 高橋(剛)						放課後　開放時間 14:45 ～ 17:00		
金			5M 制御CAD 前田					放課後　開放時間 14:45 ～ 17:00		

資料２－１－③－３（続き）

専攻科棟3階　計算機演習室

	1 9:00 ｜ 9:45	2 9:50 ｜ 10:35	3 10:45 ｜ 11:30	4 11:35 ｜ 12:20	昼	5 13:10 ｜ 13:55	6 14:00 ｜ 14:45	7 14:50 ｜ 15:35	8 15:40 ｜ 16:25	9 16:30 ｜ 17:15
月	1KS アドバンスト コンピューティング 林(裕)									
火	2S 特別演習II 各教員									
水	1S ソフトウェア アーキテクチャ 野口		1KS 設計支援システム 千葉			1KS 人工知能特論 天元		1KS 創造特別実験I 前田・三森・佐藤(彰) 千葉・西澤・大槻		
木										
金	1K 構造解析I		1KS 数値計算特論 赤堀					1KS 多変量解析 天元		

（出典　情報処理センター平成 28 年度後期授業時間割表 ）

資料２－１－③－４

「教育研究支援センター規則」　（抜粋）

○釧路工業高等専門学校教育研究支援センター規程
（平成２１年６月２９日　釧高専達第６号）

（趣旨）
第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第12条第１項に基づき，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に教育研究支援センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）
第２条　センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともにセンターに所属する職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施することを目的とする。

（出典　釧路高専教育支援センター規程）

資料２－１－③－５

「教育研究支援センター　ウェブサイト」

（出典　Web サイト　http://www.kushiro-ct.ac.jp/ersc/（釧路高専ホームページ））

資料２－１－③－６

「教育研究支援センターの業務」　（抜粋）

（センター及び職員の業務）

第８条　センター及びセンターに所属する職員は，第２条に規定する目的を達成するため，相互に連携及び協力し，次に掲げる業務を行う。

一　学生の実験及び実習に関すること。

二　卒業研究，特別研究等に関すること。

三　教育教材作成に関すること。

四　教員の教育研究活動に関すること。

五　学校行事（高専祭等）に関すること。

六　実験室等の共通利用機器等の保守・管理等に関すること。

七　実習工場施設及び設備の管理運営等に関すること。

八　情報処理センター運営等に関すること。

九　公開講座，地域貢献及び産学連携等に関すること。

十　その他必要な業務

（出典　釧路高専教育支援センター規程）

資料２－１－③－７

「教育研究支援センター職員の業務状況」

平成28年度後期　教育研究支援センター　業務予定表

グループ	職名・氏名	月	火	水	木	金
機械・建築グループ	技術長・グループ長 的野　卓司	工学実習実験Ⅱ 3M	卒業研究 5M 1・2K特別研究	工学実習実験Ⅰ 2M	工学実習実験Ⅲ 4M 卒業研究 5M 1・2K特別研究	工学基礎 1学年
機械・建築グループ	技術専門職員 石塚　和則	工学実習実験Ⅱ 3M	卒業研究5M 1・2K特別研究	機械工学実習Ⅰ 2M	工学実習実験Ⅲ 4M 卒業研究5M 1・2K特別研究	1年 工学基礎
機械・建築グループ	技術職員 樋上　磨	機械工学実習・実験Ⅱ 3M	卒業研究 5M	機械工学実習・実験Ⅰ 2M	機械工学実習・実験Ⅲ 4M 卒業研究 5M	工学基礎 1年
機械・建築グループ	技術職員 江口　陽人	機械工学実習・実験Ⅱ	卒研	機械工学実習・実験Ⅰ	卒研	
機械・建築グループ	技術職員 吉田　周平		建築CAD 3A 工学実験 4A 卒業研究 5A		卒業研究 5A	工学基礎 1年生
電気・電子・情報グループ	副技術長 村上　誠一	ネットワーク運用と管理（ユーザ管理、ファイル管理、ネットワーク機器の管理、通信障害の対応、各種ネットワークサービスの運用と管理、セキュリテイの維持と管理、教育用システム管理他）				
電気・電子・情報グループ	副技術長・グループ長 高坂　宜宏	情報工学実験Ⅰ 3J 情報工学基礎 2J 情報工学実験Ⅱ 4J HR 2J 清掃 3J	コンピュータNWⅡ 4J 2S 特別演習Ⅱ 5J 卒業研究 S 特別研究	ソフトコンピューティング 5年 コンピュータNWⅠ 3J	情報工学基礎 2J 5J 卒業研究 S 特別研究	情報工学実験Ⅰ 3J プログラミング言語Ⅰ 2J 工学基礎 1年
電気・電子・情報グループ	技術専門職員 小清水　誠	デジタルデザインコンペ 5M プログラム言語Ⅰ 3D メカトロニクスⅠ 3M 電気製図 2E 開放時間 アドバンストコンピューティング 1KS	電子計算機 2E 卒業研究 5MED 電気設計 5E 開放時間 特別演習 2S	CAD 3M 情報処理演習 2A 開放時間 ソフトウェアアーキテクチャ 1S 設計支援システム 1KS 人工知能特論 1KS 創造特別実験Ⅰ 1KS	卒業研究 5MED 機械工学実習・実験Ⅲ 4M 開放時間	情報処理 4E シーケンス制御応用演習 5D 数値解析 4D 制御CAD 5M 開放時間 構造解析 1K 数値計算特論 1KS 多変量解析 1KS
電気・電子・情報グループ	小清水　誠	機構本部情報基盤整備部会業務　語学演習室・電気工学科演習室・建築CAD室維持管理 及び 各種サービスの管理(ユーザー管理・認証管理・ファイルサーバーの管理・Webサービスの管理・その他)・セキュリティ管理・各障害対策・COC+関係業務				
電気・電子・情報グループ	技術専門職員 二谷　聡志	信号処理Ⅱ 5J 図形処理 5J 情報工学実験Ⅱ 4J	卒業研究 5J	情報工学演習 2J	プログラミング言語Ⅲ 4J 数値解析 4J 卒業研究 5J	
電気・電子・情報グループ	技術職員 稲守　栄	電気工学実験Ⅳ 5E	卒業研究 5E	電気工学実験Ⅲ 4E	電気工学実験Ⅱ 4E 卒業研究 5E	工学基礎 1年
電気・電子・情報グループ	技術職員 横山　安弘	電子工学実験Ⅱ 3D マイクロコンピューター 5D 工学科題実験 4D	メカトロニクス 5EDJ 卒業研究 5D	創造工学 2D 電子工学実験Ⅴ 4D 電子工学実験Ⅲ 3D	電子工学実験Ⅰ 2D 電子工学実験Ⅴ 4D 卒業研究 5D	ハードウエア記述言語 5D シーケンス制御 5D 工学基礎 1年生
技術・技能補佐員、事務補佐員	技能補佐員（化学） 兼田　友紀 8:50～12:50	2M		2E	2A	2J 2D
技術・技能補佐員、事務補佐員	兼田　友紀	①1.2年の化学の授業に使用する教材・資料の印刷、複写及び整理。②帳簿・薬品の書類作成・整理・事務補助全般。③実験室の施設、器具及び薬品の点検と整理。 ④演示実験教材の作成補助、準備・後片付け。⑤2年生の化学実験の準備（薬品調合、実験器具の作成を含む）、実験中の安全管理及び指導補助、後片付け等				
技術・技能補佐員、事務補佐員	技術補佐員（物理） 川内　永子 8:40～14:25	①授業の準備・物理実験における準備・実験中の安全管理及び指導補助　②実験に関する後片付けと掃除 ③実験室の整理及び備品の維持管理　④印刷・複写　⑤パソコンによる実験データの入力 ⑥物品発注・実験室利用シート作成　⑦出前授業に関する準備　⑧エンジュニアクラブ作業準備 ・後片付け				
技術・技能補佐員、事務補佐員	技術補佐員（体育） 益山　史 11:15～18:00	体育 4J 体育 4A 体育 4E	体育 2M 体育 2D 体育 4M 体育 2A	体育 4D 体育 1年4組 体育 3J 体育 3E	体育 2E 体育 1年3組 体育 2J 体育 3A	体育 1年2組 体育 1年1組 体育 3D 体育 3
技術・技能補佐員、事務補佐員	事務補佐員（電気） 野坂　梢 9:30～16:15	実験指導書・試験問題等の印刷、製本及び各種保存資料の整理、管理　就職関連資料の整理と一覧資料作成、学生閲覧用資料の整理と管理、学科打合せ等の資料作成整理 学科の研究・実験用施設設備等の整理と管理　各実験室の清掃と整理整頓卒業関係・各種発表会資料の印刷と準備片付け				
技術・技能補佐員、事務補佐員	事務補佐員（電子） 細貝　洋子 9:30～16:15	授業および実験の準備、片付けの手伝い、補習・自学自習用資料等の印刷、管理。試験問題の印刷、管理、資料保管、答案の電子ファイル保存・分類、整理・保管管理。卒業研究資料に関する印刷、製本、管理およびコンタクト時間資料の分類、整理。就職関連の書類の受付、分類、パソコン入力等の資料管理。高専見学会、体験入学などの機材準備、資料準備、片付け。実験、研究で共用に用いる電子部品の仕分け整理、実験室の清掃。集中講義・特別講演などにおける日程調整、資料作成、保管。学科の事務に関わる備品の維持管理、消耗品等の経費作編に関わる円滑な運用。電子科独自の4・5年生を対象とした進路の手引き書の編集・作成、年度ごとの改定修正作業。公開講座、出前授業などの機材準備、資料準備、片付け。				
技術・技能補佐員、事務補佐員	事務補佐員（建築） 中尾由美子 8:30～15:15	建築学科内の雑用（物品発注・整理、学科教職員のコピー集計、授業の資料印刷、学科会議の準備、求人票の整理・HP入力・一覧の作成、郵便物の回収・発送手配、実習室の解錠および清掃、学科内部向けHPの加筆修正等 他） 同窓会事務局の仕事（会員の住所変更等の修正、郵便物の発送手配・回収 他） 学生課のお手伝い（求人情報の整理・HP入力、封詰め、アンケート集計 他）				
	備　考					

※本科 M 機械工学科、E 電気工学科、D 電子工学科、J 情報工学科、A 建築学科、 専攻科 K 建設生産システム工学、S 電子情報システム工学

（出典　教育研究支援センター作成資料）

資料２－１－③－８

「実習工場の卒研・特別研究での利用状況」

H23～27年度（5年間）　実習工場工作機械等使用願平均値

使用学年	専攻科	5	4	3	2	1	教職員
（人）	28	161.6	16.6	16.6	9.5	4	11.5
所　属	機械	電気	電子	情報	建築		
（件）	228	0	0	0.4	5.8		
研究室	流体	機力	機力（樋口）	熱工学	材料	制御	生産
（件）	41.2	26.6	17.6	29	30.8	33.6	8.7
使用機器	旋盤	立（マキノ）	立（ワシノ）	横フラ	形削り	平面研	卓上ボ
（件）	77.8	55.6	5.7	1.6	1	2.8	40.2
（時間）	210.8	169.2	12.8	6.2	2.6	3.15	45.7
	ラジアル	直立	アーク	ガス	日立	鋸盤	アマダ
	4	1.6	6.8	0.4	32.2	3	8.6
	4.7	1.5	16.3	0.6	24.2	4.1	12.2
	ラクソー	砥石切断	プラズマ	NC旋	MC	レーザー	両頭グラ
	18.0	7.4	0.0	5.2	11.2	18.4	9.0
	17.6	5.7	0.0	16.6	33.9	27.7	15.6
使用時間	卒研	実験	教職員	同好会	その他	合計	
（件）	162.2	0	7.8	49.8	25.8	245.6	
（時間）	337.7	0	7.4	117.1	46.4	508.6	

（出典　教育研究支援センター（実習工場）作成資料）

資料２－１－③－９

「実習工場利用状況」（時間割）

実習工場の利用状況（平成28）
後期

	月	火		水	木		金
1							
2	3M 工学実習・実験Ⅱ				4M 工学実習・実験Ⅲ		
3							
4							
5		5M 卒研	専攻科 特別研究	2M 工学実習・実験Ⅰ	5M 卒研	専攻科 特別研究	1年 工学基礎
6							
7							
8							
9							

2M　20名
3M　40名
4M　7名　（4班編成の1つの班が工場に来る）
5M、専攻科　（決まった人数が来ることはない）

（出典　教育研究支援センター（実習工場）作成資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校には全学的なセンターとして情報処理センター，教育研究支援センターが設置されており，それぞれの目的に沿った教育活動を行っている。

これらのことから，本校の全学的なセンターとして設置されている情報処理センター及び教育研究支援センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－２－①：　教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われているか。

（観点に係る状況）

本校教育の円滑な運営のために，企画会議，運営会議，教務委員会等を設けている（資料２－２－①－１）。教育面で重要な組織として教務委員会がある（資料２－２－①－２）。教務委員会は本校の準学士課程の教育全般，専攻科委員会は専攻科の教育全般に関する事項を審議している。さらに，教務委員会では，分野の意見の汲み上げ，アンケート調査，WGによる特別なテーマの集中審議など多岐にわたり，教員全体の意見集約に努めている（資料２－２－①－３）。教務委員会は，ほぼ月例で開催され，議事録は内部に公開されている（資料２－２－①－４）。教務委員会の審議結果は運営会議に報告し，学校の決定として実施される（資料２－２－①－５）。

資料２－２－①－１

「会議及び委員会」　（抜粋）

第６章　会議

（会議）

第１７条　本校に次の会議を置く。

一　企画会議

二　運営会議

三　教員会議

四　分野等会議

２　前項各号に定める会議に関する必要な事項は，別に定める。

第７章　委員会及び室

（委員会及び室）

第１８条　運営に必要な諸問題を審議するため，委員会を置き，委員会審議を通じて活動を行う。

２　前項に定める委員会に関する必要な事項は，別に定める。

第１９条　運営に必要な事項を実行するため，室を置く。

２　前項に定める室に関する必要な事項は，別に定める。

（出典　釧路高専運営組織規則）

資料２－２－①－２

「教務委員会規則」　（抜粋）

（設置）

第１条　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）に，校長の諮問機関として教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（審議事項）

第２条　委員会において審議する事項は，次のとおりとする。

一　学校行事等に関する事項

二　教育課程の編成及び実施に関する事項

三　入学，転学，転科，進級及び卒業に関する事項

四　授業評価に関する事項

五　教育内容及び教育方法等の改善のための研修に関する事項

六　教育環境の改善に関する事項

七　その他教務に関する重要事項

（組織）

第３条　委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

一　教務主事及び教務主事補

二　一般教育部門文系教員及び理系教員から各１名

三　分野教員から各１名

四　専攻長

五　学生課長

六　その他校長が必要と認めた者若干名

（出典　釧路高専教務委員会規則）

資料２－２－①－３

「教務委員会議事録」　（抜粋）

日 時 平成２８年４月１日（金）１３時３０分～１５時４５分

場 所 小会議室

出席者 １３名 欠席者 １名

１．報告事項

（１）学生の修学状況について（資料１）

委員長から，資料１に基づき報告があった。

（２）学生の移動状況について（資料２）

委員長から，資料２に基づき報告があった。

（３）出席優良者表彰について（資料３）

委員長から，資料３に基づき報告があった。

なお，委員から，退学者と原級者の氏名が記載されているとの指摘があり，修正することとなった。

（４）教室の割振について（資料４）

委員長から，資料４に基づき報告があった。

なお，今年度より１年生が４クラスとなったことで空き教室となった教室を，選択教室２として運用する旨，併せて説明があった。

（５）平成２８年度外国人留学生について

委員長から，レジメに基づき報告があった。

（６）非常勤講師の任用について（資料５）

委員長から，資料５については前年度委員会において審議了承済みではあるが，委員会のメンバーが入れ替わっているので，再度提示する旨説明があった。

（７）原級学生への説明会及び未修得進級学生への説明会について（資料６）

委員長から，資料６に基づき報告があり，特別時間割の期間に教務主事から説明する旨の説明があった。

（８）年度当初日程について（資料７）

委員長から，資料７については前年度委員会において審議了承済みではあるが，委員会のメンバーが入れ替わっているので，再度提示する旨説明があった。

（９）その他

特になし

資料２－２－①－３（続き）

２．審議事項

（１）始業式について（資料８）

委員長から，資料８に基づき説明があり，審議の結果，了承された。

（２）５月月間行事予定（案）について（資料９）

委員長から，資料９に基づき説明があり，審議の結果，了承された。

なお，委員長から，追記したい事項がある場合には，修学支援係へ連絡いただきたいとの依頼があった。

（３）平成２８年度活動方針（前年度からの申し送り事項）について（資料１０）

委員長から，資料１０に基づき説明があり，審議の結果，了承された。なお，下記のとおり補足説明があった。

○　平成２７年度教務委員会活動実績と評価については，すらら，ベネッセスタディサポートについてまとめる必要がある。

○　授業展開について，１年生を原級した学生は休学者を除き全て転科したため，新カリキュラムのみの授業展開となるが，今年度末に２年生を原級し，創造工学科への転科を希望しない学生が出た場合，来年度は２年生において新旧カリキュラムが混在することとなる。

○　障害者差別防止法へは障害学生支援委員会で対応するが，教務的な内容については同委員会より教務委員会へ審議依頼が来るため，本委員会で対応を検討することとなる。

○　ブラックボードについては，近々使用が義務付けられる可能性がある。

（４）学級担任会議について（資料１１）

委員長から，資料１１に基づき説明があり，審議の結果，了承された。

（５）２段階分野配属人数の目安について（資料１２）

委員長から，資料１２に基づき下記のとおり説明があり，審議の結果，了承された。

○　配属方針については，前年度委員会において審議了承済みである。

○　今年度の新１年生及び原級生の人数を考慮すると，下記のとおりとなる。

・新入生１８２名，原級生４名の内１名休学のため，１８５名を割り振る。

・配属方針の人数は仮であったが，トータル１８５名の案であったため，そのまま適用したい。

Ｊ３５名，Ｍ３５名，Ｅ３５名，Ｄ３５名，Ａ４５名の計１８５名

以下略

（出典　平成28年度４月教務委員会議事録）

資料２－２－①－４

「平成 28 年度教務委員会　議事録目次)」

12月定例	（平成28年12月7日　開催）
11月臨時	（平成28年11月30日　開催）
11月定例	（平成28年11月9日　開催）
10月定例	（平成28年10月12日　開催）
9月臨時	（平成28年9月7日　開催）
8月定例	（平成28年8月3日　開催）
7月定例	（平成28年7月6日　開催）
6月定例	（平成28年6月8日　開催）
5月定例	（平成28年5月11日　開催）
4月臨時（メール）	（平成28年4月20日 - 平成28年4月26日　開催）
4月定例	（平成28年4月1日　開催）

（出典　Web サイト
http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/gijiroku/kyoumu/index28.html
（釧路高専内部向けホームページ））

資料２－２－①－５

「運営会議　議事概要」　（抜粋）

5.　本科における退学率及び原級留置率に係る調査について

川村教務主事から，資料 B-5 に基づき，機構本部から調査依頼のあった退学率及び原級留置率調査について，教務委員会において取りまとめて精査した内容について説明があり，審議の結果了承された。

（出典　平成 28 年度５月運営会議議事概要）

「教務委員会 議事概要」　（抜粋）

（６）本科における退学率及び原級留置率に係る調査について（資料１１）

委員長から，資料１１に基づき説明があった。

また，委員長から，広く意見を聞くため，資料１１に委員個人の意見（学科の意見まで集約している時間がないため）がある場合には，５月２０日までに修学支援係まで提出願いたい旨依頼があった。

なお，本調査は，集約後に企画会議，運営会議を経て機構本部に提出し，どのような内容で提出したかを次回教務委員会に示すこととした。

（出典　平成 28 年度５月教務委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

本校教育の円滑な運営のために，企画会議，運営会議，教務委員会等を設けている。その中でも，教育面で重要な組織として教務委員会がある。教務委員会では本校の教育全般に関する事項を審議している。教務委員会の審議結果は運営会議に報告し，学校の決定として実施される。

これらのことから，教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議する等の必要な活動が行われている。

観点２－２－②：　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

本校では，月例で教員会議を実施しており，全教員が会議室に集まり学校運営や学校行事等について内容を周知し，議論を行っている（資料２－２－②－１）。現在は朝の８時40分から５分程度，教員連絡会として校長からの報告，各種委員会，担任からの連絡や種々の情報を全員で共有している。教員連絡会の内容は総務課からメール配信し，内容を全教職員に周知している（資料２－２－②－２）。教務委員会の下には「科目間調整会議」を設け，科目間調整会議の議題は教務委員会で審議・決定され，教務主事補を議長に，一般科目を担当している一般教育科教員と専門科目を担当する各専門分野の教員が委員として参加する。平成27年度の科目間調整会議は，開催されておらず，次年度以降の開催が望まれる。また，教務委員会の下に次年度授業計画会議があり，翌年度の教育課程や非常勤講師の採用計画等について専門分野の各分野長と一般教育科の各教科代表が話し合い，その結果を教務委員会にて審議している（資料２－２－②－３，２－２－②－４）。

資料２－２－②－１

「平成 23 年度　教員会議議事録目次」

教員会議議事録

教員会議 （H28.12.15開催）	資料
教員会議 （H28.10.13開催）	資料
教員会議 （H28.8.30開催）	資料
教員会議 （H28.7.14開催）	資料
教員会議 （H28.6.9開催）	資料
教員会議 （H28.5.12開催）	資料
教員会議 （H28.4.4開催）	資料

（出典　Web サイト
http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/gijiroku/kyokan/h28/index.html
（釧路高専内部向けホームページ））

資料２－２－②－２

「教員連絡会報告」　（抜粋）

Fwd: [Jimu-ml:12847] 教員連絡会（H281206）

ファイル(F)　編集(E)　表示(V)　ツール(T)　メール(M)　ヘルプ(H)

件名: Fwd: [Jimu-ml:12847] 教員連絡会(H281206)
差出人: 井上 渉 <wainoue@office.kushiro-ct.ac.jp>
日時: 送信: 2017/01/18 15:18:32　受信: 2017/01/18 15:34:30
宛先: 総務課@濵谷補佐<hamaya@office.kushiro-ct.ac.jp>（CC:総務課@井上<wainoue@office.kushiro-ct.ac.jp>）

GM1484721270

12月6日（火）の教員連絡会での報告事項についてお知らせします。

日　時　8時40分?8時42分
参加者　教員35名　事務職員他8名

【校長】
八戸高専主催で、アリゾナ大学教員研修を実施する。教員が専門分野（英語以外）を英語で講義するための英語指導力向上を目的とする。場所はアリ ゾナ大学のCESL（Center for English as a second language）で、対象者は八戸高専の6名と、北海道地区高専教員各校1名の計10名。日程は1月23日（月）から2月10日（金）が事前オンライン 研修。2月18日（土）から3月5日（日）がアリゾナ大学にて50時間の授業を受講。費用の負担は、基本的に全額八戸高専で負担する。ただし食卓 料と日当は減額調整する。八戸高専への締切は12月9日（金）だが、学内の調整もあるため、学内締切を明日12月7日（水）17時とする。希望者 は分野の許可を得た上で、総務課人事・給与係まで申し出願いたい。希望者が複数いる場合は協議させていただく。中堅教員を出すよう言われており、 その点を考慮し検討いただきたい。

【山崎教務主事補】
本日、バスが10分程度遅れが出ているが、JRは通常運行している。

【大石学生主事補】
16時40分から、選択第一教室にて選挙管理委員会が開催される。5年生は卒業研究の時間帯であるが授業を優先していただき、該当クラスには個 別に連絡する。各クラスの選挙管理委員に連絡願いたい。

【千葉学生相談室長】
昨日の学生委員会でもお願いしているが、悩みのアンケートに対する面談、および面談報告書の提出について、冬季休業前に提出願いたい。

ヘルプを表示するには [F1] を押してください。　NUM

（出典　平成 28 年 12 月 17 日 教員連絡会報告メール）

資料２－２－②－３

「平成 28 年度教育課程表（一般科目）」

別表第１

一般科目　　平成２４年度改訂

区分	授業科目		単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
必修科目	国語		8	3	3	2			
	コミュニケーション実践		2				2		
	社会	倫理・社会	2	2					
		現代社会	2		2				
		日本史	1		1				
		世界史	2			2			
		法学	2				2		
	数学		18	6	6	6			
	理科	物理	5	2	3				
		化学	5	3	2				
		物理演習	1			1			
	保健体育	保健	1	1					
		体育	6	2	2	2			
	外国語	英語	18	6	5	4	2	1	
		ドイツ語	2					2	
	修得単位計		75	25	24	17	6	3	
選択科目	芸術	音楽	2	2					} いずれか一方を選択する。
		美術	2	2					
	体育		2				2		4年次編入生以外は必ず選択すること。
	数学Ⅰ		2				2		4年次編入生のみ選択すること。
	英語演習		2				2		
	※日本文学A		1					1	前期開講
	※日本文学B		1					1	後期開講
	※歴史と文化ⅠA		1					1	前期開講
	※歴史と文化ⅠB		1					1	後期開講
	※歴史と文化ⅡA		1					1	前期開講
	※歴史と文化ⅡB		1					1	後期開講
	※哲学A		1					1	前期開講
	※哲学B		1					1	後期開講
	※社会科学入門A		1					1	前期開講
	※社会科学入門B		1					1	後期開講
	※心理学A		1					1	前期開講
	※心理学B		1					1	後期開講
	※環境学A		1					1	前期開講
	※環境学B		1					1	後期開講
	英会話		2			2			３・４年次のいずれか一方の学年で選択できる。
	※英語コミュニケーションA		1					1	前期開講
	※英語コミュニケーションB		1					1	後期開講
	※中国文化A		1					1	前期開講
	※中国文化B		1					1	後期開講
	※韓国文化A		1					1	前期開講
	※韓国文化B		1					1	後期開講
	開設単位計		32	4		(2)	(8)	20	
	修得単位計		6以上	2		4以上			
修得単位合計			81以上	27	24	30 以上			

※印は学則第１４条第２項に定める単位を示す。

区分	授業科目	単位数	学年別単位数 1年	2年	3年	4年	5年	備考
選択科目	数学Ⅱ	2				2		進級および卒業に必要な修得単位数には含まれないが単位認定は行う。
	数学Ⅲ	1				1		
	物理Ⅱ	1				1		

（出典　平成 28 年度学生便覧　p. 14）

資料２－２－②－４

「次年度授業計画会議」　（抜粋）

（１）教育課程の変更について　（資料１）

委員長から、資料１については各学科等から提出されたものを記載しているが、補足も含め各学科長等から説明願いたい旨の発言があった。

各学科長等からの説明後審議に入り、種々意見交換の結果、電子工学特論の廃止以外は了承された。

主な意見等

○電子工学特論

・学年でのカリキュラムの過密さや、修得科目の内容に合わせた学年配当の変更など以外は認められないのではないか。

・必修科目を廃止する理由はあるのか。

・学生にとって利益があるのか。

・廃止後に選択科目を必修にする場合は認められるか。

→シラバスの内容を変え、他の教員が担当した方が良い。

・電子工学科で再度検討願う。

○言語と社会

・現状に合わせた名称変更なので、問題ない。

・大学編入学のことを考慮すると、Ａ・Ｅが付いているより、ドイツ語・中国語と明記されている方が、単位の振替をしてもらえるのではないか。

（２）平成２８年度非常勤講師依頼予定計画について　（資料２）

委員長から、資料２については各学科等から提出されたものを記載しているが、補足も含め各学科長等から説明願いたい旨の発言があった。

各学科長等からの説明後審議に入り、体育と応用数学については今回資料が間に合わなかったため次回再審議とするが、それ以外については了承された。

なお、今回の資料については、次年度のカリキュラムが確定していないため、各教員の持ち時間数等が記載されていないため、カリキュラムが確定後に体育と応用数学も含め再度全　科目提示することとなった。

（出典　平成 27 年 11 月第２回次年度授業計画会議議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，月例教員会議，８時40分からの教員連絡会，教務委員会の下での「次年度授業計画会議」を開催し，一般教育科と専門学科の連携を行っている。ただし，「科目間調整会議」が開催されておらず，次年度以降の開催が必要である。

これらのことから，一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，ほぼ機能的に行われている。

観点２－２－③：　教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

本校の運営組織規則により，学級担任は教務，厚生補導，特別教育活動，その他を掌理することと定められている（資料２－２－③－１）。本校では，学級担任を各学年・各クラスに１名（３学年までは副担任を各クラス１名）置いている。各学年の担任のうち１名を学年主任として，担任団をまとめる役割を果たしてもらうようにしている。

学級担任に対しては，「学級担任の手引き」が配布され，主な職務内容が解説され，テーマ案等が示され，クラス運営の指針として提供されている（資料２－２－③－２）。例えば，LHRの内容について具体例が示されている（資料２－２－③－３）。年度初めの学級担任会議（資料２－２－③－４）においては，各主事等から１年間の方針等が説明され，質疑応答により合意形成される（資料２－２－③－５）。指導において学年全体での統一性が強く要求される低学年においては，学年主任の主導により，学年担任会議が不定期で開催され，指導方法等の話し合いが随時行われている（資料２－２－③－６）。

課外活動の指導については，平成23年度高専機構から通知された部活指導に関する基本的な考え方（教員の負担軽減策の一部），本校における部活指導に関する審議結果を基に，「全教員がクラブ顧問を担当する」ことを改めて基本方針として決定した（資料２－２－③－７，８）。これにより，合宿における宿直指導など，顧問業務の分散化が進み，負担軽減が図られた（資料２－２－③－９）。また，クラブ顧問会議があり，クラブに対する補助や安全，管理等について議論を行っている（資料２－２－③－10）。

新任教員に対しては着任年度当初に学内での新任教員研修が行われ，本校の活動全般について説明がなされ，学校としての教育方針等の周知をしている（資料２－２－③－11）。

資料２－２－③－１

「運営組織規則」　（抜粋）

第５章　学年主任，学級担任及び学級副担任

（学年主任）

第１４条　学年主任は，第１５条第１項に定める，当該学年の学級担任の中から校長が任命する。

２　学年主任は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。

一　各学年の学級担任の職務について連絡，調整を図ること。

二　その他各学年の学級の運営に関し，必要と認められること。

（学級担任）

第１５条　学級ごとに担任を置き，校長が任命する。

２　担任は，学級の運営並びに学習指導及び生活指導の任に当たる。

３　学級担任は，校長の命を受け，次の事項を掌理する。

一　学級の教務に関すること。

二　学級の厚生補導に関すること。

三　学級の特別教育活動に関すること。

四　その他学級の運営に関し，必要と認められること。

４　担任の任期は１年とする。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（学級副担任）

第１６条　担任を補佐するため，副担任を置き，校長が任命する。

２　副担任の任期は１年とする。ただし，欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（出典　釧路高専運営組織規則）

資料２－２－③－２

「学級担任の手引き」　（抜粋）

資料
学級担任会議
H28.4.4

学級担任の手引き

釧路工業高等専門学校

平成 28 年 4 月

（出典　学級担任の手引き　平成28年４月）

資料２－２－③－３

「ロングホームルームの指導」　（抜粋）

5 ロングホームルームの指導

ロングホームルーム(LHR)は、第3学年まで週1時間が設定されている。

5.1 LHRの取り扱い

(1) 出席をとり、授業と同様に、出欠を教務システムに入力する。

(2) 欠課時数オーバーの規定はないが、LHRの欠席は、総欠課制限時数に含まれる。

(3) 成績評価はしないが、認定会議の際、総合的な判断材料として審議の対象となる。

5.2 LHRのテーマ(活動の内容)について

(1) 年間のLHRの使用計画の立案を年度当初にするとよい。

(2) 全校的なテーマは

(a) 学級役員の選出等,学生課に書類として提出するもの。

(b) 長期休業前の諸注意(学生委員会から資料が配布される)。

(c) 校内体育大会や高専祭等学生会行事の選手や係を決める。

(d) その他、LHRの時間帯を利用して校内大掃除、総合防災訓練等がある。

(3) 各HRのテーマは、クラスが独自で使用するもので、学級担任講話、個人面談、長期休業の反省等、1年間を見通して必要なテーマを担任が設定する。

5.3 LHRに対する学級担任の心構え

(1) LHRを単なる連絡や諸注意だけで終わらせず、実りあるものにする工夫が大切である。

(2) 学生会行事に関わるものは、学級代表や行事委員会等学生を積極的に使って討論決定させることが必要である。

(3) 学級担任は、学生と積極的に接する機会を多く作り、特に1年生は、中学校と高専の学校の違いから生ずるギャップがあるため、きめ細かな人間味ある慎重な対応が望まれる。

(4) 高専は、学年制なのでクラスは学科・分野が確定した4年間の期間殆ど変わらない。従って、クラスの融和や生活面でのけじめ、学習面での積極性を付けさせるとともに、LHRリーダーを育成していくという側面も考慮していきたい。

5.4 LHRの工夫

(1) テーマ別に学生の担当者を決めて学生を大いに使う。

(2) LHR日誌などをつけさせ、大切に時間を使わせる。

(3) 学年で、又は、クラス共同で取り組む時間があってもよい。

以下略

（出典　学級担任の手引き　平成28年４月）

資料２－２－③－４

「学級担任会議　レジュメ」

日　時　平成２８年4月４日（月）　１４：１５～

場　所　会議室

議　題

１．学生への配付物について

⑴ 第1学年　※ 入学式当日各教室へ

・個人毎封筒詰めされている

① 学生証　② 在学証明書　③ 合格通知書の原本（該当者のみ）　④ 平成２８年度行事予定表　⑤ シラバス

⑥ 平成２８年度前期授業時間割　⑦ 平成２８年度前期特別時間割　⑧ 入学式当日の日程

⑨ 新入生オリエンテーション実施要項　⑩ 高専だより　⑪ 実験実習安全必携

・冊子だけ

⑫ 学生便覧

⑵ 第2～5学年　※①と②は自宅へ郵送済み。①～③教室掲示済み。

① 平成２８年度行事予定表　② 平成２８年度前期授業時間割　③ 教育課程表（改正に伴う移行措置）

④ 選択科目履修者一覧

２．学級担任への配布物について

⑴ 全学級担任用

① 学生カード　② 学級役員名簿　③ 学級担任の手引き　④ 健康診断記録票

※クラス座席配置表用カードケース（希望する学級担任のみ）

※学生便覧及び鶴翔寮のしおりはメールボックスに配布

⑵ 第1年学級担任用

入学者個人情報調書（・入学成績一覧・中学校訪問報告書・中学校調査書（写））

※フラットファイルで後日配布

⑶　第5学年学級担任

大学編入学・専攻科入学について

３．委員会所掌事項説明

⑴ 教務委員会

⑵ 学生委員会

⑶ 寮務委員会

４．学生相談室

５．その他

（出典　平成28年度学級担任会議資料）

資料２－２－③－５

「学級担任会議用資料一覧　学生委員会関係」　（抜粋）

(1) 平成２８年度活動方針について	資料 1
(2) 学級役員名簿について	資料 2
(3) 対面式について	資料 3
(4) 新入生に対するクラブ勧誘について	資料 4
(5) 懲戒処分基準について	資料 5
(6) 学生の定期健康診断について	資料 6
(7) 通学路ゴミ拾いについて	資料 7
(8) 全校大掃除について	資料 8
(9) 就学支援金及び授業料免除について	資料 9
(10) 日本学生支援機構奨学金の募集について	資料 10
(11) 校外ホームルームについて	資料 11
(12) 自動車通学について	資料 12
(13) 自転車通学について	資料 13
(14) その他	

（出典　平成 28 年４月学級担任会議）

資料２－２－③－６

「学年担任会議 開催状況（第１～２学年)」

平成28年度　第１学年担任会議開催状況

回数	開催日	主な議事内容
1	H28. 3.18	平成28年度　基本方針の確認
2	H28. 5.10	１．クラス概況について ２．学年通信第２号の発行について ３．校外ＨＲの行き先等について
3	H28. 6. 8	１．クラス概況について ２．学年通信第２号の記事内容について
4	H28. 7.12	１．クラス概況について ２．学年通信第３号の発行について ３．心と体のアンケートを受けての面談について

※その他、メールによる会議を数回開催している。

平成28年度　第２学年担任会議開催状況

回数	開催日	主な議事内容
1	H28.11. 6	（メール開催）校外HRについて

（出典　各学年主任作成資料）

資料２－２－③－７

「課外活動指導に関する申し合わせ事項」　（抜粋）

Ⅱ．クラブ顧問の指導体制

１．顧問の選任について

(1) クラブの顧問は６０歳未満の全教員で当たることとする（６０歳以上の教員が自ら望んだ場合はその限りではない。）。

(2) 各クラブの顧問には原則として３名程度の教員がつき，互選により代表顧問を決める。

(3) 顧問の任期は原則として３年間とし，３年ごとに全体の見直しをかける。

(4) 顧問の決定については，あらかじめ全教員に第１～第３までの希望調査を行うとともに，学生からの要望を勘案し，それらに基づいて学生主事が調整する。

(5) 顧問の任命は，学生主事の上申した最終調整案に対する校長の決裁によりなされる。　顧問名簿一覧表は，３月教員会議に提示される。

(6) 新たに設立した同好会については，学生主事が調整する。

(7) 新規採用の教員については，その都度学生主事が調整する。

２．指導内容，範囲について

(1) 顧問は，クラブ活動のスケジュールの把握，事故防止などについての一般的な指導を行う。

(2) 随時の見回り指導。

(3) 対外試合における引率。

※　技術指導を義務づけるものではない。

（出典　学生委員会申し合わせ類集　平成 26 年度４月編集）

資料２－２－③－８

「クラブ顧問名簿」

平成２８年度　学生会・クラブ（部・同好会）顧問名簿

平成28年4月21日現在

◎学生会関係

委員会・クラブ名	顧問
評議会	梅津裕志
執行委員会	
監査委員会	大石　玄
選挙管理委員会	
行事委員会	山形文啓
会計委員会	
新聞委員会	＊（小田島本有）
（活動休止）	（片岡　務）

◎文化系クラブ

写真部	＊片岡　務
吹奏楽部	＊池田盛一
	鈴木宗央
	山田昌尚
美術部	＊西澤岳夫
	馬潮大宇
	C（高橋義信）
アマチュア無線部	＊佐川正人
茶道部	中島陽子
	＊大槻香子
	馬潮大宇
	C（濱田聖子）
	C（北原恵和子）
	C（高橋順子）
	C（鈴木清美）
軽音楽部	＊坂口直志
科学ボランティア部	＊蒲家淳博
	小久保慶一

◎同好会

ドイツ語研究会	＊木村峰明
	藤本一司
	大石　玄
ロボット研究会	＊千田和範
	齋藤誠紀
	渡邊　駿
	高　義礼
基礎スキー同好会	＊坂口直志
将棋同好会	＊高橋　晃
書道同好会	＊舘下徹志
	舘岡正樹
	大槻香子
総合デザイン研究会	＊西澤岳夫
	千葉忠弘
フットサル同好会	＊小谷泰介
トランポリン同好会	＊大槻典行
アコースティックギター同好会	＊松崎俊明
プログラミング研究会	＊天元　宏
宇宙科学技術研究会	＊小松正明
文芸同好会	＊小田島本有
鉄道同好会	＊佐川正人
ＴＯＥＩＣ同好会	＊山田昌尚
スピードスケート同好会	＊小田島本有
	三島利紀
ボディービルディング同好会	＊梅津裕志
弓道同好会	＊片岡　務
園芸同好会	＊澤柳博文
ダンス同好会	宮毛明子
	＊大槻香子
創作同好会	＊樋口　泉
社交ダンス同好会	＊三島利紀
音楽同好会	＊池田盛一
ジョギング同好会	＊戸谷伸之
ＤＴＭ同好会	＊大前洸斗
レゴブロック創造研究会	＊渡邊　駿
紙技同好会	＊坂口直志

◎体育系クラブ

委員会・クラブ名	顧問
陸上部	＊林　幸利
	梅津裕志
	中島陽子
	戸谷伸之
男子バスケットボール部	＊大槻典行
	大前洸斗
	小久保慶一
女子バスケットボール部	＊舘岡正樹
	高橋　剛
	宮毛明子
	C（長崎詩野）
男子バレーボール部	本田　匠
	＊三島利紀
	加藤岳人
	中村　隆
女子バレーボール部	＊三島利紀
	大槻香子
	野口孝宏
ソフトテニス部	＊浦家淳博
	高橋　晃
	加藤雅也
	村上公一
卓球部	＊小杉　淳
	高　義礼
	樋口　泉
	C（斉藤久士）
柔道部	＊鈴木俊哉
	沼田　敏
	登口　大
剣道部	＊渡邊聖司
	山形文啓
	福地孝平
バドミントン部	＊山崎俊博
	澤柳博文
	小谷泰介
野球部	＊千葉忠弘
	舘下徹志
	赤堀匡俊
	大石　玄
アーチェリー部	＊佐藤英樹
	佐々木　敏
	佐川正人
テニス部	＊松本和健
	佐藤彰治
	岡　康之
	小田島本有
サッカー部	＊三森敏司
	坂口直志
	川村淳浩
	馬潮大宇
ハンドボール部	草苅敏夫
	＊鈴木純康
	片岡　務
空手道部	＊高木敏幸
	浅水　仁
	柳川和徳
アイスホッケー部	前田貴章
	＊本間宏利
	奈原浩平
	小杉　淳
自転車部	＊大貫和永
	林　裕樹
	土江田織枝

＊印は，代表顧問
Cは，外部コーチ（課外活動指導員）

（出典　平成 28 年度クラブ

資料２－２－③－９

「夏季休業期間中の合宿の実施状況」

平成 28 年度

平成28年8月11日現在

	合宿クラブ名	夏季休業中の合宿（○印は掃除当番）																													合宿部屋	合宿責任者	備考
		8月13日(土)	8月14日(日)	8月15日(月)	8月16日(火)	8月17日(水)	8月18日(木)	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)	8月22日(月)	8月23日(火)	8月24日(水)	8月25日(木)	8月26日(金)	8月27日(土)	8月28日(日)	8月29日(月)	8月30日(火)	8月31日(水)	9月1日(木)	9月2日(金)	9月3日(土)	9月4日(日)	9月5日(月)	9月6日(火)	9月7日(水)	9月8日(木)	9月9日(金)	9月10日(土)	9月11日(日)			
男子	男子バレー1	⑨	9	10	11	⑪	解散																									5号室(定員12人)	3E笛木鮮	
	男子バレー2																									11	11	⑪	11	11	寮	5号室(定員12人)	2D垂石凌青	
	卓球	6	⑥	6	⑥	6	解散																									1号室(定員16人)	4A松原浩介	
	ソフトテニス1	6	6	⑥	6	解散																											3D小田優大	
	ソフトテニス2												11	⑪	11	11	解散															2号室(定員16人)	2D高木健太郎	
	バドミントン					③	解散																									1号室(定員16人)	4E浅沼健汰	
	陸上1							②	②	③	解散																					1号室(定員16人)	3D松崎祐渡	
	陸上2														⑦	6	解散															1号室(定員16人)	2M増田啓介	
	陸上3																												4	④	寮	1号室(定員16人)	2M増田啓介	
	野球1										⑬	⑬	13	解散																		1号室(定員16人)	5M福井聡	
	野球2																										⑩	10	10	10	寮	3号室(定員16人)	2E高橋謙介	
	サッカー												㉓	23	23	㉓	23	23	23	23	23	23	23	23								3号室(定員16人) 1号室(定員16人) 5号室(定員12名)	3M奥村昇	24日は3号室16人、5号室7人 25日～3号室16人、1号室7人 28日以降は勝ち進んだ場合使用
	吹奏楽														9	9	⑨	⑨	⑩	⑩	10	解散										5号室(定員12人)	3M新沼凛太郎	
	テニス																				⑧	⑧	⑨	9	⑧	8	8	8	8	⑧	寮	1号室(定員16人)	2A小林親人	
	ロボット研究会																							⑥	6	⑦	9	10	⑩	10	寮	2号室(定員16人)	5D井脇隆議	
	合計	21	21	22	23	20	0	2	2	3	13	13	47	34	50	49	32	32	33	33	42	32	32	38	14	26	38	39	43	43	0			
女子	卓球	1	1	1	1	1	解散																									ロイヤルイン	4A松原浩介	
	ソフトテニス2													3	3	3																アスリートイン	3D小田優大	
	バドミントン					3	解散																									東横イン	4E浅沼健汰	
	野球										1	1	1	解散																		千友館	5M福井聡	
	吹奏楽														3	3	3	3	3	3	3											8/26~28 東横イン 8/29~9/2 アスリートイン	3M新沼凛太郎	
	陸上														1	1																未定	2M増田啓介	
	女子バレーボール																											3	4	4		アスリートイン	3J松井李璃乃	
	合計	1	1	1	1	4	0	0	0	0	1	1	1	3	7	7	3	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	3	4	4				
	当直教員名	加藤岳（男バレ）	種口（卓球）	村上（ソフトテニス）	小杉（卓球）	三島（男バレ）		戸谷（陸上）	林（陸上）	梅津（陸上）	大石（野球）	大石（野球）	大石（野球）	加藤亮一（ソフトテニス）	林（陸上）	三森（サッカー）	川村（サッカー）	池田（吹奏楽）	池田（吹奏楽）	池田（吹奏楽）	小田島（テニス）	佐藤彰（テニス）	川村（サッカー）	渡邊駿（ロボ研）	松本（テニス）	千田（ロボ研）	千葉（野球）	本田（男バレ）	渡邊駿（ロボ研）	梅津（陸上）			

１ページ

（出典　学生課学生支援係作成資料）

資料２－２－③－10

「クラブ顧問会議」　（抜粋）

平成２８年度　第１回クラブ顧問会議

日時　平成２８年５月１３日（金）
１６時４０分～
場所　会議室

議題

１．平成２８年度クラブ顧問名簿について　資料 1
２．高体連釧根支部総会報告について　資料 2
３．北海道地区国立高専体育大会組織委員会について　資料 3
４．傷害保険制度について
(1) 日本スポーツ振興センター　資料 4
(2) 高体連主催大会災害補償制度　資料 5
５．クラブへの補助について
(1) 後援会からの遠征費補助等　資料 6
(2) 学生会からのクラブ活動補助について
６．クラブ顧問への活動補助について　資料 7
(1) 教員特殊業務手当
７．部員名簿について　(5/27（金）〆切)
８．クラブ・同好会必要設備・備品（修繕施設）について　資料 8 (5/27（金）〆切)
９．その他
・原級した４・５年生の大会参加について
・地区体釧路高専事務局組織について　資料 9

（出典　平成 28 年度５月）

資料２－２－③－11

「新任教員研修会　日程表」

平成28年度 釧路工業高等専門学校新任教員研修会 日程表

H280518変更

日付	場所	9:00～9:30	9:35～10:05	10:05～10:15	10:15～10:45	10:50～11:20	11:25～11:55	13:10～13:15	13:15～13:45	13:50～14:20	14:20～14:30	14:30～15:00	15:05～15:35
5/23（月）	会議室							開講式（岸校長）	釧路高専の現状と課題 （岸校長）	広報及び地域社会への協力貢献について （小田島校務主事）	休憩	釧路高専の運営計画について （川村教務主事）	本科の教育課程及び授業計画について （川村教務主事）
5/25（水）	会議室	情報セキュリティについて （林(裕)情報処理センター長）	学生指導について （三森学生主事）			産学連携について （高橋(剛)地域共同テクノセンター長）	外部資金の獲得とその支援について （高橋(剛)地域共同テクノセンター長）					専攻科及び生産情報システム工学プログラムについて （草苅専攻科長）	学寮の位置付けと指導体制について （松本寮務主事）
5/26（木）	会議室	9:00～9:20 総務課の業務について （山下総務課長） 9:20～9:40 学生課の業務について （山崎学生課長）	9:40～10:00 教育研究支援センターの業務について （的野技術長）	休憩	10:15～10:35 職場の安全衛生について （小清水衛生管理者）								

（出典　平成 28 年度釧路高専新任教員研修会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，学級担任および１～３学年には副担任を置いている。各学年担任のうち１名を学年主任として，担任団をまとめる役割を果たしてもらうようにしている。学級担任に対しては，「学級担任の手引き」が配布され，学年主任の主導により，学年担任会議が不定期で開催され，指導方法等の話し合いが随時行われている。

課外活動の指導については「全教員がクラブ顧問を担当する」ことを改めて基本方針として決定し，負担軽減が図られた。また，クラブ顧問会議があり，クラブに対する補助や安全，管理等について議論を行っている。

これらのことから，教員の教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

情報処理センター，教育支援センターの学内共同利用センターが，それぞれ特色ある機能を備えており，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

毎朝，教員連絡会を開催することで，校長からの報告，各種委員会，担任からの連絡や種々の情報を全員で共有している。

（改善を要する点）
平成28年度においては，１学年が改編された創造工学科，２学年以降が改編前の機械・電気・電子・情報工学科および建築学科の在籍であり，これらの関係について，学生便覧等では十分に説明されていない．公的資料においては，２学年以降の学生が存在しない，もしくは全学生が創造工学科に在籍するかのような記述である．
また，開催すべき「科目間調整会議」が開催されておらず，教員間の連携の状況に懸念が残る．次年度以降，開催すべきである．

（３）基準２の自己評価の概要

準学士課程は，創造工学科１学科構成である．専攻科課程は，改編前の準学士課程の５学科を２専攻（建設・生産システム工学専攻，電子情報システム工学専攻）に集約する形で体系的に編成され，実践的・創造的技術者の養成を可能としている。

全学的なセンターとして，情報処理センター，教育研究支援センターがある。それぞれのセンターは特色ある機能を備えて，本校の教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

教育活動を有効に展開するための検討・運営体制として教務委員会・専攻科委員会と運営会議および企画会議が設置されており，教育活動等について，審議するなどの必要な活動を行っている。教務委員会のもとに科目間調整会議等があり，一般科目・専門科目間調整の組織的取組がなされるべきところ，開催されていないことは改善を要する。

学級担任の他に副担任，学年主任を置き，必要に応じて学年担任会議を開催するなど，学級担任体制が整備されており，「学級担任の手引き」に基づき担任はホームルームの運営や学生指導などに当たっている。全教員によるクラブ顧問体制が整備され，課外活動を通じた教育活動を職務として明確化している。

担当注記

観点２－１－①について

観点２－１－①は，「学科の」構成についての観点であるため，学生便覧で述べられているコース，分野については言及しない．

高等専門学校設置基準において，学科は「専攻分野を教育するために組織」するものとなっている．本校の創造工学科の目的は，「各専門分野を融合」し，「横断的な専門知識や問題解決能力」の修得を謳っており，微妙なずれがあると思われる．機関別認証評価においては十分な論理的説明が必要であろう．すなわち，創造工学科の「専攻分野」とは何か，を主張できなければならない．もしも，「専攻分野」をコース・分野という区分によって担保するのであれば，学科自体の基準への適合が怪しくなる．

観点２－１－②について

観点２－１－②は，本科の学科構成に対する専攻科の構成についての観点であるため，観点２－１－①の記述との間には乖離があるが，特に言及しない．

観点２－２－①について

「運営組織規則」には教務委員会等の各委員会の名称が出てこないため，資料としては不足かもしれない．これ以上の参照を行うためには，各委員会規則，組織の関連を示す図表などを示す必要が出てきて，余計にややこしくなるため，記述していない．実際の認証評価に耐えられるよう，規則，図表等を整理するべきと考える．

基準２自己評価概要について

企画会議規則によると，企画会議は「将来計画，予算及び全体に係る重要事項」の「企画・立案・連絡調整」の場と定められており，「**教育活動を有効に展開するための検討・運営体制が整備**」という観点２－２－①にはなじまないのかもしれない．学校全体の管理運営の観点（基準１１）において企画会議があると主張すべきか．企画会議の議事録・審議記録が公開されていないことからも，自己評価において「証拠」を示して主張することは難しい．

基準３　教員及び教育支援者等

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校全体の専任教員の人数を資料３－１－①－１に，一般科目担当の専任教員と非常勤講師の配置状況を資料３－１－①－２～３に，それぞれ示す。平成28年度現在の一般教育部門の授業担当教員は，専任教員27名，非常勤講師22名である。専任教員数は設置基準上の必要数22名を上回っている。

さらに，授業の時間割と専任教員の研究分野を資料３－１－①－４～５に示す。人数としては非常勤講師が専任教員の約８割にのぼっているが，授業時間数としては専任教員が圧倒的多数を担当していることがわかる（資料３－１－①－４）。また，専任教員の専門とする教育・研究分野（資料３－１－①－５）も非常勤講師の経験・資格（資料３－１－①－３）もそれぞれ担当する授業科目に関連したものとなっている。一般科目専任教員の学位に関して（資料３－１－①－２），理系では，博士所持者は14名中９名（64%）である．文系では，修士以上所持者は13名中10名（77%）である．

本校の一般教育部門の授業は，本校の学習目標のＡ，Ｃ，Ｆを主に達成させるものである。学習目標Ａを達成させるために，社会系科目と芸術科目を展開している。なお，芸術科目のすべて及び社会系科目の一部を非常勤講師に依存しているが，関連分野の大半の授業については専任教員が担当している。

学習目標Ｃを達成させるために，数学，物理，化学，等の理数系科目を展開している。第１・２学年の理数系科目では，物理・化学に関してはすべての授業を専任教員が担当し，ライフ＆アースサイエンスのすべてと数学の一部の授業については非常勤講師に依存しているが，大半の授業については専任教員が担当している。第３・４学年の理数系科目では，特に専門分野への橋渡しとして重要であることから，ほぼすべての授業を専任教員が担当しており，非常勤講師への依存は応用数学の習熟度別６クラス中２クラスに限られている。また，平成28年度に学習支援センターを設置し，数学・物理について第１学年の遅進学生に対してリメディアル教育「SSL（special supplementary lesson）」を実施している。

学習目標Ｆを達成させるために国語，英語，英会話，等の科目を展開している。高学年の国語系科目は専任教員が担当し，日本語による記述・討論・プレゼンテーション・コミュニケーション能力の育成を行っている。国語の非常勤講師への依存は，第２学年の一部の授業に限られている。英語では，基礎知識を身につけさせるために低学年ではすべて専任教員が授業を担当している。（平成28年度は，第１学年の一部の授業に非常勤講師を充てているが，これは専任教員の病気休職への暫定的な対策である。）また高学年の英語と英会話の授業では，ネイティブスピーカーを非常勤講師として採用し，オーラルコミュニケーション能力の育成を図っている。

資料３－１－①－１

「専任教員の人数」

分野別専任教員数

H28

		職名					
		教授	准教授	講師	助教	助手	計
一般科目担当教員	一般教育部門理系	6	7	1			14
	一般教育部門文系	8	5				13
	小計	14	12	1	0	0	27
専門科目担当教員	情報工学分野	4	3	1	2		10
	機械工学分野	3	5		1		9
	電気工学分野	4	4		2		10
	電子工学分野	4	4		2		10
	建築学分野	4	4		2		10
	小計	19	20	1	9	0	49
合計		33	32	2	9	0	76

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－①－２

「一般科目を担当する専任教員」

一般科目を担当する専任教員

教育機関勤務経験について，aは常勤，bは非常勤，cはその他（学振・内地・外地研究員等）．

H28一般教育部門（理系）14名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	加藤　隆	工学博士	化学		a				
教授	澤柳博文	理学博士	数学，数学II，物理II，応用数学II・A・C	統計学	b	b			
教授	浦家淳博	修士（教育学）	物理，応用物理			a			
教授	池田盛一	博士（情報科学）	数学	応用解析学	c	a,b			
教授	近藤浩文		化学		b	a	a		
教授	山﨑俊博	修士（教育学）	数学		b	a,b			
准教授	松﨑俊明	博士（理学）	物理						
准教授	小谷泰介	博士（理学）	数学，数学III		b				
准教授	梅津裕志	博士（理学）	物理，応用物理	物理学特論	b		b,c		
准教授	宮毛明子	博士（理学）	数学A・B		a,b,c				前期休職
准教授	岡　康之	博士（理学）	数学，応用数学A		a,b,c	b			
准教授	村上公一	博士（理学）	数学，応用数学A		b,c		b,c		
准教授	小久保慶一	修士（教育学）	物理，物理演習			a			
講師	登口　大	修士（理学）	SSL		a				

H28一般教育部門（文系）13名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	木村峰明	法学修士	世界史，歴史と文化I，言語と社会（ドイツ語）		b				
教授	小田島本有	文学修士	国語，コミュニケーション実践		b	b			
教授	吉田茂		英語		b	a			
教授	片岡務	修士（教育学）	英語，英語演習	総合英語I，総合英語II	b	a			
教授	舘下徹志	修士（文学）	国語，コミュニケーション実践	日本語表現技法	b	a			
教授	三島利紀	修士（教育学）	体育，保健			a			
教授	加藤岳人		国語，コミュニケーション実践		a,b	a			
教授	林　幸利	修士（教育学）	英語			a			
准教授	藤本一司	文学修士	倫理社会，哲学，言語と社会（ドイツ語）		b	a			
准教授	舘岡正樹		体育，保健			a			
准教授	田村聡子	M.Ed，博士（学術）			a	a		a	前期休職
准教授	沼田　敦	修士（教育学）	英語		b	a			
准教授	大石　玄	修士（法学）	現代社会，法学，言語と社会（スペイン語）	技術者倫理	b	b			

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－①－３

「一般科目を担当する非常勤講師」

一般科目を担当する非常勤講師

担当科目の括弧内の数は週毎の担当時間数（前期，後期）.

H28

氏名	本科担当科目	専攻科担当科目	職業・勤務先
舘下美優貴	国語(2,2)		前 高校教員
中川昌久	日本史(5,5)		釧路工業高校 教員
神田房行	環境学(2,2)		北方環境研究所 所長
山内一美	現代社会(10,10), 歴史と文化Ⅱ(2,2)		学習塾 経営
田　野	言語と社会（中国語）(2,2)		前 中国水利水電気設計院
阿部義美	数学A(10,10)		学習塾 経営
伊藤勝夫	数学A(4,4)		前 高校教員
小林静夫	ライフ＆アースサイエンス(4,4)		北洋高校・湖陵高校 非常勤講師
恐神邦秀	体育(6,6)		前 本校教員
田川淳一	剣道（集中講義20）		白糠町スポーツ少年団 指導員, 剣道7段
梅崎明生	剣道（集中講義20）		釧路市武道館 ボランティア指導者, 剣道6段
松本　茂	英語(4,4)		釧路工業高校 教員
石山　勲	英語(6,6)		前 高校教員
ローズ友恵	英語(12,12)		英会話教室 講師
エリック・ローズ	英会話(2,2), 英語(5,5)		英会話教室 経営
ブライアン・ヘイコックス	英会話(2,2), 英語(5,5)		前 英語家庭教師
高橋久美子	音楽(4,4)		前 中学校教員
加藤直樹	美術(2,2)		北海道教育大学釧路校 非常勤講師
高橋由紀雄	美術(2,2)		北海道教育大学釧路校 非常勤講師
小杉和寛	心理学(2,2)		釧路ケアカレッジ 非常勤講師, 釧路専門学校 非常勤講師, 医療法人 嘱託心理療法士
佐藤穆	応用数学A(8,8)		前 学習塾経営
加藤順司	応用数学A(0,2)		前 本校教員, 博士（理学）

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－①－４

「授業時間割」

(a) クラス時間割

平成28年度　前 期 授 業 時 間 割　（4月12日現在）

		月 1	月 2	月 3	月 4	月 5	月 6	月 7	月 8	月 9
1学年	1	英語		倫理社会		国語		HR	オフィスアワー	
		林幸		藤本		加藤岳		片岡		
	2	国語		数学A		現代社会		HR		
		加藤岳		池田		大石		林幸		
	3	化学		英語		数学B		HR		
		加藤隆		林幸		山崎		松崎		
	4	現代社会		化学		倫理社会		HR		
		大石		加藤隆		藤本		舘下		
2学年	M	数学A		日本史	物理	機械設計製図Ⅰ		HR	オフィスアワー	
						HR・機械製図室				
		加藤順		中川	浦家	磯口		渡邊聖		
	E	日本史	電気製図			数学B		HR		
			演習室第2							
		中川	佐々木・佐藤英			村上		鈴木俊		
	D	現代社会		化学		英語		HR		
		山内		近藤		沼田		戸谷		
	J	数学A		現代社会		UNIXリテラシー		HR		
						情報処理実験室				
		澤柳		山内		土江田・林裕		土江田		
	A	英語	日本史	数学A		物理		HR		
		沼田	中川	山崎		松崎		西澤		
3学年	M	物理演習	機械工学実験・実習Ⅱ			数学		HR	オフィスアワー	
			材料・制御情報・機械・力学研究室・実習工場							
		小久保	前田・福地			池田		福地		
	E	数学		国語		電気機器Ⅰ		HR		
		山崎		加藤岳		高木		佐川		
	D	数学		電子工学実験Ⅱ		電子回路Ⅰ		HR		
				電子応用実験室						
		村上		坂口・山形・渡邊駿		坂口		髙		
	J	アルゴリズム論		コンピュータネットワークⅠ		応用物理		HR		
				情報処理実験室						
		本間		高橋晃・鈴木未		浦家		三島		
	A	体育		数学		建築設計演習Ⅱ		HR		
						建築製図室・建築CAD				
		三島		小谷		馬渕		馬渕		
4学年	M	機械創造設計		メカトロニクスⅡ		CAD／CAM		特別活動	オフィスアワー	
		HR・機械製図室		演習室第1		演習室第2		高橋剛		
		小杉		赤堀・荒井		渡邊聖				
	E	電気工学実験Ⅱ			コミュニケーション実践	体育		特別活動		
		電気制御実験室								
		高木・鈴木俊・佐川		舘下徹		三島		佐々木		
	D	電磁気学Ⅲ		電気回路Ⅲ		論理回路Ⅱ		特別活動		
								坂口		
		松本		中村		山形				
	J	応用物理		体育		電気回路				
		梅津		三島		柳川				
	A	建築構造力学Ⅱ		建築工学実験		(S) 応用数学C				
				HR・CAD・材料実験室・電磁実験室						
		鈴木邦		三森・佐藤彰・大槻晋		澤柳				
5学年	M	熱力学Ⅱ		計測工学		材料評価学			オフィスアワー	
		川村		小杉		福地				
	E	制御工学		電気工学実験Ⅴ						
				HR・電気工学科計算機実験室						
		千田		野口・齊藤						
	D	制御工学		通信伝送工学		電磁気学Ⅳ				
		渡邊駿		戸谷		松本				
	J	計算機方式		コンパイラ		データベース				
		HR・情報処理実験室				情報基礎実験室				
		土江田		林裕		高橋晃				
	A	(S) 特別設計演習		鉄筋コンクリート構造		木質構造		(S) 測量学		
		建築CAD・デザイン室						HR・材料実験室		
		西澤		草苅		草苅		加藤隆・鈴木邦		
1学年	K	デザインプロポーザル		制御工学特論		日本語表現技法				
	S									
		建築CAD		S202, 専攻科計算機室		C201				
		馬渕		千田		舘下徹				
2学年	K	環境エネルギー工学		技術者倫理		創造特別実験Ⅱ				
		C201								
		赤堀								
	S	ソフトウェア工学特論				S203・電子情報システム実験室				
		専攻科計算機室		S203		専攻科計算機室				
		大貫		高橋剛・川村・大石		大貫・大前・佐藤英				

		火 1	火 2	火 3	火 4	火 5	火 6	火 7	火 8	火 9
1学年	1	物理		数学A		国語	ライフ&アースサイエンス	リメディアル物理		
		小久保		阿部義		加藤岳	小林			
	2	化学		情報リテラシー		英語				
				演習室第2						
		加藤隆		林裕・天元・鈴木未		林幸				
	3	数学A		英語		倫理社会				
		伊藤		ローズ友惠		藤本				
	4	数学A		英語		ライフ&アースサイエンス	国語			
		阿部義		片岡		小林	舘下			
2学年	M	英語	機械工学実習・実験Ⅰ			英語				
			実習工場・ラボC							
		沼田	赤堀			吉田				
	E	体育		現代社会		英語				
		恐神		山内		沼田				
	D	日本史	国語	体育		数学A				
		中川	舘下美	恐神		加藤順				
	J	国語	日本史	情報数学		物理		体育		
		舘下美	中川	本間		松崎		舘岡		
	A	現代社会		化学		体育		国語		
		山内		近藤		舘岡		舘下徹		
3学年	M	機械設計法Ⅰ		英語		世界史		(S) 英会話ライアン選択教室2 【留学生】日本語 小田島 ラボE		
		渡邊聖		松本		木村				
	E	数学		電子工学		応用物理				
		山崎		齊藤		浦家				
	D	プログラム言語Ⅰ		応用物理		数学				
		HR・演習室第1								
		渡邊駿		浦家		村上				
	J	英語		プログラミング言語Ⅱ		数学				
				情報処理実験室						
		石山		柳川・土江田		岡				
	A	建築設計演習Ⅱ				数学				
		建築製図室・建築CAD								
		馬渕				小谷				
4学年	M	英語		応用数学A		(S) 数学Ⅱ 澤柳 大講義室		(S) 英語演習 片岡 選択教室1 英会話 エリック ラボC		
				4MJ・選択教室1						
		ローズ友惠		澤柳・岡・佐藤穆						
	E	応用数学A		電子回路						
		4ED・選択教室1								
		岡・村上・佐藤穆		野口						
	D	応用数学A		工学課題実験						
		4ED・選択教室1		電子応用実験室・電子工学不燃室						
		岡・村上・佐藤穆		髙・戸谷						
	J	(S) コンピュータネットワークⅡ		応用数学A						
		情報処理実験室		4MJ・選択教室1						
		大貫・高橋晃		澤柳・岡・佐藤穆						
	A	応用数学A		応用物理						
		加藤順		梅津						
5学年	M	(S) 応用数学Ⅱ 澤柳 5D教室		流体工学Ⅱ		英語	卒業研究			
						HR・選択2				
				小杉		外国人講師	M科全教員			
	E			電気計測		卒業研究				
				小松		E科全教員				
	D			画像工学		英語	卒業研究			
				演習室第1		HR・選択2				
				浅水・大前		外国人講師	D科全教員			
	J			(S) 信号処理Ⅰ		卒業研究				
				HR・情報基礎実験室						
				大槻典		J科全教員				
	A			鉄筋コンクリート構造		卒業研究				
				草苅		A科全教員				
1学年	K			品質工学		特別研究・特別演習Ⅰ				
						各教室				
						各教員				
	S	計測工学特論				特別研究				
		S203		専攻科計算機室		各教室				
		松本		渡邊聖		各教員				
2学年	K	構造解析Ⅱ		建築環境計画		特別研究・特別演習Ⅱ				
		専攻科計算機室		S202B		各教室				
		高橋剛		佐藤彰		各教員				
	S	アナログ高周波回路設計		エネルギー変換工学		特別研究				
		C201		S203		各教室				
		高		佐川		各教員				

		水 1	水 2	水 3	水 4	水 5	水 6	水 7	水 8
1学年	1	現代社会		数学A		英語		数学演習	
		大石		阿部義		片岡		小谷	
	2	英語		国語	ライフ&アースサイエンス	物理		数学演習	
		ローズ友惠		加藤岳	小林	松崎		池田	
	3	体育		ライフ&アースサイエンス	国語	現代社会		数学演習	
		舘岡		小林	加藤岳	大石		山崎	
	4	数学A		英語		情報リテラシー		数学演習	
						演習室第1			
		阿部義		ローズ友惠		佐藤英・本田		村上	
2学年	M	現代社会		化学		英語		国語	
		山内		近藤		沼田		小田島	
	E	国語		電子計算機		機械工学概論			
				HR・演習室第1					
		小田島		野口		千田			
	D	数学A		電子工学総合演習		創造工学		物理	
						電子応用実験室			
		加藤順		渡邊駿		中村・戸谷・山形・渡邊駿		梅津	
	J	英語		情報工学演習		プログラミング言語Ⅰ		国語	
				情報基礎実験室		情報処理実験室			
		沼田		柳川・天元		高橋晃・鈴木未		舘下徹	
	A	建築設計演習Ⅰ		数学A		建築概論		デザイン工学	
		建築製図室				HR・建築製図室		ラボA	
		佐藤彰		山崎		馬渕		鈴木邦・百澤・藤原	
3学年	M	材料力学Ⅰ		数学		機械工作法Ⅱ		機械設計製図Ⅱ	
								HR・機械製図室	
		磯口		池田		高橋剛		川村	
	E	電子工学		英語		電気回路Ⅰ		体育	
		齊藤		松本		小松		三島	
	D	数学		英語		電気回路Ⅱ			
		村上		石山		松本			
	J	電磁気学		体育		プログラミング言語Ⅰ（留学生）			
						情報処理実験室			
		大槻典		三島		高橋晃・鈴木未			
	A	英語		建築CAD		建築構造力学Ⅰa		デザイン工学（留学生）	
				建築CAD室・演習室第2				ラボA	
		石山		西澤・大槻晋		加藤隆		鈴木邦・百澤・藤原	
4学年	M	機械材料Ⅱ		熱力学Ⅰ		体育		電気電子工学	
		福地		川村		舘岡		前田	
	E	応用物理		送配電工学					
		梅津		吉岡					
	D	電子回路Ⅱ		応用物理		コミュニケーション実践			
		大前		梅津		加藤岳			
	J	英語		ネットワークグラフ論		コミュニケーション実践	特別活動		
							本間		
		林幸		本間		小田島			
	A	建築設計演習Ⅲ		コミュニケーション実践	法学	建築材料			
		建築CAD							
		千葉		小田島	大石	三森			
5学年	M	制御CAD		(S) 環境学 神田 5M教室 歴史と文化Ⅰ 木村 5A教室 心理学 小杉和 5D教室 歴史と文化Ⅱ 山内 5J教室 哲学 藤本 5E教室 英語コミュニケーションA エリック 選択2		(S) 言語と社会（ドイツ語）			
		演習室第1							
		前田				藤本			
	E	電子回路				電気回路Ⅱ 英語			
						HR・選択2			
		佐川				佐川 外国人講師			
	D	(S) 電子工学特論				半導体工学			
		浅水				坂口			
	J	情報工学実験Ⅲ				(S) 英語 言語と社会（ドイツ語）			
		情報処理実験室				HR・選択2			
		本間				外国人講師 木村			
	A	建築生産				都市計画 英語			
						HR・建築CAD HR・選択2			
		鈴木邦				千葉 外国人講師			
1学年	K	統計学		総合英語Ⅰ		情報数学特論		応用数学特論	
	S								
		S203		語学演習室		S202		S202	
		澤柳		片岡		大槻典		星野	
2学年	K	特別ゼミナールⅡ				信号画像処理Ⅰ		寒中コンクリート工学	
								C201	
		S202B他 草苅・桑原・馬渕						三森	
	S							特別ゼミナールⅡ	
						S203		S203	
						浅水		各教員	

（次ページへ続く）

資料３－１－①－４（続き）

木	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	英語		(S) 美術 加藤直 ラボC 音楽 高橋久 大ゼミ		化学				
	ローズ友恵				加藤陸				
	(S) 美術 高橋由 ラボC 音楽 高橋久 大ゼミ		数学B		体育				
			阿部義		舘岡				
			数学A		英語				
			伊藤		片岡				
	体育		(S) 美術 加藤直 ラボC 音楽 高橋久 大ゼミ		数学B				
	舘岡				村上				
	数学B		体育		数学A				
	山崎		恐神		加藤順				
	英語		数学A		物理		国語		
	吉田		小谷		松崎		小田島		
	数学B		国語		英語				
	池田		舘下徹		沼田				
	UNIXリテラシー		化学		数学A				
	情報処理実験室 土江田・林裕		近藤		澤柳				
	国語	物理	建築設計演習Ⅰ		英語				
			建築製図室 佐藤彰						
	舘下徹	松崎			吉田				
	機械材料Ⅰ		英語【習熟度別】(ローズ) 片岡 吉田 林幸 沼田 大講義室 各教室		応用物理		体育		
	福地				浦家		三島		
	電気磁気学				世界史		数学		物理演習
	鈴木俊				木村		山崎		小久保
	論理回路Ⅰ				国語				
	山形				小田島				
	世界史				物理演習	数学			
	木村				小久保	岡			
	国語				数学		物理演習		
	加藤岳				小谷		小久保		
	生産工学		応用数学A		法学	コミュニケーション実践	(S) 数学Ⅱ 小谷 選択教室1		
			4MJ・選択教室1						
	高橋剛		澤柳・岡・佐藤穆		大石	舘下徹			
	応用数学A		高電圧工学		英語				
	4ED・選択教室1								
	岡・村上・佐藤穆		佐々木		林幸				
	応用数学A		電子工学実験Ⅳ		コミュニケーション実践	法学			
	4ED・選択教室1		HR・電子応用実験室						
	岡・村上・佐藤穆		松本・浅水		加藤岳	大石			
	プログラミング言語Ⅲ		応用数学A						
	情報基礎実験室		4MJ・選択教室1						
	天元		澤柳・岡・佐藤穆						
	建築史	コミュニケーション実践	建築環境工学Ⅱ						
	HR・CAD								
	西澤	小田島	桑原						
	機械工学実習・実験Ⅳ				卒業研究				
	機械製図室・各研究室								
	樋口・川村・小形				M科全教員				
	(S) 通信工学		電気材料		卒業研究				
	小松		齋藤		E科全教員				
	(S) ディジタル信号処理		(S) 言語と社会(ドイツ語)		卒業研究				
	中村		藤本		D科全教員				
	計算機制御		情報工学実験Ⅲ		卒業研究				
			情報処理実験室						
	大槻典		本間		J科全教員				
	(S) 鋼構造設計演習		建築構造力学Ⅱ		卒業研究				
	草苅		鈴木邦		A科全教員				
	機械制御工学概論		アドバンスト プログラミング		特別研究・特別演習Ⅰ				
	専攻科計算機室				各教室				
	前田				各教員				
					特別研究				
			専攻科計算機室		各教室				
			柳川		各教員				
	環境マネジメント				特別研究・特別演習Ⅱ				
					各教室				
					各教員				
			電磁波工学特論		特別研究				
	S203		S203		各教室				
	加藤雅		本田		各教員				

金	1	2	3	4	5	6	7	8	9
	数学B		体育		情報リテラシー		リメディアル 数学 登口 前田 大前 鈴木未 近藤 舘下徹 特進数学補習 岡 ラボA・C・D・E		
					演習室第2				
	小谷		舘岡		桑原				
	英語		倫理社会		数学A				
	片岡		藤本		池田				
	国語		情報リテラシー		物理				
			演習室第2						
	加藤岳		髙		松崎				
	物理		英語		国語				
	小久保		林幸		加藤岳				
	物理		国語		**工業力学**				
	浦家		小田島		**直流機**				
	英語	物理	化学		数学A		**電気回路Ⅰ**		
	沼田	松崎	近藤		小谷		**書籍**		
	電気回路Ⅰ		英語		回路設計基礎		物理		
					電子応用実験室 高・渡邊駿		梅津		
	浅水		吉田						
	数学B		英語	物理	英語				
	加藤順		沼田	松崎	吉田				
	情報処理演習		数学B		英語				
	演習室第2								
	加藤雅・大槻典		加藤順		沼田				
	数学		国語		**工業力学(留学生)**				
	池田		舘下徹		**直流機**				
	電気工学実験Ⅰ						**電気回路Ⅰ(留学生)**		
	HR・電気制御実験室								
	佐々木・本田						**書籍**		
	電子工学実験Ⅱ		世界史		体育		物理演習		
	電子応用実験室								
	坂口・山形・渡邊駿		木村		三島		小久保		
	プログラミング言語Ⅱ		数学		国語		電磁気学		
	情報処理実験室								
	柳川・土江田		岡		小田島		大槻典		
	世界史		応用物理		建築計画Ⅰ				
	木村		浦家		佐藤彰				
	コミュニケーション実践		機械工学実習・実験Ⅲ		応用物理		流体工学Ⅰ		
			機械力学・生産工学・流体工学・制御情報科研究室 樋口・渡邊駿・小形・前田(・前野・石塚・福上)						
	舘下徹				梅津		小杉		
	法学	コミュニケーション実践	電気機器Ⅱ		電気磁気学				
	大石	舘下徹	高木		鈴木俊				
	英語		電子工学実験Ⅳ		プログラム言語Ⅱ		体育		
			HR・電子応用実験室		演習室第1				
	林幸		松本・浅水		大前		舘岡		
	コミュニケーション実践	法学	情報工学実験Ⅱ		確率統計				
			情報処理実験室						
			情報・基礎実験室・応用情報実験室						
	小田島	大石	大貫・大槻典・高橋剛・神谷		天元				
	体育		建築設計演習Ⅲ		英語		特別活動 鈴木邦		
			建築CAD						
	三島		千葉		片岡				
	(S) 工業数学		CAE		(S) 言語と社会(スペイン語) 大石 選択教室1 言語と社会(中国語) 田 5D教室 (5E対象) 言語と社会(ドイツ語) 藤本 5E教室				
	演習室第1		演習室第1						
	赤堀		高橋剛						
	(S) 人工知能		(S) 電気エネルギーシステム工学				(S) シーケンス制御 松本 演習室第1 計測システム 髙 電子応用実験室 応用情報処理 浅水 5DHR		
	選択教室1 情報基礎実験室		大講義室						
	天元		小松						
	建築総合演習		建築設備Ⅰ				(S) 言語と社会(ドイツ語)		
	HR・材料実験室・CAD								
	草苅・三森・桑原		佐藤彰				木村		
			材料システム工学		コンピュータ設計工学				
			C201						
			福地						
	ネットワーク工学特論		量子統計工学						
	S203		テクノセンター		専攻科計算機室				
	戸谷		坂口		樋口				
	内燃機関工学概論				ソフトコンピューティング特論		デジタルイメージ		
	C201						専攻科計算機室		
	川村						千葉		
	応用光学						ネットワークデザイン		
	S202・テクノセンター				S203		応用情報処理実験室		
	中村				高木		高橋晃		

時限表

SHR	8:50	－	9:00
1	9:00	－	9:45
2	9:50	－	10:35
3	10:45	－	11:30
4	11:35	－	12:20
昼休み	12:20	－	13:10
5	13:10	－	13:55
6	14:00	－	14:45
7	14:50	－	15:35
8	15:40	－	16:25
9	16:30	－	17:15

太字体：編入学や留学生で教室移動があるもの

参考(学生配布の際は色づけなし)

- プログラミング演習室(第1)
- プログラミング演習室(第2)
- 電子工学応用実験室
- 情報処理実験室
- 情報基礎実験室
- 建築CAD
- 建築製図室

非常勤講師科目

集中講義
5全　知的財産　大貫・古谷

- 専攻科必修科目
- C201
- 計算機実験室
- S203
- S202

（次ページへ続く）

資料３－１－①－４（続き）

(b) 専任教員時間割

平成28年度前期個人別授業時間割　（5月19日現在）

	月									火									水									木									金								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
小田島																留	留		2E	2E	4A		4J		2M				4A			3D	3D	2E			4J		2M	2M	3J	3J			
加藤岳	2組	2組	3E	3E	1組	1組								1組							2組	3組	4D					3A	3A			4D					3組	3組			4組	4組			
舘下徹				4E	1KS	1KS	4組								4組	2A	2A								2J	2J		2A		2D	2D		4M					4M	4E	3M	3M			1年	1年	
木村														3M	3M						5選	5選		5J	5J			3J	3J			3E	3E					3A	3A	3D	3D			5A	5A	
藤本			1組	1組	4組	4組								3組	3組						5選	5選	5M	5M						5D	5D									2組	2組	5E	5E			
大石	4組	4組	2KS	2KS	2組	2組													1組	1組		4A	3組	3組								4M	4D				4E	4J			5選	5選			
池田			2組	2組	3M	3M															3M	3M			2組	2組		2D	2D								3M	3M			2組	2組			
山崎	3E	3E	2A	2A	3組	3組				3E	3E										2A	2A			3組	3組		2M	2M					3E	3E										
小谷			3A	3A										3A	3A										1組	1組				2E	2E	3A	3A	4選	4選			1組	1組			2E	2E			
岡										4ED	4ED	4MJ	4MJ	3J	3J													4ED	4ED	4MJ	4MJ		3J	3J					3J	3J			1年	1年	
加藤順	2M	2M								4A	4A			2D	2D				2D	2D												2M	2M				2J	2J	2A	2A					
宮毛																																													
登口								相	相							1年	1年																	相	相								1年	1年	
加藤隆	3組	3組	4組	4組						2組	2組																				1組	1組													
浦家				2M	3J	3J						3D	3D	3E	3E	1年	1年														3M	3M					2M	2M	3A	3A					
松崎					2A	2A	3組							2J	2J	1年	1年						2組	2組					2A			2E	2E						2E		2J	3組	3組			
梅津	4J	4J										4A	4A			1年	1年		4E	4E	4D	4D			2D	2D																4M	4M	2D		
近藤			2D	2D								2A	2A								2M	2M								2J	2J									2E	2E					
小久保	3M									1組	1組					1年	1年														3J			3A		3E	4組	4組					3D		
三島	3A	3A	4J	4J	4E	4E	3J														3J	3J			3E	3E								3M	3M		4A	4A			3D	3D			
舘岡														2A	2A	2J	2J		3組	3組			4M	4M				4組	4組			2組	2組						1組	1組			4D	4D	
吉田														2M	2M													2E	2E	3習	3習	2A	2A						2D	2D	2J	2J			
片岡							1組					4組	4組			4選	4選				1KS	1KS	1組	1組						3習	3習	3組	3組				2組	2組			4A	4A			
林幸	1組	1組	3組	3組			2組							2組	2組				4J	4J										3習	3習	4E	4E				4D	4D	4組	4組					
田村																																													
沼田	2A				2D	2D				2M				2E	2E				2J	2J			2M	2M						3習	3習	2D					2E		2J		2A	2A			
澤柳	2J	2J			4A	4A				5選	5選	4MJ	4MJ	4選	4選				1KS	1KS										4MJ	4MJ	2J	2J												
村上	3D	3D			2E	2E				4ED	4ED			3D	3D				3D	3D					4組	4組		4ED	4ED			4組	4組												
星野																																													
高橋剛			2KS	2KS			4M			2K	2K				卒	卒	卒						3M	3M				4M	4M			卒	卒	卒					5M	5M						
渡邊聖					4M	4M	2M			3M	3M	1KS	1KS		卒	卒	卒														卒	卒	卒				4M	4M	4M	2M	2M			
小杉	4M	4M	5M	5M								5M	5M		卒	卒	卒											5M	5M	5M	5M	卒	卒	卒				4M	4M	4M			4M	4M	
川村	5M	5M	2KS	2KS											卒	卒	卒				4M	4M			3M	3M		5M	5M	5M	5M	卒	卒	卒			2K	2K							
前田		3M	3M	3M											卒	卒	卒		5M	5M					4M	4M		1K	1K			卒	卒	卒				4M	4M	4M			1年	1年	
赤堀	2K	2K	4M	4M							2M	2M	2M		卒	卒	卒															卒	卒	卒			5M	5M							
樋口					2M	2M									卒	卒	卒		3M	3M								5M	5M	5M	5M	卒	卒	卒				4M	4M	4M	1KS	1KS			
福地		3M	3M	3M	5M	5M	3M								卒	卒	卒		4M	4M								3M	3M			卒	卒	卒					1K	1K					
高木	4E	4E	4E		3E	3E								卒	卒	卒	卒														卒	卒	卒	卒					4E	4E	2KS	2KS			
野口			5E	5E	5E	5E	5E	5E				4E	4E	卒	卒	卒	卒				2E	2E										卒	卒	卒	卒										
小松												5E	5E	卒	卒	卒	卒						3E	3E				5E	5E			卒	卒	卒	卒				5EDJ	5EDJ						
佐川	4E	4E	4E				3E					2S	2S	卒	卒	卒	卒		5E	5E			5E									卒	卒	卒	卒										
千田	5E	5E	1KS	1KS										卒	卒	卒	卒						2E	2E								卒	卒	卒	卒										
佐々木		2E	2E	2E			4E							卒	卒	卒	卒													4E	4E	卒	卒	卒	卒		3E	3E	3E	3E	3E	3E			
鈴木俊	4E	4E	4E				2E							卒	卒	卒	卒											3E	3E			卒	卒	卒	卒						4E	4E			
本田														卒	卒	卒	卒						4組	4組						2S	2S	卒	卒	卒	卒		3E	3E	3E	3E	3E	3E			
齋藤			5E	5E	5E	5E	5E	5E				3E	3E	卒	卒	卒	卒		3E	3E									5E	5E	卒	卒	卒	卒								2E	2E	
佐藤英		2E	2E	2E	2KS	2KS	2KS							卒	卒	卒	卒						4組	4組								卒	卒	卒	卒										
中村			4D	4D												卒	卒	卒					2D	2D				5D	5D			卒	卒	卒			2S	2S			2S	2S			
坂口			3D	3D	3D	3D	4D									卒	卒	卒					5D	5D								卒	卒	卒			3D	3D	1S	1S					
松本	4D	4D			5D	5D				1S	1S					卒	卒	卒					3D	3D						4D	4D	卒	卒	卒					4D	4D			5EDJ	5EDJ	
浅水												5D	5D			卒	卒	卒	5D	5D			2KS	2KS						4D	4D	卒	卒	卒			2D	2D	4D	4D			5EDJ	5EDJ	
戸谷			5D	5D			2D					4D	4D			卒	卒	卒					2D	2D								卒	卒	卒			1S	1S							
山田																卒	卒	卒														卒	卒	卒											
高							3D			2S	2S	4D	4D			卒	卒	卒														卒	卒	卒					3組	3組	2D	2D	5EDJ	5EDJ	
山形			3D	3D	4D	4D										卒	卒	卒					2D	2D				3D	3D			卒	卒	卒			3D	3D							
大前					2KS	2KS	2KS					5D	5D			卒	卒	卒	4D	4D												卒	卒	卒							4D	4D	1年	1年	
渡邊駿	5D	5D	3D	3D						3D	3D					卒	卒	卒			2D	2D	2D	2D								卒	卒	卒			3D	3D			2D	2D			
大貫	2S	2S			2KS	2KS	2KS			4J	4J			卒	卒	卒									2S	2S						卒	卒	卒					4J	4J					
大槻典												5J	5J	卒	卒	卒			3J	3J			1KS	1KS	2S	2S		5J	5J			卒	卒	卒					4J	4J			3J	3J	
高橋晃			3J	3J	5J	5J				4J	4J			卒	卒	卒							2J	2J	2S	2S						卒	卒	卒					4J	4J			2S	2S	
柳川					4J	4J						3J	3J	卒	卒	卒					2J	2J			2S	2S				1KS	1KS	卒	卒	卒			3J	3J							
本間	3J	3J										2J	2J	卒	卒	卒			5J	5J	4J	4J		4J	2S	2S				5J	5J	卒	卒	卒											
天元												2組	2組	卒	卒	卒					2J	2J			2S	2S		4J	4J			卒	卒	卒			5EDJ	5EDJ			4J	4J			
林裕			5J	5J	2J	2J						2組	2組	卒	卒	卒									2S	2S		2J	2J			卒	卒	卒					4J	4J					
土江田	5J	5J			2J	2J	2J					3J	3J	卒	卒	卒									2S	2S		2J	2J			卒	卒	卒			3J	3J							
中島														卒	卒	卒									2S	2S						卒	卒	卒											
鈴木未			3J	3J								2組	2組	卒	卒	卒							2J	2J	2S	2S						卒	卒	卒									1年	1年	
草苅			5A	5A	5A	5A						5A	5A	卒	卒	卒	卒		2K	2K								5A	5A			卒	卒	卒	卒		5A	5A							
佐藤彰			4A	4A								2K	2K	卒	卒	卒	卒		2A	2A										2A	2A	卒	卒	卒	卒				5A	5A	3A	3A			
三森			4A	4A										卒	卒	卒	卒						4A	4A	2K	2K						卒	卒	卒	卒		5A	5A							
千葉														卒	卒	卒	卒		4A	4A			5A	5A								卒	卒	卒	卒				4A	4A			2K	2K	
加藤雅							5A	5A						卒	卒	卒	卒						3A	3A				2KS	2KS			卒	卒	卒	卒		2A	2A							
鈴木邦	4A	4A					5A	5A						卒	卒	卒	卒		5A	5A					2A	2A				5A	5A	卒	卒	卒	卒								4A		
西澤	5A	5A					2A							卒	卒	卒	卒				3A	3A			2A	2A		4A				卒	卒	卒	卒										
馬淵	1KS	1KS			3A	3A	3A			3A	3A	3A	3A	卒	卒	卒	卒		2K	2K			2A	2A								卒	卒	卒	卒										
大槻香			4A	4A										卒	卒	卒	卒				3A	3A										卒	卒	卒	卒		2A	2A							
栗原														卒	卒	卒	卒		2K	2K					2A	2A				4A	4A	卒	卒	卒	卒		5A	5A			1組	1組			

（次ページへ続く）

資料３－１－①－４（続き）

（c）非常勤講師時間割

平成28年度前期個人別授業時間割　（4月12日現在）

	月									火									水									木									金								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9
舘下美										2J	2D																																		
山　内	2D	2D	2J	2J						2A	2A	2E	2E						2M	2M	5選	5選																							
中　川	2E	2A	2M							2D	2J																																		
神　田																					5選	5選																							
田　野																																									5選	5選			
阿部義										4組	4組	1組	1組						4組	4組	1組	1組								2組	2組														
伊　藤										3組	3組																			3組	3組														
恐　神										2E	2E	2D	2D																	2M	2M														
松本茂												3M	3M								3E	3E																							
石　山										3J	3J								3A	3A	3D	3D																							
ライアン														5M	5D	3選	3選						5A	5E	5J																				
エリック														5M	5D	4選	4選				5選	5選	5A	5E	5J																				
ローズ友恵										4M	4M	3組	3組						2組	2組	4組	4組						1組	1組	3習	3習														
高橋久																												23組	23組	14組	14組														
加藤直																														14組	14組														
小杉和																					5選	5選																							
佐藤穆										4ED	4ED	4MJ	4MJ															4ED	4ED	4MJ	4MJ														
加藤順																																													
高橋由																												23組	23組																
小　林														4組	1組						3組	2組																							
吉　岡																					4E	4E																							
荒　井			4M	4M																																									
星　野																									1KS	1KS																			

（出典　平成H28年度前期授業時間割）

資料３－１－①－５

「専任教員の研究分野」

第1回地域連携・研究推進委員会
H28.4.27
資料2

研究分野対応表

分野名	校長	機械工学科	電気工学科	電子工学科	情報工学科	建築学科	一般教育科（理系）	一般教育科（文系）	教育研究支援センター
構造材料・加工		高橋 剛				三森 敏司			石塚 和則
		樋口 泉							江口 陽人
		福地 孝平							樋上 磨
									的野 卓司
									吉田 周平
機能材料・製造			齋藤 誠紀	大前 洸斗					
				坂口 直志					
				松本 和健					
耐震構造・防災	岸 徳光					草苅 敏夫			
						鈴木 邦康			
電気・電子			小松 正明				松﨑 俊明		稲守 栄
			佐々木 敦						横山 安弘
			佐藤 英樹						
情報処理基盤			野口 孝文	戸谷 伸之	髙橋 晃				小清水 誠
				山形 文啓					髙坂 宜宏
									二谷 聡志
									村上 誠一
信号情報処理			高木 敏幸	浅水 仁	大槻 典行				
			本田 匠	髙 義孔	大貫 和永				
				山田 昌尚	土江田 織枝				
					林 裕樹				
					柳川 和徳				
知識情報処理		渡邊 聖司		渡邊 駿	鈴木 未央				
					天元 宏				
					中島 陽子				
					本間 宏利				
メカトロ・計測制御		前田 貴章	千田 和範	中村 隆					
熱・流体・自然環境		赤堀 匡俊	佐川 正人			大槻 香子	浦家 淳博		
		川村 淳浩				加藤 雅也	加藤 隆		
		小杉 淳				桒原 浩平			
						佐藤 彰治			
（素粒子）物理学			鈴木 俊哉				梅津 裕志		
							澤柳 博文		
							宮毛 明子		
							村上 公一		
数学							池田 誠一		
							岡 康之		
							小谷 泰介		
							山﨑 俊博		
							登口　大		
生活・文化・社会環境						千葉 忠弘		大石 玄	
						西澤 岳夫		木村 峰明	
						馬淵 大宇		藤本 一司	
言語・文学・コミュニケーション								小田島 本有	
								片岡 務	
								加藤 岳人	
								舘下 徹志	
								田村 聡子	
								沼田 敦	
								林 幸利	
教育・生涯学習・教材開発							近藤 浩文	舘岡 正樹	
							小久保 慶一	三島 利紀	
								吉田 茂	

（出典　地域連携・研究推進委員会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

一般教育部門の授業担当教員は，専任教員27名であり，設置基準上の必要専任教員数の22名を上回っている。また，各教員の研究分野はそれぞれ担当する授業科目にふさわしいものである。

本校の一般教育部門の授業は，本校の学習目標のＡ，Ｃ，Ｆを主に達成させるよう設計されている。選択科目を中心として一部の科目を非常勤講師に依存してはいるが，必修科目を中心として大半の科目では専任教員による授業が展開されている。また，高学年の英語と英会話の授業では，ネイティブスピーカーを非常勤講師として採用し，オーラルコミュニケーション能力の育成が図られている。

これらのことから，教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員は適切に配置されている。

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

前掲の資料３－ １－ ①－ １の通り，本校の専門科目の担当教員数は49名であり，高等専門学校設置基準の28名を上回っている。また，教授・准教授の合計人数は39名であり，設置基準上の必要数38名を上回っている。

本校の各専門分野の専任教員および非常勤講師の配置状況を資料３－ １－ ②－ １～２に示す。専門科目の専任教員の学位・資格に関して，博士所持者は49名中41名（84%）であり，技術士は２名，一級建築士は２名である。また，非常勤講師は３名である。

専任教員の経歴に関して，それぞれの専門分野に関連した外部機関での勤務経験者は，延べ67名（137%）であり，すべての専門分野に複数名ずつ配置されている。また，常勤の経験に限っても，延べ33名（67%）であり，内訳として，高等教育機関の勤務経験者は11名（22%），中等教育機関は１名（２%），研究機関は２名（４%），民間企業は19名（39%）である。

各分野の専門科目は，主に学習目標Ｂ，Ｃ，Ｄ，Ｅ，Ｇを達成させるために展開している。各分野とも，非常勤講師への依存は，前掲の資料３－ １－ ①－ ４の通り，人数・時間ともに軽微であり，ほぼすべての講義，実験，実習，演習，及び卒業研究について，専任教員が担当・指導している。専任教員の現在の研究分野は，前掲の資料３－ １－ ①－ ５の通りであり，担当する科目と直接的または間接的に関連するものとなっている。なお，専門科目の非常勤講師は，資料３－ １－ ②－ ２の通り，弁理士，企業技術者，等であり，時代に即応した実務的・先端的な授業展開を図っている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の各専門分野の教員数は高等専門学校設置基準を上回っている。また，教授・准教授の合計人数は高等専門学校設置基準を満たしている。各分野とも，ほぼすべての科目（講義，演習，実験，実習，及び卒業研究）が専任教員によって担当・指導されている。専任教員の学位・資格について，博士の学位所持者は８割以上であり，その中には技術士・一級建築士の資格所持者もいる。専任教員の経歴について，それぞれの専門分野に関連した外部機関の勤務経験者が約７割であり，それらがすべての専門分野に配置されている。非常勤教員については，現役弁理士，企業技術者，等の専門家であり，時代に即応した授業展開が図られている。これらのことから，教育の目的を達成するために必要な各分野の専門科目担当教員は適切に配置されている。

資料３－１－②－ １

「専門科目を担当する専任教員」

専門科目を担当する専任教員

担当科目について，卒業研究，特別研究・演習・ゼミ，および創造特別実験は省略．
教育機関勤務経験について，aは常勤，bは非常勤，cはその他（学振・内地・外地研究員等）．

H28情報工学分野10名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	大貫和永	博士 (情報科学)	情報工学基礎，工学基礎， ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸII，情報論， 知的財産，情報工学実験II	ｿﾌﾄｳｪｱ 工学特論	b			a	
教授	大槻典行	博士 (情報科学)	電磁気学，計算機制御， 情報工学実験II， 信号処理I・II，電子回路， 工学基礎，情報工学演習	情報数学 特論					
教授	髙橋　晃	工学修士	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語I，ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ， ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸI・II，ｵｰﾄﾏﾄﾝ， 情報工学実験II，工学基礎	ﾈｯﾄﾜｰｸ ﾃﾞｻﾞｲﾝ	b				
教授	天元　宏	博士(工学)	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語III， 確率統計，情報ﾘﾃﾗｼｰ， 人工知能，情報工学演習	人工知能 特論， 多変量解析	b,c				
准教授	柳川和徳	博士(工学)	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語II， 情報工学実験I，電気回路， 図形処理，情報工学演習， 数値解析，工学基礎	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ	b,c				
准教授	本間宏利	博士(工学)	情報数学，ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ論， ｿﾌﾄｳｪｱ工学，工学基礎， 情報工学実験III， ﾈｯﾄﾜｰｸ・ｸﾞﾗﾌ論	ｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑ 特論	c				
准教授	林　裕樹	博士(工学)	ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ，ｺﾝﾊﾟｲﾗ， 情報ﾘﾃﾗｼｰ，情報工学実験II	ｱﾄﾞﾊﾞﾝｽﾄ ｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ	a,b				
講師	土江田織枝	修士(工学)	UNIXﾘﾃﾗｼｰ，計算機方式， 工学基礎，情報工学実験I， ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語II					a	
助教	中島陽子	博士(工学)	情報工学演習， 論理回路，工学基礎		c				前期外地 研究員
助教	鈴木未央	博士(工学)	ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ言語I，工学基礎， ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾈｯﾄﾜｰｸI， ｿﾌﾄｺﾝﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ，情報ﾘﾃﾗｼｰ						

H28機械工学分野9名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	高橋　剛	博士(工学)， 技術士 (機械)	機械工作法I・II，生産工学， 機械工学実習・実験III， ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃﾞｻﾞｲﾝ・ｺﾝﾍﾟ，CAE， 構造解析I・II，機械材料	技術者倫理， 構造解析II				a	
教授	樋口　泉	博士(工学)	機械設計製図I，材料力学I・II， 機械工学実習・実験I・III・IV	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 設計工学	b	a			
教授	川村淳浩	博士(工学)， 技術士 (機械)	機械設計製図II，熱力学I・II， 機械工学実習・実験III・IV， 熱ｴﾈﾙｷﾞｰ工学	技術者倫理， 内燃機関 工学概論			b	a	
准教授	渡邊聖司	工学修士	工業力学，機械設計法I・II， 機械工学実習・実験III， CAD，CAD/CAM	品質工学	c				
准教授	小杉　淳	修士(工学)	流体工学I・II， 機械創造設計，計測工学， 機械工学実習・実験III・IV， 流体機械，応用流体工学	油空圧工学 概論	b			a	

（次頁へ続く）

資料３－１－②－ １（続き）

准教授	赤堀匡俊	博士(工学)	機械工学実習・実験I・III, 伝熱工学, ﾒｶﾄﾛﾆｸｽI・II, 情報ﾘﾃﾗｼｰ, 工業数学	環境ｴﾈﾙｷﾞｰ 工学, 数値計算特論	a				
准教授	前田貴章	博士(工学)	機械工学実習・実験II・III, 電気電子工学, 制御工学, 制御CAD, 工学基礎	機械制御 工学概論	b				
准教授	関根孝次	博士(工学)	機械力学, 振動工学, 工学基礎	構造解析I	a,b	b		a	後期採用
助教	福地孝平	博士(工学)	機械工学実習・実験II, 機械材料I・II, 材料評価学, 表面工学, 情報ﾘﾃﾗｼｰ	材料ｼｽﾃﾑ 工学	b				

H28電気工学分野10名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	高木敏幸	博士(工学)	電気機器I・II, 情報処理, 電気工学実験II	ｿﾌﾄｺﾝ ﾋﾟｭｰﾃｨﾝｸﾞ 特論	b,c				
教授	野口孝文	博士(工学)	電子計算機, 電子回路, 電気工学実験V	ｿﾌﾄｳｪｱ ｱｰｷﾃｸﾁｬ	c	b			
教授	小松正明	博士(工学)	電気回路I, 電気計測, 通信工学, 電気工学実験IV, 電気ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑ工学	宇宙ｼｽﾃﾑ 工学	c		a		
教授	佐々木　敦	博士(工学)	電気工学実験I, 高電圧工学, 電気製図, 電気設計	ﾌﾟﾗｽﾞﾏ工学				a	
准教授	千田和範	博士(工学)	機械工学概論, 制御工学, 電気工学実験III	制御工学 特論	a				
准教授	佐川正人	博士(文学)	電気工学実験II, 電子回路, 電気法規・電気施設管理, 発変電工学, 電気回路II, 電気製図	ｴﾈﾙｷﾞｰ 変換工学	a			a	
准教授	鈴木俊哉	博士(理学)	ものづくり基礎, 電気磁気学, 電気工学実験II, 工学基礎		b				
准教授	齋藤誠紀	博士(工学)	電気回路I, 電子工学, 電気材料						後期外地 研究員
助教	本田　匠	博士 (情報科学)	ものづくり基礎, 工学基礎, 電気工学実験I, 電磁波工学, 情報ﾘﾃﾗｼｰ	電磁波工学 特論	b		c	a	
助教	佐藤英樹		電気製図, 電気工学実験III・IV, 情報ﾘﾃﾗｼｰ, 電気応用					a	

H28電子工学分野10名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	中村　隆	博士(工学)	電子回路III, 電気回路III, ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ信号処理, 光ｴﾚｸﾄﾛﾆｸｽ, 創造工学, 電子工学実験V, 数値解析	応用光学	c			a	
教授	坂口直志		ものづくり基礎, 電子回路I, 電子工学実験II, 工学基礎, 電子材料I・II, 半導体工学I・II	量子統計 工学				a	
教授	松本和健	博士(工学)	電子工学実験III・IV, 電磁気学III・IV, 電気回路II, ｼｰｹﾝｽ制御, ｼｰｹﾝｽ制御応用演習	計測工学 特論			a	a	
教授	浅水　仁	博士(工学)	電気回路I, 応用情報処理, 電子工学実験IV・V, 通信網工学, 画像工学, 電子機器	信号画像 処理I	b			a	

（次頁へ続く）

資料３－１－②－ １（続き）

准教授	戸谷伸之	博士(工学)	ものづくり基礎，創造工学， 電磁気学I･II，工学課題実験， 通信伝送工学，電子計測， 工学基礎	ﾈｯﾄﾜｰｸ 工学特論	a,b				
准教授	山田昌尚	博士(工学)， 修士(学術)			c				外地 研究員
准教授	髙　義礼	博士(工学)	回路設計基礎演習，ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ， 電子工学実験III，計測ｼｽﾃﾑ， 工学課題実験，情報ﾘﾃﾗｼｰ， 電子工学基礎，電磁波工学	ｱﾅﾛｸﾞ 高周波 回路設計	a				
准教授	山形文啓	博士(工学)	ものづくり基礎，ﾏｲｸﾛｺﾝﾋﾟｭｰﾀ， 創造工学，ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ通信概論， ﾊｰﾄﾞｳｪｱ記述言語， 論理回路I･II，電子工学実験I･II	ﾃﾞｨｼﾞﾀﾙ通信 概論				a	
助教	大前洸斗	博士(工学)	電子回路II，ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学， 画像工学，電子工学実験V， ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ言語II，情報基礎	機能ﾃﾞﾊﾞｲｽ 工学					
助教	渡邊　駿	博士(工学)	制御工学，電子工学実験II， 創造工学，ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ言語I， 回路設計基礎演習， 電子工学総合演習	ﾛﾎﾞﾃｨｸｽ	b				

H28建築学分野10名

職名	氏名	学位・資格	担当科目		他機関勤務経験				備考
			本科	専攻科	高等教育 a,b,c	中等教育 a,b	研究機関 a,b,c	民間企業 a	
教授	草苅敏夫	博士(工学)	鋼構造，鋼構造設計演習， 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ構造， 建築総合演習，木質構造， 建築防災工学，溶接工学	耐震構造	a				
教授	佐藤彰治	博士(工学)	建築設計演習I，建築計画I， 建築工学実験， 建築設備I･II	建築環境 計画， 高齢者 環境学	a,b				
教授	三森敏司	博士(工学)	建築材料，建築工学実験， 建築総合演習，工学基礎， ｺﾝｸﾘｰﾄ工学特論	建築材料学， 寒中ｺﾝｸﾘｰﾄ 工学					
教授	加藤雅也	博士(工学)	建築構造力学Ia･Ib，測量学， 土質基礎工学，海洋建築， 情報処理演習	環境 ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ			c	a	
准教授	千葉忠弘	工学修士	建築設計演習III， 建築計画II，都市計画	ﾃﾞｼﾞﾀﾙ ｲﾒｰｼﾞ， 設計支援 ｼｽﾃﾑ					
准教授	鈴木邦康	博士(工学)	測量学，建築構造力学II･III， RC構造設計演習，建築生産， ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学，建築構造解析	応用力学	a			a	
准教授	西澤岳夫	博士(工学)， 一級建築士	建築設計演習I･IV，建築史， 建築CAD演習，ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ， ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学，特別設計演習					a	
准教授	桒原浩平	博士(工学)	建築環境工学I･II，工学基礎， 建築総合演習，ﾃﾞｻﾞｲﾝ工学， 情報ﾘﾃﾗｼｰ，ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ	空調設備	a,c				
助教	大槻香子		情報処理演習，建築工学実験， 建築CAD演習，ｲﾝﾃﾘｱﾃﾞｻﾞｲﾝ					a	
助教	馬淵大宇	博士 (建築学)， 一級建築士	建築概論，建築法規， 建築設計演習II	ﾃﾞｻﾞｲﾝ ﾌﾟﾛﾎﾟｰｻﾞﾙ	b				

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－②－ ２

「専門科目を担当する非常勤教員」

専門科目を担当する非常勤講師

担当科目の括弧内の数は週毎の担当時間数（前期，後期）.

H28

氏名	本科担当科目	専攻科担当科目	職業・勤務先	備考
古谷栄男	知的財産 （集中講義15）		古谷国際特許事務所 経営・弁理士	全分野共通， 情報工学分野専任教員との 共同担当
吉岡一城	送配電工学(2,0)		北海道電力	電気工学分野
荒井　誠	メカトロニクスI・II (2,2)		釧路工業技術センター 専務理事	機械工学分野

（出典　本自己評価のための作成資料）

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

本校専攻科の開講科目及び非常勤講師を資料３－ １－ ③－ １～３に示す。専任教員は前掲資料３－１－ ①－ ２及び資料３－ １－ ②－ １の通りである。本校では専攻科単独の教員組織を設置せず，ほぼすべての科目を本科の一般教育部門・専門分野所属の教員が担当しており，非常勤教員の採用は最小限となっている。

本校教員の学位所持者の割合は，一般理系・専門分野の博士，並びに一般文系の修士以上がともに８割程度に上っており，また大学での教育経験者の割合も１割以上である。これによって本校専攻科の目的である「高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導」することの達成を図っている。専攻科の授業科目については本科の基礎の上に実施しており，担当する教員についても準学士課程の科目担当実績を考慮して配置している。

本校専攻科は，資料３－ １－ ③－ ４の通り，独立行政法人大学改革支援・学位授与機構によって学士の学位授与の特例適用が認定されている。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の授業科目を担当する教員団には，専門分野に関連する博士・修士の学位所持者，民間企業の実務経験者，大学の教育経験者が含まれている。専攻科の授業科目については本科の基礎の上に実施されており，担当する教員についても本科の科目担当実績が考慮されて配置されている。さらに，学士授与の特例も適用されている。これらのことから，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員は適切に配置されている。

資料３－１－③－　１

「専攻科建設・生産システム工学専攻科目表」

■教育課程　Curriculum

建設・生産システム工学専攻　Advanced Course of Construction and Manufacturing Systems Engineering

		授業科目 Subjects		単位数 Credits	毎週授業時間数 Hours by Week 1年 1st 前期	1年 1st 後期	2年 2nd 前期	2年 2nd 後期	備考 Notes	
一般科目 General Education Subjects	必修 Required Subjects	総合英語Ⅰ	Comprehensive English Ⅰ	2	2					
		日本語表現技法	Technique of Japanese Expression	2	2					
		技術者倫理	Engineer Ethics	2			2			
		小計	Subtotal	6					6単位修得 6 credits	
	選択 Elective Subjects	総合英語Ⅱ	Comprehensive English Ⅱ	2		2				
		統計学	Statistics	2	2					
		応用解析学	Applied Analysis	2		2				
		物理学特論	Advanced Physics	2				2		
		振動と波の力学	Mechanics of Vibration and Wave	2			2			
		宇宙物理学	Space Physics	2		2				
		小計	Subtotal	12					2単位以上修得 Must take 2 or more credits	
一般科目開設単位小計			Total of Credits Offered in General Education Subjects	18					8単位以上修得 Must take 8 or more credits	
専門科目 Specialized Subjects	専門共通科目 Special Common Subjects 必修 Required Subjects	システム工学	System Engineering	2	2					
		小計	Subtotal	2					2単位修得 2 credits	
	選択 Elective Subjects	制御工学特論	Advanced Control System	2	2					
		品質工学	Quality Engineering	2	2					
		コンピュータ設計工学	Computer Design Engineering	2	2					
		科学技術表現技法	Technique of Technological Expression	2	2					
		多変量解析	Multivariate Analysis	2		2				※1
		数値計算特論	Advanced Numerical Calculation	2		2				※2
		ロボティクス	Robotics	2		2				※3
		人工知能特論	Advanced Artificial Intelligence	2		2				
		ソフトコンピューティング特論	Advanced Soft Computing	2			2			
		情報数学特論	Advanced Mathematics for Information	2	2					
		信号画像処理Ⅰ	Signal and Graphic Processing Ⅰ	2			2			
		環境マネジメント	Environmental Management	2			2			
		設計支援システム	Design Supporting System	2		2				
		アドバンストプログラミング	Advanced Programming	2	2					
		アドバンストコンピューティング	Advanced Computing	2		2				
		デザインプロポーザル	Design Proposal	2	2					
		宇宙システム工学	Space Systems Engineering	2		2				
		応用数学特論	Advanced Applied Mathematics	2	2					
		特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						
		特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						
		特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						
		特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						
		小計	Subtotal	46					14単位以上修得 Must take 14 or more credits	
	専門共通科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Common Subjects	48					16単位以上修得 Must take 16 or more credits	
	専門展開科目 Special Developed Subjects 必修 Required Subjects	建設・生産システム工学特別ゼミナールⅠ	Advanced Seminar of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅰ	1		2				
		建設・生産システム工学特別ゼミナールⅡ	Advanced Seminar of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅱ	1			2			
		建設・生産システム工学特別演習Ⅰ	Advanced Exercise of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅰ	1	2					
		建設・生産システム工学特別演習Ⅱ	Advanced Exercise of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅱ	1			2			
		創造特別実験Ⅰ	Advanced Experiment for creation Ⅰ	1		3				
		創造特別実験Ⅱ	Advanced Experiment for creation Ⅱ	1			3			
		建設・生産システム工学特別研究Ⅰ	Advanced Research of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅰ	8	8	8				
		建設・生産システム工学特別研究Ⅱ	Advanced Research of Construction and Manufacturing Systems Engineering Ⅱ	8			8	8		
		インターンシップⅠ	Internship Ⅰ	2						
		小計	Subtotal	24					24単位修得 24 credits	
	選択 Elective Subjects	機械制御工学概論	Introduction to Mechanical Control Engineering	2	2					
		応用力学	Applied Mechanics	2		2				
		材料システム工学	Material System	2	2					
		環境エネルギー工学	Environmental Overhead	2			2			
		空調設備	Air Conditioning Equipment	2		2				
		建築環境計画	Architectural Environmental Planning	2			2			
		内燃機関工学概論	Introduction to Internal-combustion Engine	2			2			
		油空圧工学概論	Introduction to Oil-hydraulic and Pneumatic Engineering	2		2				
		構造解析Ⅰ	Structural Analysis Ⅰ	2		2				
		構造解析Ⅱ	Structural Analysis Ⅱ	2			2			
		耐震構造	Earthquake Resistant Construction	2				2		
		建設材料学	Construction Materials	2		2				
		寒中コンクリート工学	Winter Concrete Engineering	2			2			
		高齢者環境学	Environment for aging people	2		2				
		デジタルイメージ	Digital Image	2			2			
		インターンシップⅡ	Internship Ⅱ	2						
		小計	Subtotal	32					14単位以上修得 Must take 14 or more credits	
	専門展開科目開設単位小計		Total of Credits Offered in Special Developed Subjects	56					38単位以上修得 Must take 38 or more credits	
専門科目開設単位小計			Total of Credits Offered in Specialized Subjects	104					54単位以上修得 Must take 54 or more credits	
全授業科目開設単位合計			Total of Credits Offered in all subjects	122						
修得単位合計			Total of Credits Completed	62単位以上 Must take 62 or more credits						

※１　統計学，応用解析学，多変量解析及びアドバンストコンピューティングから２単位以上を修得すること。
Must take 2 or more credits among Statistics, Applied Analysis, Multivariate Analysis and Advanced Computing.

※２　数値計算特論，ソフトコンピューティング特論，情報数学特論，信号画像処理Ⅰ及びアドバンストプログラミングから２単位以上を修得すること。
Must take 2 or more credits among Advanced Numerical Calculation, Advanced Soft Computing, Advanced Mathematics for Information, Signal and Graphic Processing I and Advanced Programming.

※３　本科建築学科を卒業した者は，アドバンストコンピューティング，ソフトコンピューティング特論から２単位以上を修得すること。
Must take 2 or more credits among Advanced Compution, Advanced Soft Computing if graduated from the Department of Architecture in Regular Course.

31

（出典　学校要覧2016）

資料３－１－③－ ２

「専攻科電子情報システム工学専攻科目表」

電子情報システム工学専攻 Advanced Course of Electronic and Information Systems Engineering

			授業科目 Subjects		単位数 Credits	毎週授業時間数 Hours by Week 1年 1st 前期	1年 1st 後期	2年 2nd 前期	2年 2nd 後期	備考 Notes	
一般科目 General Education Subjects	必修 Required Subjects		総合英語Ⅰ	Comprehensive English Ⅰ	2	2					
			日本語表現技法	Technique of Japanese Expression	2	2					
			技術者倫理	Engineer Ethics	2			2			
			小計	Subtotal	6					6単位修得 6 credits	
	選択 Elective Subjects		総合英語Ⅱ	Comprehensive English Ⅱ	2		2				
			統計学	Statistics	2	2					
			応用解析学	Applied Analysis	2		2				
			物理学特論	Advanced Physics	2				2		
			振動と波の力学	Mechanics of Vibration and Wave	2			2			
			宇宙物理学	Space Physics	2		2				
			小計	Subtotal	12					2単位以上修得 Must take 2 or more credits	
一般科目開設単位小計				Total of Credits Offered in General Education Subjects	18					8単位以上修得 Must take 8 or more credits	
専門科目 Specialized Subjects	専門共通科目 Special Common Subjects	必修 Required Subjects	システム工学	System Engineering	2	2					
			小計	Subtotal	2					2単位修得 2 credits	
		選択 Elective Subjects	制御工学特論	Advanced Control System	2	2					
			品質工学	Quality Engineering	2	2					
			コンピュータ設計工学	Computer Design Engineering	2	2					
			科学技術表現技法	Technique of Technological Expression	2	2					
			多変量解析	Multivariate Analysis	2		2				
			数値計算特論	Advanced Numerical Calculation	2		2				
			ロボティクス	Robotics	2		2				
			人工知能特論	Advanced Artificial Intelligence	2		2				
			ソフトコンピューティング特論	Advanced Soft Computing	2			2			
			情報数学特論	Advanced Mathematics for Information	2	2					
			信号画像処理Ⅰ	Signal and Graphic Processing Ⅰ	2			2			
			環境マネジメント	Environmental Management	2			2			
			設計支援システム	Design Supporting System	2		2				
			アドバンストプログラミング	Advanced Programming	2	2					
			アドバンストコンピューティング	Advanced Computing	2		2				
			デザインプロポーザル	Design Proposal	2	2					
			宇宙システム工学	Space Systems Engineering	2		2				
			応用数学特論	Advanced Applied Mathematics	2	2					※1
			特別講義Ⅰ	Special Lecture Ⅰ	1						※2
			特別講義Ⅱ	Special Lecture Ⅱ	2						※3
			特別講義Ⅲ	Special Lecture Ⅲ	3						※4
			特別講義Ⅳ	Special Lecture Ⅳ	4						※5
			小計	Subtotal	46					14単位以上修得 Must take 14 or more credits	
	専門共通科目開設単位小計			Total of Credits Offered in Special Common Subjects	48					16単位以上修得 Must take 16 or more credits	
	専門展開科目 Special Developed Subjects	必修 Required Subjects	電子情報システム工学特別ゼミナールⅠ	Advanced Seminar of Electronic and Information Systems Engineering Ⅰ	1		2				
			電子情報システム工学特別ゼミナールⅡ	Advanced Seminar of Electronic and Information Systems Engineering Ⅱ	1			2			
			電子情報システム工学特別演習	Advanced Exercise of Electronic and Information Systems Engineering	2				4		
			創造特別実験Ⅰ	Advanced Experiment for creation Ⅰ	1		3				
			創造特別実験Ⅱ	Advanced Experiment for creation Ⅱ	1			3			
			電子情報システム工学特別研究Ⅰ	Advanced Research of Electronic and Information Systems Engineering Ⅰ	8	8	8				
			電子情報システム工学特別研究Ⅱ	Advanced Research of Electronic and Information Systems Engineering Ⅱ	8			8	8		
			インターンシップⅠ	Internship Ⅰ	2						
			小計	Subtotal	24					24単位修得 24 credits	
		選択 Elective Subjects	エネルギー変換工学	Energy Transformation Engineering	2			2			
			プラズマ工学	Plasma Engineering	2		2				
			ディジタル通信概論	Introduction to Digital Communications	2		2				
			アナログ高周波回路設計	Analog high-frequency Circuit Design	2			2			
			電磁波工学特論	Advanced Electromagnetic Wave Engineering	2			2			
			ソフトウェアアーキテクチャ	Software Architecture	2		2				
			デバイス材料工学特論	Advanced Device Material Engineering	2			2			
			量子統計工学	Quantum Statistics Engineering	2	2					
			応用光学	Applied Optics	2			2			
			機能デバイス工学	Functional Device Engineering	2		2				
			ネットワーク工学特論	Advanced Network Engineering	2	2					
			信号画像処理Ⅱ	Signal and Graphic Processing Ⅱ	2		2				
			計測工学特論	Advanced Electrical Measurement	2	2					
			ネットワークデザイン	Network Design	2			2			
			ソフトウェア工学特論	Advanced Software Engineering	2			2			
			アルゴリズム特論	Algorithm	2		2				
			インターンシップⅡ	Internship Ⅱ	2						
			小計	Subtotal	34					14単位以上修得 Must take 14 or more credits	
	専門展開科目開設単位小計			Total of Credits Offered in Special Developed Subjects	58					38単位以上修得 Must take 38 or more credits	
専門科目開設単位小計				Total of Credits Offered in Specialized Subjects	106					54単位以上修得 Must take 54 or more credits	
全授業科目開設単位合計				Total of Credits Offered in all subjects	124						
修得単位合計				Total of Credits Completed	62単位以上 Must take 62 or more credits						

※１ 統計学，応用解析学，多変量解析及びアドバンストコンピューティングから２単位以上修得すること。
Must take 2 or more credits among Statistics, Applied Analysis, Multivariate Analysis and Advanced Computing.

※２ 本科電気工学科を卒業した者は，数値計算特論，ソフトコンピューティング特論，情報数学特論，信号画像処理Ⅰ，アドバンストプログラミング及びソフトウェアアーキテクチャから２単位以上修得すること。
Must take 2 or more credits among Advanced Numerical Calculation, Advanced Soft Computing, Advanced Mathematics for Information, Signal and Graphic Processing I, Advanced Programming and Software Architecture if graduated from the Department of Electrical Engineering in Regular Course.

※３ 本科情報工学科を卒業した者は，デバイス材料工学特論，機能デバイス工学から２単位以上修得すること。
Must take 2 or more credits among Advanced Device Material Engineering, Functional Device Engineering if graduated from the Department of Information Engineering in Regular Course.

※４ 品質工学，環境マネジメント，設計支援システムから２単位以上修得すること。
Must take 2 or more credits among Advanced Thermodynamics, Quality Engineering, Environmental Management, Design Supporting System.

※５ 本科情報工学科を卒業した者は，コンピュータ設計工学，制御工学特論，ロボティクス，設計支援システムから２単位以上修得すること。
Must take 2 or more credits among Computer Design Engineering, Advanced Control System, Robotics, Design Supporting System if graduated from the Department of Information Engineering in Regular Course.

32

（出典　学校要覧2016）

資料３－１－③－ ３

「専攻科非常勤講師」

専攻科科目を担当する非常勤講師

担当科目の括弧内の数は週毎の担当時間数（前期，後期）.

H28

氏名	本科担当科目	専攻科担当科目	職業・勤務先	備考
星野裕一		応用数学特論(2,0)	前 本校教員	専攻科共通科目
星野洋平		システム工学（集中講義15）	北見工業大学 准教授	専攻科共通科目

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－③－ ４

「学士の学位授与の特例適用の認定状況」

目　次

独立行政法人大学改革支援・学位授与機構認定

短期大学・高等専門学校専攻科一覧

まえがき

索　引…… 1

1　短期大学専攻科 …… 7

2　高等専門学校専攻科 …… 54

3　学生の募集を停止している専攻 ……113

認定専攻科分野別一覧……116

廃止された認定専攻科一覧……121

認定が消滅した認定専攻科一覧……127

注）この冊子中，「国」あるいは「国立」とある短期大学，高等専門学校については，短期大学は「国立大学法人〇〇〇〇（大学等の名称）」，高等専門学校は「独立行政法人国立高等専門学校機構」へと設置者が変わっていますが，これまでと同様の標記を用いています。

また，同様に「公」あるいは「公立」とある短期大学のうちの数校については，「公立大学法人〇〇〇〇（大学等の名称）」へと設置者が変わっていますが，これまでと同様の標記を用いています。

（次頁へ続く）

資料３－１－③－ ４（続き）

索　引

２．高等専門学校専攻科

区　分	名　　称	専　　攻	掲載ページ
国　立	はこだてこうぎょうこうとうせんもんがっこう 函館工業高等専門学校	生産システム工学専攻	54
	〃	環境システム工学専攻	54
	とまこまいこうぎょうこうとうせんもんがっこう 苫小牧工業高等専門学校	電子・生産システム工学専攻	55
	〃	環境システム工学専攻	55
	くしろこうぎょうこうとうせんもんがっこう 釧路工業高等専門学校	建設・生産システム工学専攻	56
	〃	電子情報システム工学専攻	56
	あさひかわこうぎょうこうとうせんもんがっこう 旭川工業高等専門学校	生産システム工学専攻	57
	〃	応用化学専攻	57
	はちのへこうぎょうこうとうせんもんがっこう 八戸工業高等専門学校	産業システム工学専攻	58
	いちのせきこうぎょうこうとうせんもんがっこう 一関工業高等専門学校	生産工学専攻	59
	〃	物質化学工学専攻	59
	せんだいこうとうせんもんがっこう 仙台高等専門学校	生産システムデザイン工学専攻	60
	〃	情報電子システム工学専攻	60
	あきたこうぎょうこうとうせんもんがっこう 秋田工業高等専門学校	生産システム工学専攻	61
	〃	環境システム工学専攻	61
	つるおかこうぎょうこうとうせんもんがっこう 鶴岡工業高等専門学校	生産システム工学専攻	62
	ふくしまこうぎょうこうとうせんもんがっこう 福島工業高等専門学校	産業技術システム工学専攻	63
	〃	ビジネスコミュニケーション学専攻	63
	いばらきこうぎょうこうとうせんもんがっこう 茨城工業高等専門学校	産業技術システムデザイン工学専攻	64
	おやまこうぎょうこうとうせんもんがっこう 小山工業高等専門学校	複合工学専攻	65
	ぐんまこうぎょうこうとうせんもんがっこう 群馬工業高等専門学校	生産システム工学専攻	66
	〃	環境工学専攻	66
	きさらづこうぎょうこうとうせんもんがっこう 木更津工業高等専門学校	機械・電子システム工学専攻	67
	〃	制御・情報システム工学専攻	67
	〃	環境建設工学専攻	67
	とうきょうこうぎょうこうとうせんもんがっこう 東京工業高等専門学校	機械情報システム工学専攻	68
	〃	電気電子工学専攻	68
	〃	物質工学専攻	68
	ながおかこうぎょうこうとうせんもんがっこう 長岡工業高等専門学校	電子機械システム工学専攻	69
	〃	物質工学専攻	69
	〃	環境都市工学専攻	69
	とやまこうとうせんもんがっこう 富山高等専門学校	エコデザイン工学専攻	70
	〃	制御情報システム工学専攻	70
	〃	国際ビジネス学専攻	70
	〃	海事システム工学専攻	70
	いしかわこうぎょうこうとうせんもんがっこう 石川工業高等専門学校	電子機械工学専攻	72
	〃	環境建設工学専攻	72
	ふくいこうぎょうこうとうせんもんがっこう 福井工業高等専門学校	生産システム工学専攻	73
	〃	環境システム工学専攻	73
	ながのこうぎょうこうとうせんもんがっこう 長野工業高等専門学校	生産環境システム専攻	74
	〃	電気情報システム専攻	74

- 3 -

（出典　平成 28 年度独立行政法人大学改革支援・学位授与機構認定
短期大学・高等専門学校専攻科一覧）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置が講じられているか。

（観点に係る状況）

専任教員の年齢構成及び性別構成を資料３－ １－ ④－ １～２に示す。年齢構成については，教員団に要求される幅広い業務へ継続的に対応できるよう，あらゆる年代をカバーしている。性別構成については，女性教員の割合は８％（76名中６名）であり，学生における女子の割合17％と比べて低いが，教員選考の際には資料３－ １－ ④－ ３に示す通り，女性の採用促進のための基準を設定している。また，資料３－ １－ ④－ ４に示す通り，女性を主な対象とするインターンシップを企画している。（ただし，応募者がなく，実行までには至っていない。）なお，新任教員の公募にあたっては，各部門・分野の長から校長に対して教員採用伺いを提出し，これを基に教員選考委員会において公募条件を決定している。

教員団の能力向上のため，新任教員の選考では，本校の目的である「後期中等教育に相当する年齢層の学生を対象とした実践的技術者の養成」に鑑みて，専門分野における学位・資格の所持，並びに教育・実務の経験を重視している。また，現役教員に対しては，資料３－ １－ ④－ ５に示す通り，校長裁量経費において研究活性化支援経費を設定し，学位取得を研究費の面で支援している。これらの施策の結果として，資料３－ １－ ④－ ６に示す通り，高専機構が定める数値目標（文系教員で修士以上80%，理系教員・専門教員で博士70%）を達成しつつある。理系・専門については，学位所持率は79％であり，すでに目標を達成している。文系については，現状では77％であり未達成であるが，近い将来に達成できる見込みもある。

教員団の勤務経験の多様性について，資料３－ １－ ④－ ７に示す通り，本校以外の機関での勤務経験を持つ教員は，延べ121名（159％）である。その内，他教育機関での常勤として教育経験を持つ教員は，一般教育部門では21名（78％），専門分野では12名（24％）である。また，民間企業での実務経験者を持つ教員は，専門分野で19名（39％）である。

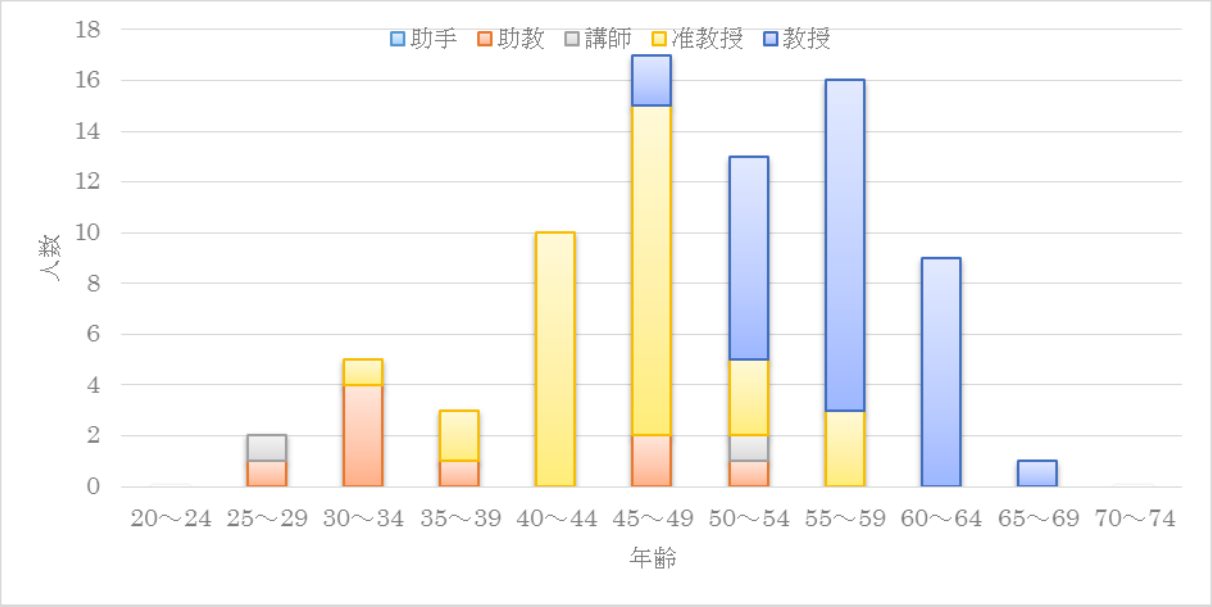
（分析結果とその根拠理由）

専任教員の年齢構成は，ほぼすべての年代をカバーしており，持続可能性のある均衡が保たれている。専任教員の女性の割合は，学生と比べて低いが，教員公募に際して男女比の適正化が図られている。学位等所持者数の向上促進について，着実に遂行されており，高専機構が定める数値目標が達成されつつある。また，教員団の勤務経験の多様性も確保されている。これらのことから，学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置は講じられている。

資料３－１－④－１

「専任教員の年齢構成」

H28.05.01



（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－ １－ ④－ ２

「専任教員の性別構成」

専任教員の性別構成

H28

	性別		
	男	女	計
教授	33	0	33
准教授	31	2	33
講師	1	1	2
助教	6	3	9
助手	0	0	0
合計	71	6	77

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－ １－ ④－ ３

「教員の公募について」

釧高専総第２９４号
平成２８年２月２５日

各関係機関の長　殿

釧路工業高等専門学校長
岸　　徳　光　［公印省略］

教員の公募について（依頼）

謹啓　時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。
さて，このたび本校では下記の要領で教員を公募することになりました。
つきましては，御多忙中のところ恐縮ですが，貴機関関係者へ御周知くださいますとともに，適任者の御推薦についてよろしくお願い申し上げます。

謹　白

記

１．公募人員　准教授または助教　１名
２．所　　属　機械工学科
（平成28年度の改組後は，創造工学科スマートメカニクスコース機械工学分野）
３．専門分野　機械力学分野（機械力学，振動工学）またはメカトロニクス分野
４．担当科目　本科　機械力学，振動工学，メカトロニクスⅠ，Ⅱの中から２科目程度
機械工学実験・実習，卒業研究
専攻科　構造解析またはコンピュータ設計工学，創造特別実験，特別研究等
５．応募資格　以下の条件を満たす方
①高等専門学校の教育に理解があり，学生の生活指導，課外活動指導などに深い理解を持ち，かつ研究にも熱意を持っている方
②博士の学位を有する方（着任時までに取得見込を含む）
③理論だけでなく実験やものづくり教育に積極的に取り組むことができる方
６．採用予定時期　平成28年6月1日以降の出来る限り早い時期
７．選考方法　第一次選考：書類審査　平成28年4月中旬
第二次選考：面接審査（第一次選考合格者）　平成28年4月下旬
※模擬講義を行います。
※面接に伴う旅費等は，応募者の負担となります。
最終選考・決　　定　平成28年4月下旬
※本校は男女共同参画を推進しており，「男女共同参画社会基本法」の趣旨に則り，業績及び人物の評価において同等と認められた場合は女性を採用します。
８．提出書類　①履歴書「写真貼付」（所定様式）
②著書・論文等一覧（第1号様式）（所定様式）
③著書・論文等の概要（第2号様式，主要なもの5編以内）（所定様式）
④主要著書・論文等の別刷（③に掲げたもの，複写可）
⑤「高等専門学校における教育，研究，学生指導等」に関する抱負（2,000字以内）
⑥推薦状もしくは自己推薦状（自己推薦の場合は，2名の照会可能な方の氏名・連絡先）
９．応募期限　平成28年3月31日（木）必着
１０．提　出　先　〒084-0916　釧路市大楽毛西2丁目32番1号
釧路工業高等専門学校総務課人事・給与係（TEL 0154-57-7205（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ））
提出方法は「送付」または「持参」とし，「送付」の場合は封筒に「機械工学科教員公募」と明記の上，簡易書留以上の定形外郵便，ゆうパック及び宅配便等，配達状況の確認できる方法により送付してください。
（※原則として提出された書類は返却いたしません）
１１．問合わせ先　釧路工業高等専門学校　機械工学科長　樋口　泉
E-mail ：higuchi@kushiro-ct.ac.jp　TEL 0154-57-7295（ﾀﾞｲﾔﾙｲﾝ）
１２．そ　の　他　※カリキュラム等の詳細については，本校ホームページを御覧ください。
※提出書類中の①，②，③の様式は，本校ホームページからダウンロードして下さい。

（出典　総務課作成資料）

資料３－ １－ ④－ ４

「インターンシップ参加者募集の案内」

平成２８年度釧路高専教員職体験インターンシップ
参加者募集のご案内

国立高等専門学校機構では，科学技術分野での男女共同参画を進めるため，様々な取組をしています。その一環として女性教員比率の向上を図るため，特に新規採用教員に占める女性の比率を専門学科２０％以上，全体で３０％以上とすることを目標としています。

本校においては，高専教員職についての情報発信や，研究職希望の方（特に女性）の進路としての高専教員職へ興味を持っていただけるよう，高専教員職体験インターンシップを実施いたします。

下記のとおり参加者を募集しますので，皆さんからのご応募をお待ちしております。

■応募要項

●対象者	ポストドクターの方，大学院博士課程（修士含む）在学生，博士号を持つ社会人の方
●日程	原則として平成 28 年 10 月 3 日(月)～平成 28 年 11 月 30 日(水)（土日祝日除く） 他の日程（平成 28 年 12 月以降）を希望される場合は，下記の問い合わせ先にご相談ください
●日数	上記期間内の 3 日間～5 日間（連続でなくてもかまいません）
●時間	8 時 30 分～16 時 30 分（休憩 45 分を含みます） （但し，クラブ活動・寮当直見学日は時間を延長することがあります）
●募集人数	釧路工業高等専門学校の一般教育部門及び専門分野（情報工学，機械工学，電気工学，電子工学，建築学）　原則として各１名 なお，応募者が複数名いた場合，分野状況を考慮の上対応させていただきます
●体験内容	□授業・実験の見学 □クラブ活動及び寮当直の見学 □講義体験 □その他教員職体験インターンシップに有用であると認められた内容
●交通費	支給無
●食費	支給無
●宿泊	必要な場合，各自で手配してください
●作業服	体験内容により必要時は上着のみ貸与します
●保険	体験時の事故が補償範囲となるものに各自で必ず加入してください （インターンシップ保険　等）
●応募方法	参加申込書を本校ＨＰよりダウンロード・記入の上，郵送してください （URL：http://www.kushiro-ct.ac.jp/danjo/ ）
●郵送先	〒084-0916　北海道釧路市大楽毛西 2 丁目 32 番 1 号 釧路工業高等専門学校　総務課人事・給与係　宛 （「インターンシップ参加申込」と朱書きしてください）
●応募期間	平成 28 年 8 月 22 日（月）～9 月 9 日（金） ※9 月 9 日の消印を有効とする

●問い合わせ	釧路工業高等専門学校　総務課人事・給与係 TEL：0154-57-7205（担当直通） （電話での問い合わせは，平日 8:30～17:00 にお願いいたします） E-mail：jinji@office.kushiro-ct.ac.jp

（出典　総務課作成資料）

資料３－１－④－５

「校長裁量経費取扱要項（抜粋）」

○校長裁量経費取扱要項

（平成13年６月25日　校長裁定）

改正　平成14．7.10　平成21．8.27
平成22．6.24　平成23．4.14
平成26．5.15

校長裁量経費は、本校の教育方法等改善及び研究活性化並びに教育環境等の充実を図るために予算措置するものであり、その取り扱いについては、以下のとおりとする。

１．経費の目的

教育研究の重点課題等の支援及び校長のリーダーシップが発揮できるようにする。

２．経費の種類

校長裁量経費の区分については、以下のとおりとする。

（１）教員教育研究経費

①基幹経費（教育、研究に係る基盤経費、旅費等）

・常勤教員（15万円）

・再雇用教員（7万5千円）

②科学研究費申請加算（5万円）

③専攻科学生に対する教育支援経費（3万円）

④新任教員教育研究環境等充実費（30万円）

⑤本校教育業績賞の前年度受賞者への教育・研究経費支援（10万円）

（２）重点配分プロジェクト経費

①教育方法等改善支援経費（申請上限額50万円）

・教員個人の教育方法の改善・教材開発に支援する。

・学校・学科全体、あるいは学年、教育科目毎等、共同改善を優先する。

・本校のグローバル化促進の取組についても考慮する。

・リメディアル教育に関する教材開発の支援を含む。

②研究活性化支援経費

(ｱ) 教員の研究活動のより一層の活性化への支援（申請上限額50万円）

・2 名以上の共同研究、学科の垣根を越えた共同研究、他機関との共同研究を優先する。

(ｲ) 学位等取得の支援（申請上限額20万円）

・1 教員につき1 回限りとする。

(ｳ) その他、教育研究及び学生指導等に係る経費の支援（申請上限額50万円）

③研究成果公開促進費

研究成果を学会誌に投稿する際の投稿料又は別刷り料の支援

・申請者が筆頭著者であること。

・申請者は、本校教員及び教育研究支援センター職員とする。

・査読付き論文誌に掲載が決定された論文（オリジナル論文、速報論文、Note、Letterを含むが、紀要、総説や解説は含めない）を対象とする。

・国内学会誌（5万円）、外国雑誌（10万円）

④学校公開活動費

（出典　本校規程）

資料３－１－④－６

「専任教員の学位所持状況」

専任教員の学位所持状況

複数所持の場合，最上位のみ計上.

H28

		在籍	学位		
			博士	修士	計
一般科目担当教員	一般教育部門理系	14	8	4	12
	一般教育部門文系	13	1	9	10
	小計	27	9	13	22
専門科目担当教員	情報工学分野	10	8	2	10
	機械工学分野	9	7	2	9
	電気工学分野	10	9		9
	電子工学分野	10	9		9
	建築学分野	10	8	1	9
	小計	49	41	5	46
合計		76	50	18	68

（出典　本自己評価のための作成資料）

資料３－１－④－７

「専任教員の他機関勤務経験」

専任教員の他機関勤務経験

各機関のaは常勤，bは非常勤，cはその他（学振・内地・外地研究員等）.

H28

		在籍	他機関勤務経験												
			高等教育機関				中等教育機関			研究機関				民間企業	合計（延数）
			a	b	c	小計	a	b	小計	a	b	c	小計	a	
一般科目担当教員	一般教育部門理系	14	4	8	4	16	5	4	9	1	2	2	5		30
	一般教育部門文系	13	2	9		11	10	2	12				0	1	24
	小計	27	6	17	4	27	15	6	21	1	2	2	5	1	54
専門科目担当教員	情報工学分野	10	1	5	4	10			0				0	2	12
	機械工学分野	9	2	5	1	8	1	1	2		1		1	4	15
	電気工学分野	10	2	3	3	8		1	1	1		1	2	4	15
	電子工学分野	10	2	3	2	7			0	1			1	5	13
	建築学分野	10	4	2	1	7			0			1	1	4	12
	小計	49	11	18	11	40	1	2	3	2	1	2	5	19	67
合計（延数）		76	17	35	15	67	16	8	24	3	3	4	10	20	121

（出典　本自己評価のための作成資料）

観点３－２－①：　全教員の活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に関わる状況）

本校では，平成 23 年度に校長個人面談実施要項（資料３－２－①－１）を策定し，校長による教員の個人面談を制度化した。これに従い，校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，定期的に個人懇談を行うシステムがあり，その結果は，校長がまとめ保管される（資料３－２－①－２）。

本校では，国立高等専門学校機構の教員顕彰制度に準じて，教員の自己評価・自己申告による教員研究活動の実績調査を行い，これを基に優秀教員を推薦し多くの受賞実績がある（資料３－２－①－３）。平成 22 年度から「ファクトデータシステム」による教育研究活動実績記録（資料３－２－①－４）を行っており，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰・把握できる体制が整備されている。これらは前述の国立高等専門学校機構の教員顕彰への推薦や，本校独自の教育業績賞選考に活用されている。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，平成 23 年度に策定された校長個人面談実施要項に基づき，校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，定期的に個人懇談を行うシステムがある。また，平成 22 年度から「ファクトデータシステム」により，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰・把握できる体制が整備され，校長による教員の個人面談に活用され，国立高等専門学校機構の教員顕彰への推薦や，本校独自の教育業績賞選考に活用されている。

以上のことから，全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われている。その結果把握された事項に対して教育組織の見直し等，適切な取組がなされている。

資料３－ ２－ ①－ １

釧路工業高等専門学校校長個人面談実施要項

（平成 23年5月19日校長裁定）

（目 的）

第1条 この要項は，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育理念及び教育目標の共通理解を深めるとともに，職場環境の向上に資することを目的として実施する校長個人面談（以下「面談」という。）に関し，必要な事項を定める。

（対 象）

第2条 面談対象者は，本校の常勤教員とする。ただし，再雇用者を除く 。

（実施時期等）

第3条 面談は，毎年1回実施し，その時期は校長が定める。

（面談の内容等）

第4条 面談の内容は，各教員の教育研究等の目標及び成果に関することとする。

2 前項の規定にかかわらず，必要に応じ，校長は面談の内容を変更することができる。

3 校長は，面談で知り得た個人的な事項については，その秘密を保持するものとする。

（事 務）

第5条 面談

日程の調整等の事務は，総務課において処理する。

（雑 則）

第6条 この要項に定めるもののほか，面談の実施に関し必要な事項は，校長が別に定める。

附 則

この要項は，平成23年5月19日から施行する。

（出典　釧路高専規程）

資料３－ ２－ ①－ ２

面　談　票

氏　名		所　属	

校務分掌	

※　担当する役職（主事や学科長等）により，自動的に各種委員会の構成員となっている場合，当該委員会については校務分掌に含めないこと。

担当教育科目

開講期	科　目　名	学年・学科等	開講期	科　目　名	学年・学科等

顧問クラブ名	

業務負担	

（ 1：少ない 2：やや少ない 3：適度 4：やや多い 5：多い ）

現在取り組んでいること（教育・研究・学生指導・管理運営）

取組の成果（または今後見込まれる成果）

自由記述（思っていることなどをご記入ください）

面談を希望する日時・曜日・時間帯等について

（以下，校長所見欄）

・

（出典　総務課作成資料）

資料３－ ２－ ①－ ３

釧路工業高等専門学校教育業績賞実施要項

（平成 14 年 10 月８日 校長裁定）

改正 平成 16. 4. 1 校長裁定 平成 19. 4. 26 釧高専達第 29 号平成 27. 1. 23 校長裁定

（趣旨）

第１条 この要項は，釧路工業高等専門学校において，教育上特に顕著な功績のあった者に対し，教育業績賞を授与する場合の必要事項を定めるものとする。

（被表彰者の選考方法）

第２条 被表彰者の選考は，独立行政法人国立高等専門学校機構が実施する教員顕彰制度における候補者選考経過のほか校長が必要と認める事項を総合的に勘案し校長が行うものとする。

（表彰の日）

第３条 表彰は，毎年その都度校長が定める日に行うものとする。

（表彰状の授与）

第４条 表彰は，校長が被表彰者に表彰状（別紙様式）を授与することにより行う。

（庶務）

第５条 表彰に関する事務は，総務課人事・給与係において処理する。

附 則

この要項は，平成 14 年 10 月８日から実施する。

附 則

この要項は，平成 16 年４月１日から実施する。

附 則（平成 19. ４. 26 釧高専達第 29 号）

この要項は，平成 19 年４月 26 日から施行し，平成 19 年４月１日から適用する。

附 則

この要項は，平成 27 年１月 23 日から実施する。

（出典　釧路高専規程）

資料３－ ２－ ①－ ３（続き）

○釧路高専教育業績賞の被表彰者について

根拠規程：教育業績賞実施要項（H14.10.8 校長裁定）

選考方法：同要項第２条により、
「被表彰者の選考は、次に掲げる事項を総合的に勘案し校長が行うものとする。
　イ 独立行政法人国立高等専門学校機構（※）が実施する教員顕彰制度における候補者選考経過
　ロ 教育研究重点経費配分審査における教育貢献度評価
　（※･･･法人化前は国立高等専門学校協会）
表彰状等の授与：
　表彰状及び教育・研究経費支給（１０万円）
　（※校長裁量経費取扱要項　（１）教員教育研究経費　⑤本校教育業績賞の前年度受賞者への教育・研究経費支給（１０万円）　H26.5.15 改正）

過去の被表彰者：該当条項は要項第２条イ（平成 14～23 年度）

年度（表彰日）	釧路高専教育業績賞被表彰者	参考：教員顕彰制度	
		本校候補者	受賞者
平成 27 年度（H28.3.11）	小松正明	小松正明	なし
平成 26 年度（H27.2.2）	三森敏司	三森敏司	なし
平成 25 年度（H26.2.3）	小田島 本有	小田島 本有，林 裕樹	なし
平成 24 年度（H24.12.21）	草苅 敏夫，林 裕樹	草苅 敏夫，林 裕樹	なし
平成 23 年度	浦家 淳博	浦家 淳博，松﨑 俊明	なし
平成 22 年度	荒井 誠，森 太郎	荒井 誠，森 太郎	荒井 誠（機構理事長賞）
平成 21 年度	舘下 徹志，松﨑 俊明	舘下 徹志，松﨑 俊明	なし
平成 20 年度	なし	小田島 本有	小田島 本有（特別賞）
平成 19 年度	なし	小田島 本有	なし
平成 18 年度	なし	小田島 本有	なし
平成 17 年度(H18.1.25)	小田島 本有	小田島 本有	なし
平成 16 年度(H17.1.26)（法人化）	三島 利紀	三島 利紀	三島 利紀（文部科学大臣賞）
平成 15 年度(H15.11.28)	荒井 誠	荒井 誠	なし
平成 14 年度(H14.10.28)	坂口 直志	坂口 直志	国専協奨励賞

（※18～20 年度は、要項第 2 条イに該当する者が小田島教授であり、17 年度に表彰済であるため被表彰者なしとなったもの）

※平成 22 年度の荒井教授の授賞については，平成 15 年度に表彰済であるが，教員顕彰制度が機構の実施するものとなる以前の表彰であることなどの理由を校長が総合的に勘案し，今回の被表彰者として選考した。
※平成 23 年度の表彰について，松﨑准教授は平成 21 年度に表彰済であるため，選考しなかった。
※平成 25 年度の小田島教授の受賞については，前回受賞から概ね５年を経過した者は受賞対象とする旨の校長判断によるもの。

（出典　総務課作成資料）

資料３－ ２－ ①－ ４

「ファクトデータ入力依頼を示す資料」

平成 27 年 10 月 16 日

教員各位

総務課長

ファクトデータファイルの入力依頼について

標記の件，例年お願いしておりますが，先生方の教育・研究・社会貢献に係るファクトデータについて，下記のとおりデータ入力をお願いいたします。

なお，当該ファクトデータファイルへの入力内容については，学外からの各種審査・評価の際の基礎資料としての利用やウェブサイトへ公開する「教育研究社会貢献情報」への利用の他，「国立高等専門学校教員顕彰」（人事・給与係担当）や「研究紀要作成」（図書係担当）のためにも利用されることとなります。

記

１．過去に入力されたことがある先生については，前回入力後に発生した新たに追加すべき事項を入力願います。4 月からの新任の先生，まだ入力されたことがない先生については，お手数ですが，全項目について入力願います。

＜設定されている項目を参考までに記載します＞

●[1/4]
略歴(ア)学歴・資格，(イ)学位，(ウ)職歴，(エ)高専教員歴，(オ)受賞歴

●[2/4]
役職(ア)担任歴，(イ)主事等の役職歴，(ウ)その他特筆すべき役職歴，(エ)部・同好会担当歴
授業の担当状況

●[3/4]
教育・研究著書・論文
留学研究・研修（内部留学・外国留学）
研究指導発表

●{4/4]
外部資金等獲得状況
社会貢献・地域貢献

２．「ファクトデータ」入力フォーマットは，内部向けホームページの
総務係「お知らせ」ページにございます。
http://www.office.kushiro-ct.ac.jp/office2/kyosyoku/shomu/tuuti.html

※記入要項（記入の仕方）についても上記に PDF で掲載しています。

３．入力期限：１０月３０日（金）を目安とします。
（※既述のとおり，「教員顕彰」等にも利用されるため）
なお，それ以降に発生した事項については随時入力可能です。

４．新たに入力した項目を上側に追加表示されるようにできないかというご意見がありましたが，【追加空白行数設定】による行は下に追加されていきますのでご了承ください。

（出典　総務課資料お）

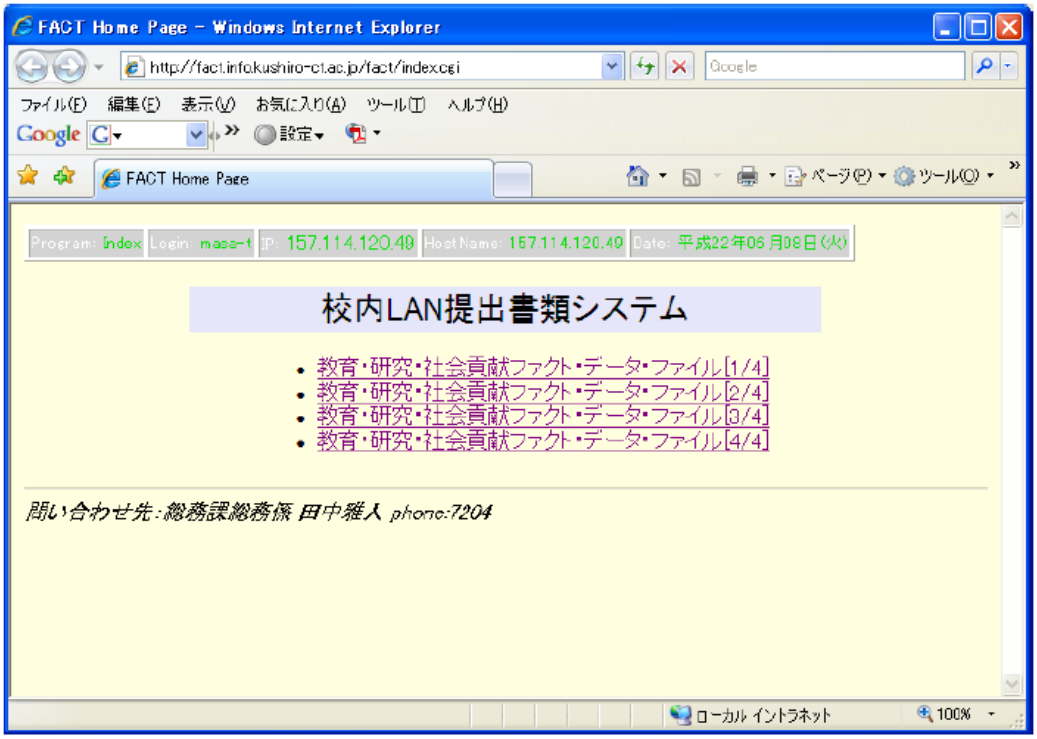
資料３－ ２－ ①－ ４（続き）

「ファクトデータファイルの記入」

教育・研究・社会貢献ファクト・データ・ファイル
記入要項

ファクト・データ・ファイルの URL（ http://fact.info.kushiro-ct.ac.jp/fact/ ）にアクセスすると，図１の画面に移ります。

（図１）



次ページから，「教育・研究・社会貢献ファクト・データ・ファイル」の〔1/4〕から〔4/4〕までの各項目について，それぞれの記入方法を説明します。
なお，各項目におけるデータの内容は下記の通りです。

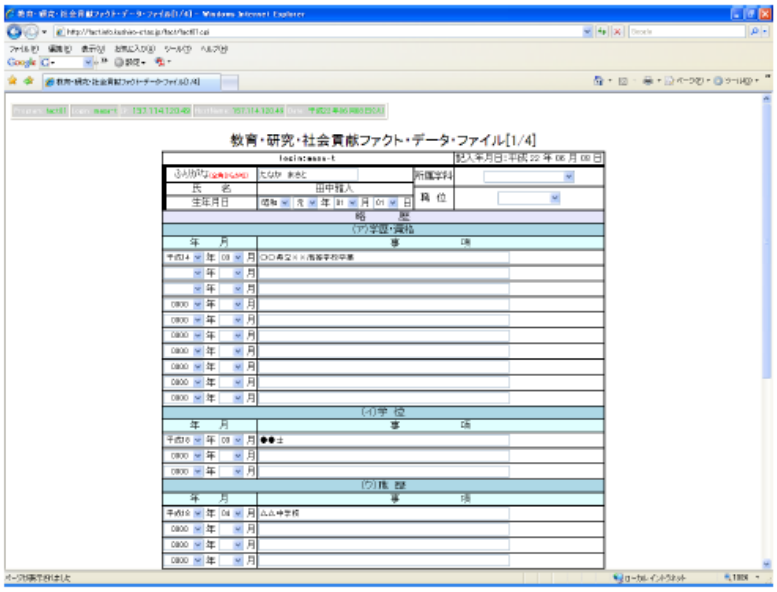
〔1/4〕：略歴（学歴，資格，職歴など）
〔2/4〕：役職（担任歴，主事等の役職歴，部活動顧問の担当歴など），授業の担当状況
〔3/4〕：教育，研究著書，論文などの執筆概要
〔4/4〕：外部資金（科学研究費，共同研究費など）獲得状況，社会貢献・地域貢献（公開講座，チャレンジ！ジュニアラボ（平成 25 年度までは，こども開放プラン），出前授業などの担当状況）

資料３－ ２－ ①－ ４（続き）

「教育・研究・社会貢献ファクト・データ・ファイル〔1/4〕」

１．「教育・研究・社会貢献ファクト・データ・ファイル〔1/4〕」（以下「〔1/4〕」）をクリックしてください。図２の画面へ移ります。

（図２）



２．〔1/4〕の画面に表示されている表について，下記のとおり選択・記入してください。

○上部にある「ふりがな」，「生年月日」，「所属学科」及び「職位」欄へそれぞれ選択・記入してください。

○略歴（記入該当期間：全期間）

（ア）学歴・資格：学歴の場合は「年月」に卒業または修了した年月を，「事項」に学歴の内容をそれぞれ選択・記入してください。資格（教員免許，技術士など）の場合は，「年月」に資格の取得年月を，「事項」に資格の内容をそれぞれ記入してください。

（イ）学位：「年月」に学位を取得した年月を，「事項」に学位の内容をそれぞれ選択・記入してください。

（ウ）職歴：「年月」に職歴を<u>開始した</u>年月を，「事項」に職歴の内容及び<u>終了した</u>年月をそれぞれ選択・記入してください。

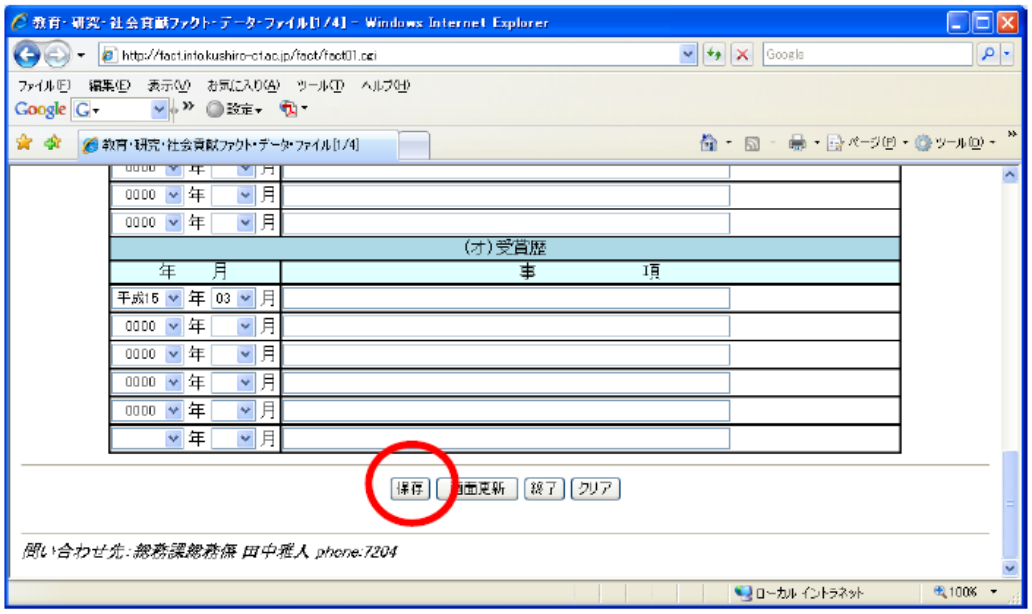
（エ）高専教員歴：「年月」に各教員歴を<u>開始した</u>年月を，「事項」に教員歴の内容及び<u>終了した</u>年月をそれぞれ選択・記入してください。他高専での教員歴もこちらの項目へ選択・記入してください。

（オ）受賞歴：「年月」に賞を受賞した年月を，「事項」に賞の概要をそれぞれ選択・記入してください。

資料３－ ２－ ①－ ４（続き）

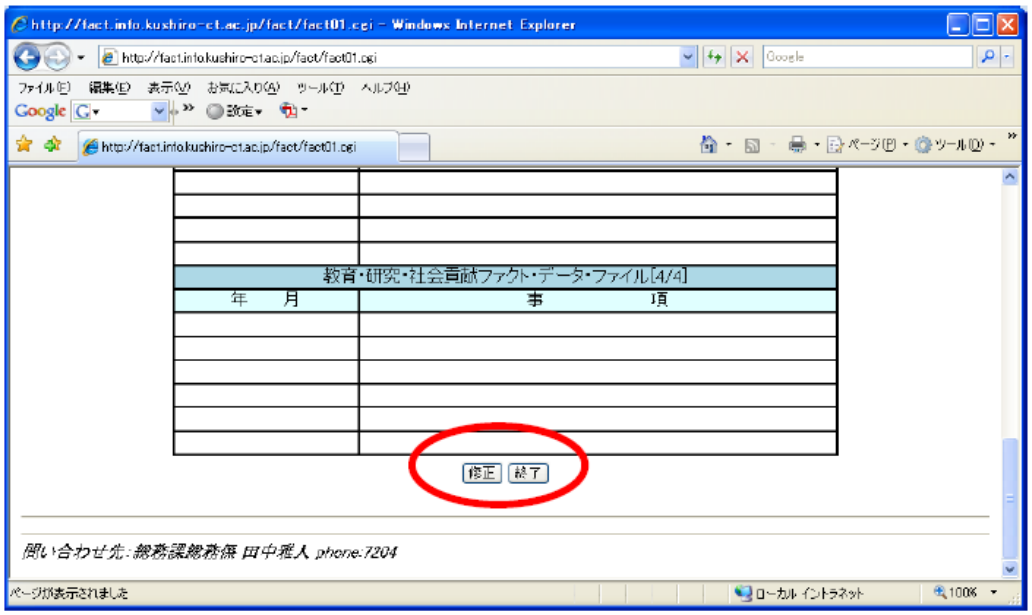
３．データを入力したら，ページの一番下にある「保存」をクリックしてください（図３）。

（図３）



４．「保存」をクリック後，画面が図４へ移りますので，内容を確認した上で，訂正事項がなければ一番下の右側の「終了」をクリックし，〔1/4〕記入作業は完了です。なお，訂正事項があれば左側の「修正」をクリックし，図２へ戻って記入し直して下さい。

（図４）



（出典　ファクトデータ入力記入要項）

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に関わる状況）

本校では，専任教員の採用・昇格の選考手続きについて規定を定めている（資料３－２－②－１）。さらに，平成 16 年には教員選考基準を定め教員採用・昇格のための評価項目その他評価基準を明確化した（資料３－２－②－２）。

専任教員の採用選考は以下のように行われる。

各学科において教員公募の必要があるとき，学科長は公募理由，学科としての将来計画，公募要件等を作成して校長に提出し，校長が公募の必要ありと判断した場合，教員選考委員会（資料３－２－②－３，４）が設置される。当委員会において公募の必要性の確認，公募要件の妥当性等について審議する。公募（前掲資料３－１－④－３）の後，応募者に対して，一次選考として書類審査により選考基準との適合性を審査し選考する（資料３－２－②－５）。二次選考では本人面接及び模擬講義の実施によって教育指導能力，学生指導能力等の確認を行う。すなわち，研究実績だけでなく，教育指導能力，学生指導能力等を含む本校教員としての適格性を総合的に判定する。

教員の昇格においては，採用公募と同様，学科長が昇格させる理由，昇格後の業務計画などを作成し校長に提出する。校長が昇格の必要ありと判断した場合，教員選考委員会が設置され，当委員会は採用の場合と同様に能力評価を行う。これらの結果と，候補者自身が作成する各能力に関する自己評価等の資料（資料３－２－①－６）と合わせて当委員会で審議し，決定する。

非常勤講師の採用についても規定がある（資料３－２－②－７）。教務委員会の下に置かれる次年度授業計画会議において非常勤講師の採用について審議し，校長に上申し，高専設置基準上の資格の有無および教育指導能力の有無を校長が判定し採用を決定する。

（分析結果とその根拠理由）

本校では，専任教員の採用・昇格の選考手続きについて規定を定めている。さらに，平成 16 年には教員選考基準を定め教員採用・昇格のための評価項目その他評価基準を明確化した。専任教員の採用選考，教員の昇格ともに上記規定に従って教員選考委員会により審議決定される。また，非常勤講師の採用に関しても設置基準や教育目標に沿った教育能力の有無により校長が判定する。

以上のことから，教員の採用や昇格等に関する基準や規定が明確に定められ，適切に運用がなされている。

資料３－ ２－ ②－ １

釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて

（平成 13 年9月 10 日校長裁定）

改正　平成 19 年2月 23 日釧高専達第7号　平成 19 年4月 26 日釧高専達第 28 号

平成 21 年9月 18 日校長裁定　平成 23 年4月 14 日校長裁定

本校の教員（教授，准教授，講師，助教及び助手をいう。）の採用又は昇任（以下「採用等」という。）の選考（他の学科及び一般教育科（以下「学科等」という。）から異動させる場合を含む。）は，次により行うものとする。

1　各学科等において，教員の採用等を必要と認めたときは，当該学科長が校長に申し出るものとする。

2　校長は，上記の申し出がありこれを必要と認めたとき又は教育研究上特に必要があると認めたときは，教員選考委員会を設置する。

3　教員選考委員会は，次の業務を行う。

（1）候補者の審査

（2）公募の内容

（3）欠員に対応する学内関連異動の有無の検討（欠員とは，退職時によるもののほか，上位職に空きがある場合も含む。）

4　教員選考委員会は，次に掲げる者をもって組織する。

（1）校長

（2）副校長

（3）教務主事，学生主事及び寮務主事

（4）当該学科長

（5）事務部長

（6）校長が必要と認める者　若干名

5　教員選考委員会は，校長が招集し，議長となる。

6　教員選考委員会は，当該業務の終了をもって解散する。

7　教員の採用等の選考は，教員選考委員会の議及び面接結果に基づき，校長が行う。

8　欠員補充の採用等（学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動は除く。）は，原則として公募によるものとする。

9　学科長は，公募にあたっては，公募職，専門分野，担当科目及び資格条件の設定を行い，　教員選考委員会の承認を受けなければならない。

10　公募に必要な書類は，次に掲げるものとする。

（1）履歴書（写真貼付）

（2）著書・論文等一覧（第１号様式）

（3）著書・論文等の概要（第２号様式，主要なもの５編以内）

（4）主要著書・論文の別刷（(3)に掲げたもの，複製可）

資料３－ ２－ ②－ １（続き）

(5)教育，学生指導の実績(企業からの採用者の場合は，社内教育等の実績)
(6)高等専門学校における教育，研究，学生指導等に関する抱負(2，000字以内)
(7)推薦状
(8)その他必要とする書類

11　公募の方法は，インターネット(国立情報学研究所「研究者公募情報」)によるほか，関連高等教育機関，企業及び学会誌等への依頼により行うものとする。

12　学科等からの昇任及び学科等間で昇任を伴わない異動をさせる場合は，教員選考個人調書(第3号様式)及び

10 (2)，(3)を提出させるものとする。

13　教員選考委員会及び公募に関する事務は，選考の対象となる学科長の協力を得て総務課人事・給与係において処理する。

附記

この裁定は，平成 13 年7月1日から適用する。

附記

この裁定は，平成 19 年2月 23 日から適用し，平成 19 年4月1日から施行する。

附記(平成 19. 4. 26 釧高専達第 28 号)

この裁定は，平成 19 年4月 26 日から施行し，平成 19 年4月1日から適用する。

附記(平成 21. 9. 18 校長裁定)

この裁定は，平成 21 年9月 18 日から施行する。

附記(平成 23. 4. 14 校長裁定)

この裁定は，平成23 年4月14日から施行し、平成23年4月1日から適用する。

(出典　釧路高専規程)

資料３－ ２－ ②－ ２

釧路工業高等専門学校教員選考基準

（平成 16 年 11 月 22 日校長裁定）

改正 平成 21 年 10 月 22 日校長裁定

第1．目的

この基準は，「釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて」（平成13年9月10日校長裁定）（以下「選考手続き」という。）第7項に定める教員選考に際し，必要な評価項目その他の基準を定めることを目的とする。

第2．選考の透明性，客観性

教員の選考は，この基準を明らかにして行うことによりその透明性を確保し，この基準に 則った選考の過程を記録し，保存（別紙様式）することにより説明責任を果たすとともに， その客観性の保持を図るものである。

第3．選考の方法

1．選考委員会は，応募者の提出資料，面接の結果等に基づき，第4に定める評価項目に ついて評価を行い選考するものとする。

2．第4に定める評価項目の評価は，各項目に示している観点例に着目して行うものとする。

第4．評価項目

1．教育能力

（1）「担当授業科目」に関して広く知識を有し，教育する能力を有すること。また，時代の要請により変化するカリキュラムへの対応も可能とする柔軟な思考力に基づき企画，実行する能力を有すること。

（2）学生の学習への思いやりや授業のスキル改善に対し，熱意をもっていること。

〔評価の観点例〕

①担当授業科目に関連し，作成した教科書・教材等

②担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等

③他の教育機関における教員としての経験

④高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想

⑤大学等における非常勤講師・助手は TA 等としての経験

⑥高専の設置目的・現状等に対する理解

⑦企業等における教育経験

⑧企業との連携による高専や大学での技術者教育への参画

⑨教育関係の表彰や受賞

⑩教育関係FDへの参画や参加

⑪教育関係学協会（日本工学教育協会等）への参加

⑫学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと。

⑬その他必要な事項

（以下略）

（出典　釧路高専規程）

資料３－ ２－ ②－ ３

第１回機械工学科教員（准教授または助教）選考委員会

日　　時　　平成２８年２月２４日（水）　１８：００

場　　所　　校長室

（議　題）

１．公募内容について

２．選考委員会等の日程について

３．その他

（配付資料）

●教員選考委員会の設置について　資料１
●教員の公募について　資料２
●機械工学科教員（准教授または助教）選考関係日程表　資料３
●教員選考関係資料（フラットファイル）

１．高等専門学校設置基準（抜粋）
２．釧路工業高等専門学校教員の選考手続きについて
３．釧路工業高等専門学校教員選考基準
４．○○学科教員選考資料
５．教員選考資料（候補者作成用）

（出典　第1回機械工学科教員選考委員会　配布資料）

資料３－ ２－ ②－ ４

教員選考委員会設置状況

委員会等名	設置年月日	発令予定日
機械工学科教員（准教授または助教）採用	平成28年2月24日	平成28年10月1日
一般教育科（数学）教員（教授）昇任	平成28年2月19日	平成28年4月1日
一般教育科（英語）教員（教授）昇任	平成28年2月19日	平成28年4月1日
一般教育科（数学）教員（准教授または助教）採用	平成28年2月18日	平成28年4月1日
一般教育科（数学）教員（准教授または講師）採用	平成28年1月26日	平成28年4月1日
情報工学科教員（教授）昇任	平成28年1月13日	平成28年4月1日
電気工学科教員（准教授）昇任	平成28年1月13日	平成28年4月1日
一般教育科理系（数学）教員（准教授または講師）採用	平成27年12月1日	平成28年4月1日
機械工学科教員（准教授または助教）採用	平成27年11月6日	平成28年4月1日
一般教育科理系（理科）教員（准教授）採用	平成27年11月2日	平成28年4月1日
一般教育科（数学）（准教授または助教）採用	平成27年2月10日	平成27年5月12日
電子工学科教員（准教授）昇任	平成26年12月8日	平成27年4月1日
建築学科教員（准教授または助教）採用	平成26年10月21日	平成27年4月1日
電子工学科教員（准教授または助教）採用	平成26年8月13日	平成27年4月1日
電子工学科教員（准教授または講師）採用	平成26年5月21日	平成27年4月1日
建築学科教員（准教授）昇任	平成25年11月21日	平成26年4月1日
情報工学科教員（講師）昇任	平成25年12月13日	平成26年4月1日
電子工学科教員（教授）昇任	平成25年12月13日	平成26年4月1日
電気工学科教員（助教）昇任	平成25年11月6日	平成26年4月1日
機械工学科教員（教授）昇任	平成25年12月5日	平成26年4月1日
情報工学科教員（准教授または助教）採用	平成25年10月9日	平成26年4月1日
一般教育科理系（数学）教員（准教授または講師）採用	平成25年10月25日	平成26年4月1日
電子工学科教員（助教）採用	平成25年10月25日	平成26年4月1日
電子工学科教員（准教授または講師）採用	平成25年10月25日	平成26年4月1日
電気工学科教員（助教）採用	平成25年4月11日	平成25年10月1日
電子工学科教員（講師）昇任	平成25年3月12日	平成25年4月1日
一般教育科文系（国語）教員（教授）昇任	平成25年3月5日	平成25年4月1日
機械工学科教員（准教授）昇任	平成25年2月27日	平成25年4月1日
電気工学科教員（教授）昇任	平成25年1月9日	平成25年4月1日
一般教育科理系（数学）（准教授）採用	平成25年1月9日	平成25年4月1日
電気工学科教員（准教授または助教）採用	平成24年10月29日	平成25年4月1日
機械工学科教員（准教授または助教）採用	平成24年9月26日	平成25年4月1日
電気工学科教員（教授）採用	平成24年7月25日	平成25年4月1日
機械工学科教員（教授または准教授）採用	平成24年3月13日	平成25年9月1日

（出典　総務課作成資料）

資料３－ ２－ ②－ ５

「教員選考資料」

番号	氏　名 生年月日 年　齢	主な職歴	学生指導歴	①最終学歴 ②学　位 ③所属学会 ④受　賞	専門分野	論文数	単著	推薦書の有無	応募資格			法令基準上の資格	高専における教育を担当するにふさわしい教育上の能力	高専の教育・研究、学生指導等に関する抱負	釧路高専教員選考基準にかかる評価項目						備考
									①	②	③				Ⅰ 選考に関する能力の評価				Ⅱ その他望ましい能力・条件等		
															1. 教育能力	2. 研究能力	3. 学生指導能力	4. 学校運営・社会貢献能力	1. 産業界のニーズ反映	2. 国際性	
1																					
2																					
3																					

（出典　釧路高専規程）

資料３－ ２－ ②－ ６

教員選考資料（候補者作成用）

候補者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

客観的評価に基づく選考の資料とするため、次の１～５について、該当する全ての○付番号とその自己評価又は自己ＰＲの内容を記載すること。（裏付け書類を添付すること。）

１．教育能力

①担当授業科目に関連し作成した教科書・教材等
②担当授業科目に関連した教育法・教授法の改善等に関する論文・研究発表等
③他の教育機関における教員としての経験
④高専における担当科目についての授業計画・内容についての構想
⑤大学等における非常勤講師・助手又はTA等としての経験
⑥高専の設置目的・現状等に対する理解
⑦企業等における教育経験
⑧企業等との連携による高専や大学での技術者教育への参画
⑨教育関係の表彰や受賞
⑩教育関係ＦＤへの参画や参加
⑪教育関係学協会（日本工学教育協会など）への参加
⑫学内の教育関係委員会等での経験，特に努力したこと
⑬補講・補習等への参画
⑭その他必要な事項

番号	自　己　評　価　又は　自　己　Ｐ　Ｒ	添付書類の有無

（以下略）

以下の項目

２．研究能力
３．学生指導能力
４．学校運営・社会貢献能力
５．その他の望ましい能力・条件等

（出典　総務課資料）

資料３－ ２－ ②－ ７

釧路工業高等専門学校非常勤講師任用に関する申し合わせ

平成 15. 11. 25　校長裁定

（趣旨）

1　釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における非常勤講師の任用については，教育効果の向上と人事管理等の適切な運用を行うため，この申し合わせによるものとする。

（任用範囲）

2　非常勤講師の任用にあたっては，依頼担当科目について学科等内での関連性・効率性等の要素を十分に検討考慮した上で，担当できる適任者がいない等，真にやむを得ない理由により必要と認められる場合に限るものとする。

（任用基準）

3　非常勤講師は，優れた識見を持ち，本校の教育目標及び方針に添った教育指導のできる者で，次の各号に該当するものとする。

（１）高等専門学校設置基準（昭和 36 年８月 30 日文部省令第 23 号）に定められた教員の資格（講師の資格以上）を有すること。

（２）年齢 70 歳未満（各年度の４月１日現在）であること。

（３）心身ともに健全であること。

（任用方法）

4　任用は専攻により行う。

（１）選考は，年度授業計画に基づき提出された任用候補者名簿の中から，校長が行う。

（２）任用候補者名簿は，教務主事が学科等主任の協力を得て作成するものとする。

（選考書類）

5　選考に必要な書類は，次に掲げるものとする。

（１）非常勤講師選考個人調書

（２）著書・論文等一覧

（３）その他必要と認める書類

（特例）

6　特別な事情により，この申し合わせにより難い場合は，校長は別段の取扱いをすることができる。

（事務）

7　事務は，庶務課人事係で処理する。

附記

この裁定は，平成 15 年 11 月 25 日から施行し，平成 16 年４月１日から適用する。

（出典　総務課資料）

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に関わる状況）

事務組織及び技術職員が配置されている教育研究支援センターの組織図を資料３－３－①－１，２に示す。現在，事務部長以下，事務職員が 33 名，技術職員は 11 名となっている（資料３－３－①－３）。本校では，事務組織及び事務分掌規則（資料３－３－①－４）が定められており，同規定第 13 条に学生の教育活動に直接関わる学生課の職員の職務が明確に示されている。

技術職員の業務に関しては，教育研究支援センター規定によって定められている。技術職員は，実験・実習，卒業研究などの授業を直接サポートしているほか，ネットワークの運用・管理にもあたっている（資料３－３－①－５）。

事務職員のうち図書係職員は，図書館の事務を担当し，司書資格を持つ者を配置している。

さらに，非常勤職員を 17 名配置し，教育活動の事務的補助及び実験室管理などの補助業務にあたっている（資料３－３－①－６）。

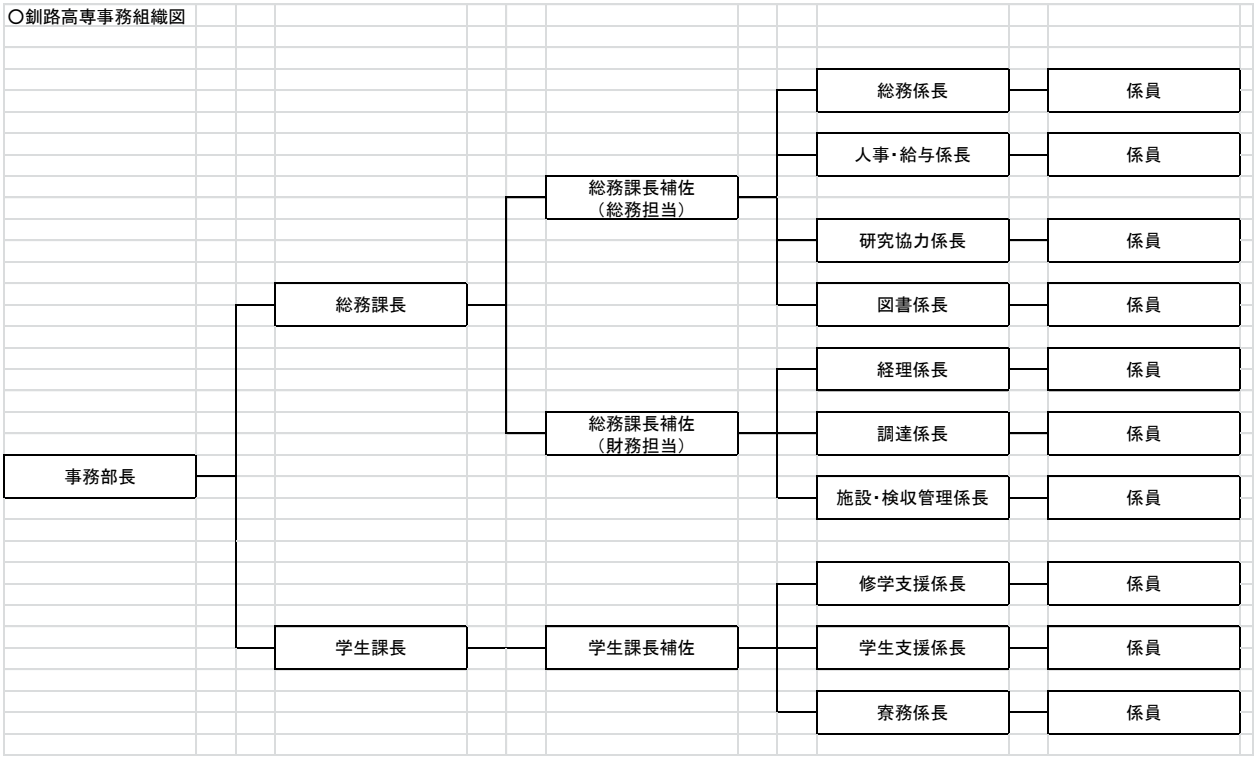
（分析結果とその根拠理由）

事務組織の現員は，事務部長以下，事務職員が 33 名，技術職員は 11 名となっている。本校では，事務組織及び事務分掌規則により，学生の教育活動に直接関わる学生課の職員の職務他，事務職員の職務が明確に定められている。技術職員の業務に関しては，教育研究支援センター規定によって定められており，実験・実習，卒業研究などの授業を直接サポートしているほか，ネットワークの運用・管理にもあたっている。また，図書係職員は，図書館の事務を担当し，司書資格を持つ者を配置おり。さらに，非常勤職員を 17 名配置し，教育活動の事務的補助及び実験室管理などの補助業務にあたっている。

以上のことから，学校における教育活動を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されている。

資料３－ ３－ ①－ １

○釧路高専事務組織図



（出典　総務課作成資料）

資料３－ ３－ ①－ ２

教育研究支援センター　Education and Research Support Center

■設置の目的　Objectives

本センターは，本校の教育研究活動等に対する支援業務を組織的かつ効率的に行うとともに，本センターに所属する職員の職務遂行に必要な能力及び資質の向上を図り，もって本校における教育研究活動等の支援業務を円滑に実施することを目的に設置されています。

The objectives of the Center are to support the educational and research activities in the College systematically and efficiently, and to improve each staff's ability and skills to perform the duties successfully, carrying out the support for the education and research in the college smoothly.

■業 務 内 容　Activities

（１） 学生の実験及び実習に関する支援
Supporting student's experiments and practices.

（２） 卒業研究，特別研究等に関する支援
Supporting graduation researches and advanced researches.

（３） 教育教材作成に関する支援
Supporting the preparation of educational matterials.

（４） 教員の教育研究活動に関する支援
Supporting teacher's educational and research activities.

（５） 学校行事（高専祭等）に関する支援
Supporting school events, such as the school festival.

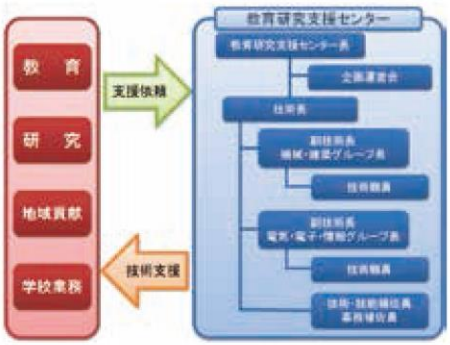
（６） 実験室等の共通利用機器等の保守・管理等に関する支援
Supporting the maintenance of machines and equipments in laboratries.

（７） 実習工場施設及び設備の管理運営等に関する支援
Supporting the administration of facilities and equipments in Factory.

（８） 情報処理センター運営等に関する支援
Supporting the operation of Information Processing Center.

（９） 公開講座，地域貢献及び産学連携等に関する支援
Supporting Extension Courses, the contribution to local industries and the cooperative businesses.

（10） その他必要な業務の支援
Supporting other business needed.



教育研究支援センターの組織図
Organization chart of Education and Reseach Support Center

青少年のための科学の祭典（釧路市こども遊学館）
Science Booths in Youngsters' Science Festival
(Kushiro Children's Museum Kodomo Yugakukan)

35

（出典　平成28年度学校要覧p. 35）

資料３－ ３－ ①－ ３

事務職員・技術職員の配置状況（平成28年5月1日現在）

事務部

			事務職員	技術職員	看護師	非常勤職員
事務部	事務部長		1			
	総務課	課長	1			
		課長補佐	2			
		総務係	3			1
		人事・給与係	2			
		研究協力係	2			1
		図書係	2			5
		経理係	3			
		調達係	2			
		施設・検収管理係	2			1
	学生課	課長	1			
		課長補佐	1			
		専門職員	1			
		学生支援係	2		1	1
		修学支援係	5			
		寮務係	2			3
計			32	0	1	12

※事務職員のうち1名は再雇用職員（PT）

教育研究支援センター

		教員	技術職員	再雇用職員（FT）	非常勤職員
教育研究支援センター	教育研究支援センター長	1			
	技術長		1		
	機械・建築グループ		4		5
	電気・電子・情報グループ		5	1	
計		1	10	1	5

※機械・建築グループ（機械・建築グループの外数）

（出典　総務課資料）

資料３－ ３－ ①－ ４

〇釧路工業高等専門学校事務組織及び事務分掌規則

（平成27年5月28日釧高専達第2号）

改正平成28年3月23日釧高専達第14号

第1章　総則

（目的）

第1条　この規則は，釧路工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第 11 条に基づき，釧路工業高等専門学校（以下「本校」という。）における事務組織及びその分掌に関し必要な事項を定めることを目的とする。

第2章　事務組織

（事務部の課）

第2条　事務部に次の2課を置く。

総務課

学生課

（課の係及び室）

第3条　総務課に次の各号に掲げる係を置く。

一　総務係

二　人事・給与係

三　研究協力係

四　図書係

五　経理係

六　調達係

七　施設・検収管理係

2　課に室を置くことができる。

第4条　学生課に次の各号に掲げる係を置く。

一　修学支援係

二　学生支援係

三　寮務係

（中略）

資料３－ ３－ ①－ ４（続き）

（学生課）

第13条　学生課においては，次の各号に掲げる事務をつかさどる。

一　学生の修学指導に関すること。

二　教育課程の編成及び授業　に関すること。

三　入学者の選抜に関すること。

四　入試広報に関すること

五　学生の学籍及び学業成績の整理並びに記録に関すること。

六　日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定に関すること。

七　研究生，聴講生，科目等履修生及び外国人留学生に関すること。

八　学生の国際交流に関すること。

九　学生及び学生団体の指導並びに課外活動に関すること。

十　学生に対する奨学金，授業料の減免，猶予及び経済援助に関すること。

十一　福利施設の管理運営に関すること。

十二　学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。

十三　学生に対する就職指導及び就職あっせんに関すること。

十四　学生の賞罰に関すること。

十五　学生寮の管理運営に関すること。

十六　その他学生の教務，福利厚生及び寮務に関する事務を処理すること。

（以下略）

（出典　釧路高専規程）

資料３－ ３－ ①－ ５

「教育研究支援センター　業務予定表」

平成28年度前期　　教育研究支援センター　　業　務　予　定　表

		月	火	水	木	金
機械・建築グループ	技術長・グループ長 的野　卓司	工学実習実験Ⅱ 3M	工学実習実験Ⅰ 2M 卒業研究 5M 1・2K特別研究		卒業研究 5M 1・2K特別研究	工学実習実験Ⅲ 4M
	技術専門職員 石塚　和則	工学実習実験Ⅱ 3M CADCAM 4M	機械工学実習Ⅰ 2M 卒業研究 5M 1・2K特別研究		卒業研究 5M 1・2K特別研究	工学実習実験Ⅲ 4M
	技術職員 樋上　磨	機械工学実験・実習Ⅱ 3M	機械工学実習・実験Ⅰ 2M 卒業研究 5M		機械工学実習・実験Ⅳ 5M 卒業研究 5M	機械工学実習・実験Ⅲ 4M
	技術職員 江口　陽人	機械工学実習・実験Ⅰ	機械工学実習・実験Ⅱ 卒研		卒研	
	技術職員 吉田　周平	工学実験 4A 測量学 5A	卒業研究 5A	建築CAD 3A	卒業研究 5A	総合演習 5A
電気・電子・情報グループ	副技術長 村上　誠一	ネットワーク運用と管理（ユーザ管理、 ファイル管理、 ネットワーク機器の管理、 通信障害の対応、各種ネットワークサービスの運用と管理、セキュリテイの維持と管理、教育用システム管理他）				
	副技術長・グループ長 高坂　宜宏	計算機方式 5J コンピュータNWⅠ 3J UNIXリテラシ 2J H R 2J 清掃 3J	コンピュータNWⅡ 4J プログラミング言語Ⅱ 3J 卒業研究特別研究 5J・専攻科	情報工学実験Ⅲ 5J プログラミング言語Ⅰ 2J	UNIXリテラシ 2J 情報工学実験Ⅲ 5J 卒業研究特別研究 5J・専攻科	プログラミング言語Ⅱ 3J 情報工学実験Ⅱ 4J ネットワークデザイン 2S
	技術専門職員 小清水　誠	第1演 メカトロニクスⅡ 4M プログラム言語Ⅰ 3D	画像工学 5D 卒業研究 5MED	制御CAD 5M 電子計算機 2E 情報リテラシー 1-4	卒業研究 5MED	工業数学 5M CAE 5M プログラム言語Ⅱ 4D シーケンス制御 5EDJ
		第2演 電気設計 2E CAD/CAM 4M 放課後開放時間	情報リテラシー 1-2 放課後開放時間	建築CAD 3A 放課後開放時間	放課後開放時間	情報処理演習 2A 情報リテラシー 1-3 情報リテラシー 1-1 放課後開放時間
		ソフトウェア工学特論 2S 制御工学特論 1KS 創造特別実験Ⅱ 2KS 専3演	構造解析Ⅱ 2K 品質工学 1KS		機械制御工学概論 1K アドバンスドプログラミング 1KS	コンピュータ設計工学 1KS デジタルイメージ 2K
		機構本部情報基盤整備部会業務　語学演習室・電気工学科演習室・建築CAD室維持管理　及び　各種サービスの管理(ユーザー管理・認証管理・ファイルサーバーの管理・Webサービスの管理・その他)・セキュリティ管理・各障害対策・COC・関係業務				
	技術専門職員 二谷　聡志	データベース 5J	信号処理 5J 卒業研究 5J	情報工学演習 2J	プログラミング実験Ⅲ 4J 卒業研究 5J	人工知能 5EDJ 情報工学実験Ⅱ 4J
	技術職員 稲守　栄	工学実験Ⅱ 4E 電気工学実験Ⅴ 5E	卒業研究 5E		卒業研究 5E	電気工学実験Ⅰ 3E
	技術職員 横山　安弘	電子工学実験Ⅱ 3D	工学科題実験 4D 卒業研究 5D	創造工学 2D	電子工学実験Ⅳ 4D 卒業研究 5D	電子工学実験Ⅱ 3D 電子工学実験Ⅳ 4D 回路設計基礎 2D 計測システム 5EDJ
技術・技能補佐員、事務補佐員	技能補佐員（化学） 兼田　友紀 9:15～14:00	2D	2A	2M	2J	2E
		①1.2年の化学の授業に使用する教材・資料の印刷、複写及び整理。②帳簿・薬品の書類作成・整理・事務補助全般。③実験室の施設、器具及び薬品の点検と整理。 ④演示実験教材の作成補助、準備・後片付け。⑤2年生の化学実験の準備（薬品調合、実験器具の作成を含む）、実験中の安全管理及び指導補助、後片付け等				
	技術補佐員（物理） 川内　永子 8:40～14:25	①授業の準備・物理実験における準備・実験に関する後片付けと掃除　②実験室の整理及び備品の維持管理　③印刷・複写　④パソコンによる実験データの入力 ⑤物品発注・実験室利用シート作成　⑥出前授業に関する準備　⑦エンジニアクラブ作業準備 ⑧その他の事務補助				
	事務補佐員（電気） 野坂　梢 9:30～16:15	実験指導書・試験問題等の印刷、製本及び各種保存資料の整理、管理　就職関連資料の整理と一覧資料作成、学生閲覧用資料の整理と管理、学科打合せ等の資料作成整理 学科の研究・実験用施設設備等の整理と管理　各実験室の清掃と整理整頓卒業関係・各種発表会資料の印刷と準備片付け				
	事務補佐員（電子） 細貝　洋子 9：30～16：15	授業および実験の準備、片付けの手伝い、補習・自学自習用資料等の印刷、管理。試験問題の印刷、管理、資料保管、答案の電子ファイル保存・分類、整理・保管管理。卒業研究資料に関する印刷、製本、管理およびコンタクト時間資料の分類、整理。就職関連の書類の受付、分類、パソコン入力等の資料管理。高専見学会、体験入学などの機材準備、資料準備、片付け。実験、研究で共用に用いる電子部品の仕分け整理、実験室の清掃。集中講義・特別講演などにおける日程調整、資料作成、保管。学科の事務に関わる備品の維持管理、消耗品等の経費作編に関わる円滑な運用。電子科独自の4・5年生を対象とした進路の手引き書の編集・作成、年度ごとの改定修正作業。公開講座、出前授業などの機材準備、資料準備、片付け。				
	事務補佐員（建築） 中尾由美子 8:30～15:15	建築学科内の雑用（物品発注・整理、学科教職員のコピー集計、授業の資料印刷、学科会議の準備、求人票の整理・HP入力・一覧の作成、郵便物の回収・発送手配、実習室の解錠および清掃、学科内部向けHPの加筆修正等 他） 同窓会事務局の仕事（会員の住所変更等の修正、郵便物の発送手配・回収 他） 学生課のお手伝い（求人情報の整理・HP入力、封詰め、アンケート集計 他）				
備　考						

※本科　M 機械工学科、E 電気工学科、D 電子工学科、J 情報工学科、A 建築学科、　専攻科　K 建設生産システム工学、S 電子情報システム工学

（出典　教育研究支援センター作成資料）

資料３－ ３－ ①－ ６

非常勤職員の配置状況（平成28年5月1日現在）

事務部

			非常勤職員	業務
事務部	総務課	総務係	1	事務補助
		研究協力係	1	事務補助
		図書係	5	カウンター業務（平日時間外，土日祝）
		施設・検収管理係	1	事務補助
	学生課	学生支援係	1	事務補助
		寮務係	3	事務補助・女子寮指導員
計			12	

教育研究支援センター

		非常勤職員	業務
教育研究支援センター	化学	1	実験補助
	物理	1	実験補助
	電気	1	授業準備補助等
	電子	1	授業準備補助等
	建築	1	授業準備補助等
計		5	

（出典　総務課資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

学位・資格の所持者について，高専機構が定める数値目標を達成しつつある。

教員採用や昇格の手続きが厳格になされている。

技術職員の教員，学生へのサポート体制が確立されている。

（改善を要する点）

女性教員の採用促進について，実効性のある施策を検討すべきである。

教員組織の活発化措置について，学位取得支援以外の施策も検討すべきである。

（３）基準３の自己評価の概要

本科の一般科目を担当する一般教育部門の教員組織は，専任教員27名と非常勤講師22名から構成されている。専任教員数は設置基準を上回っており，各教員の教育・研究分野並びに経験・資格はそれぞれが担当する授業科目に相応しいものとなっている。非常勤講師への依存度も限られている。

本科の専門科目を担当する専門分野の教員組織は，専任教員49名（内，教授・准教授39名）と非常勤講師３名から構成されている。専任教員数は設置基準を上回っており，各教員の教育・研究分野並びに経験・資格はそれぞれが担当する授業科目に相応しいものとなっている。また，各非常勤教員はそれぞれの分野の専門家であり，時代に即応した授業展開が図られている。

専門分野の専任教員については，８割以上が博士の学位を所持しており，外部機関での常勤としての教育・実務の経験者は約７割である。また，一般教育部門の専任教員については，約８割が修士・博士の学位を所持しており，約９割が他校での教育経験者である。専攻科では，こうした多様な属性をもつ教員が，本科での担当科目を基礎として，より精深な専門知識・技術に関する授業科目を担当している。

専任教員全体として，年齢構成については均衡が保たれており，性別構成については適正化が図られている。また，学位等所持者数については着実に向上している。

校長は全教員の教育・研究活動の目標や成果を把握・評価するために，校長個人面談実施要項に基づき，定期的に個人懇談を行っている。また，「ファクトデータシステム」による教育研究活動実績記録を行っており，校長が各教員について教育研究活動の状況全般を俯瞰・把握できる体制が整備され，国立高等専門学校機構の教員顕彰への推薦や本校独自の教育業績賞選考に活用されている。

専任教員の採用・昇格の選考手続きについては，教員選考基準が定められ，教員採用・昇格のための評価項目その他評価基準を明確化している。学科の要請に基づき，校長が教員公募，昇格の必要ありと判断した場合，教員選考委員会が設置され，当委員会で厳格に審議し決定する。

事務系職員については，現在，事務部長以下，事務職員が 33 名，そのうち技術職員は 11 名であり，事務組織及び事務分掌規則，教育研究支援センター規定によって，事務職員および技術職員の職務が明確に示されている。また，非常勤職員を 17 名配置し，教育活動の事務的補助及び実験室管理などの補助業務にあたっている。